

ICTの活用による学習成果の評価・活用に関する調査研究

地域の中核的な生涯学習機関における eポートフォリオ・eパスポート活用の 実証的研究報告書



地域eパスポート研究協議会

平成26年3月

はじめに

生涯学習・社会教育をとおした地域の教育力向上が求められているなか、富山県において生涯学習や社会教育を推進している富山県民生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会、ICTを活かした生涯学習を展開している富山インターネット市民塾の関係団体が連携・協力し、地域人材の育成と活用をどのように図ればいいのか研究してきた。一人ひとりの学習者が、自らの学習を振り返り、学習の質向上とさらなる学習意欲を喚起するためのeポートフォリオの開発、個々人の学習成果に社会的質保証を与え、学習成果を社会に活かす仕組みとしてのeパスポートの開発研究など、従来の生涯学習にICTの機能を最大限活かした新たな生涯学習振興モデルに関する実証研究である。

本年度は、これらの研究成果を活かし、学習意欲のある生涯学習人材が、地域課題解決に向け、活躍の場を広げられるようにするにはどのようにすればいいかについての研究を進めた。生涯学習を担う人材を、いかにして地域の市町村や公民館などの社会教育施設と連携を図りながら活用していくか、いかに意欲ある学習者の活動の場を確保していくかという問題である。いうなれば、学習者が自らの学習のみに満足せず、学習の成果を地域に活かす出番づくりの仕組みをICTの機能を活かして、どう実現するかという課題である。

生涯学習施設では、生涯学習人材データベースが開発され、数多くの人材が登録されている。しかしながら、そこでの登録情報は、ともすると学習履歴や活動実績などの文字情報が主で、学習成果を地域活動に活かしたいという学習者の熱い思いや活動の実体がなかなか伝えられていないのが現実である。

このような状況にあって、ICTの機能を活用することで、大きく2つの効果が期待できる。一つには、ネットワークには組織を横断的につなぐ機能が期待できる。生涯学習・社会教育施設は、ともすると、自らの組織の中に閉じてしまい、広く他の地域・組織と情報を共有することが乏しいという。ネットワークを活用すれば、これら組織の連携・情報共有が効果的に実現できる。二つには、映像情報の開発と発信が、安価で容易に可能になってきたということである。文字情報に比べ、映像情報は、確実に発信者の思いや活動の実体を効果的に伝えられる。これらの二つの技術的側面を、学習者の出番づくりの拡大にどのように活かしていけばいいか、人的組織をどのように構築していけばいいかを明らかにすべく、県内関連機関が協力して実証研究に取り組んだ。学習人材の出番を広げ、学びによる絆作り、地域活性化に向けた生涯学習振興の新たなモデルとして、本研究成果が、今後の生涯学習・社会教育の発展に役立つことを期待したい。

平成26年3月 地域eパスポート研究協議会代表

山 西 潤 一

目次

1 調査研究の目的と概要	1
1-1 研究の背景.....	1
1-2 これまでの取り組み	1
1-2-1 地域人材の育成と活用 ー富山県の教育政策と課題.....	1
1-2-2 地域人材の育成と活用 ー富山県民生涯学習カレッジの取組と課題.....	2
1-2-3 eポートフォリオ、eパスポートを活用した人材活用推進の取り組み.....	3
1-3 今年度の目標	7
1-4 今年度の実施体制	7
2 実施内容	9
2-1 出番づくり応援プログラム	9
2-2 県民に対する「学んできたことや経験を生かした活動」に関する現状調査.....	15
2-3 学習成果を活かして地域活動を行う人材育成・活動支援に関する現状調査.....	15
2-4 県民カレッジでの利用を前提とした学習成果の活用のためのeポートフォリオ開発.....	15
2-5 学習成果を生かした地域活動を行う人材育成と人材情報の共有に取り組む生涯学習機関の訪問調査	16
2-6 地域eパスポート研究協議会の実施経過	16
3 実施評価	18
3-1 学習者にとっての効果.....	18
3-2 推進機関（県民カレッジ等）にとっての効果.....	19
3-3 運用モデルとしての評価	20
4 考察	23
4-1 学習成果の活用における学習者の現状と課題.....	23
4-2 学習成果の活用における学習者の本モデルによる可能性、実施に向けての課題.....	24
4-3 学習成果の評価と活用支援における支援機関の現状と課題	26
4-4 学習成果の評価と活用支援における本モデルによる可能性、実施に向けての課題 ...	27
5 今後に向けて	31
5-1 県教育振興基本計画との整合をふまえた取り組み	31
5-2 大学による生涯学習への新たな取り組み	32
5-3 実運用化に向けて（運用面）	35

5・4 実運用化に向けて（技術面）	36
-------------------------	----

1 調査研究の目的と概要

1-1 研究の背景

第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（中間とりまとめ）では、国民が、いつでも、ライフステージや置かれた状況に応じた学習の機会が得られ、学習の継続と学習の成果を生かすことができる生涯学習社会の実現と、そのための地域住民の学習活動を支援するプラットフォームの構築が強く求められている。民間団体と地方公共団体等が連携して実施するICTを活用した学習成果の評価や社会的通用性の向上に資する取組の普及が望まれている。

また、中間とりまとめでは、学習活動の成果の評価・活用の推進のために「学習成果が適切に評価され、社会で幅広く通用するための環境の構築が求められる」としており、「個人の学習意欲の増大や社会全体の教育力の向上という観点からも、学習成果が地域をはじめとした様々な場で活用されること」をとおして、「知の循環型社会」の構築を目指している。しかし、「現状は、個々の学習活動の学習成果を明示化して、評価する手法が社会的に認知されていなかったり、学習成果を活用する場とのマッチングの環境の醸成について不十分な状況」にあり、その解決策として、「人材認証制度等による学習者の学習成果の評価・活用のための仕組みや認証の共通枠組みの構築に向けた検討」が求められている。学習成果の評価・活用のための仕組みや認証の共通枠組みの構築のためにも、「民間団体と地方公共団体等が連携して実施するICTを活用した学習成果の評価や社会的通用性の向上に資する取組（eポートフォリオ、eパスポート）」の成果の普及が望まれている。

このような中で、生涯学習・社会教育をとおした地域の教育力強化に向けて、富山県において生涯学習や社会教育を推進している富山県民生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会や地域住民の学習活動を支援する生涯学習ICTプラットフォームとして活動してきた富山インターネット市民塾の関係団体が効果的なネットワークを組み、eポートフォリオ、eパスポートの活用をとおして、地域人材の育成と活用をどのように図ればいいのかを実証的に明らかにしてきた。

1-2 これまでの取り組み

1-2-1 地域人材の育成と活用 ―富山県教育政策と課題

富山県（以下、県）では、地域社会への帰属意識の希薄化や住民交流の機会の減少が進行する一方で、優れたふるさとの歴史や文化に対する認識の低い県民が思いのほか多く、地域コミュニティの活力衰退等が懸念されている。このため、県では、地域の魅力に関する学びの機会をとおして、ふるさとへの愛着と誇りを育み、将来を担い、活躍する人材を育成し、活力あるふるさとづくりを進めるため、学校・家庭・地域等を含めた県民運動として「ふるさと教育」を展開している。

平成21年度、県の知事政策局と教育委員会が設置した「ふるさと教育有識者懇談会」が、平成22年2月に提出した「ふるさと教育の振興に関する報告書」では、ふるさと教育の振興を図

る具体的方策の一つとして、「ＩＣＴを活用してふるさとの歴史や文化を学び、親しむ」が挙げられており、ＩＣＴを活用したふるさと学習を支援する人材養成の重要性が提案された。

平成２１年度末から、総務省地域情報通信技術利活用推進交付金事業として、県と財団法人富山県ひとづくり財団が主体となり、「ＩＣＴを活用した地域ぐるみのふるさと教育と人の交流推進事業」を開始した。富山インターネット市民塾を基盤に、インターネットとパソコンやケーブルテレビ、携帯電話等のＩＣＴを活用した、「いつでも・どこでも・誰でも」自分に合った学習等を可能とする「富山型地域ぐるみのふるさと教育とプラットフォーム」というしくみの構築とともに、ふるさとを伝え・支える人材として、「県民ふるさと講師」と「住民ディレクター」の育成が、この事業の柱となっていた。

富山県生涯学習カレッジにおける人材育成・活用事業の他に、上記のＩＣＴを活用した事業の継承事業として、平成２２年度から２４年度まで、県教育委員会は富山インターネット市民塾推進協議会への委託事業「ＩＣＴ活用ふるさと学習コミュニティ活性化事業」を実施し、「ＩＣＴふるさと学習推進員」の育成を行ってきた。

育成講座の修了者には、富山インターネット市民塾、富山県生涯学習カレッジ、公民館等で講座を担当するほか、講演会講師、団体サークルやイベントの主宰、施設ボランティア等として活動している者が多いが、中には講座の受講・修了が主目的で、学びの成果を地域社会に生かしていない者も少なくない。また、自らの活躍の機会を自発的に地域において創出していこうという意欲をもった人材ばかりではないのが現状である。学習成果が地域社会で活用されることが理想だが、県民の学習成果を活かした活動が地域社会で展開されるように工夫していくことが今後の課題である。

1-2-2 地域人材の育成と活用 ―富山県生涯学習カレッジの取組と課題

富山県生涯学習カレッジでは、講座提供から人材育成への転換をめざすモデル事業として、平成１９年度から平成２１年度までの２期３年間（１期１年半）、「はつらつ学びのリーダー育成事業」を実施した。この事業の趣旨は、団塊シニア世代を中心に、県民の学習活動を支えるボランティア指導者を発掘するため、その知識や技能を習得する機会を提供するとともに、県内市町村や公民館などの施設とも連携・協力することで、より多くの県民が生涯学習に参画するとともに、県民による社会貢献に対する支援でもあった。

受講期間は１期１年半にも及んだにもかかわらず、修了率が約９０％と高かった背景には、受講者の高い学習意識や、受講をとおして仲間意識が醸成されたことなどが要因であると考えられている。

平成２２年度から平成２４年度は、「ふるさと学びあい推進事業」を実施した。この事業は、ふるさと教育を推進する生涯学習団体等の指導者を育成するとともに、地域住民が身近なふるさとについて学びあう自主的な学習を支援するために、以下の２つの内容で構成されている。

- ・ 郷土に関する学習を深めている生涯学習団体等が企画・運営する「ふるさととやま発見教室」開催の支援（平成２２年度・２３年度のみ実施）

- ・ ふるさと教育を推進する生涯学習団体等の指導者やふるさと学習のボランティアを育成する「ふるさと指導者セミナー」の開催

受講者からは、ふるさとの魅力再発見や学びあう楽しさや喜びなどを体験することができ、充実した学習であったなどの声が寄せられるなど、満足度は高かった。中には、「単なる参加から参画への意識が高まった」「教えることは最良の喜びであると実感した」との意見もあった。

この2つの人材育成事業をとおして、共通の課題も明らかになった。それは、生涯学習を担う人材を、いかにして市町村や公民館などの社会教育施設と連携をとりながら活用していくか、いかにして活動の場を確保するかという点である。あわせて、地域のニーズを把握し、ニーズに基づいた人材育成の講座を実施することも重要である。換言すれば、地域人材の育成には、人材と地域との橋渡し機能の拡充が必要である。

同時に、生涯学習に携わる人材の裾野を広げるためには、新たな人材の掘り起こしも進めなければならない。学習意欲や社会への貢献意欲の高い県民に対しては、今までの学習成果をさらに高め、活用（還元）する手立てが必要である。また、「協力者がいない」「知識はあるが適切な教材がない」等の理由で新たな一步を踏み出せない県民に対しては、モチベーションの向上やスキルアップを図るための時宜を得た研修会の開催が必要であるとともに、助言や相談、各種機関とのコーディネートができる人材の養成も求められている。

また、富山県民生涯学習カレッジでは、生涯学習の講座や地域人材の情報についてインターネットを通じて紹介する「とやま学遊ネット」の運営を平成8年より行っている。県民が受講した富山県民生涯学習カレッジ主催の講座、県下の大学や市町村他が主催する講座（連携講座）の受講履歴、取得単位を「とやま学遊ネット」が継続して記録、管理を行っており、類似の生涯学習システムにはない最大の特徴といえる。県民は、「とやま学遊ネット」を利用することで、いつ、どのような講座をいつ受講したのか確認できる。受講に熱心な県民には、年に一度開催されている県民カレッジ学遊祭にて、単位認定授与を行い、顕彰している。

生涯学習に参加した受講履歴の記録と管理は、継続して行われているものの、今後、県民が生涯学習で学んだ成果を地域活動等にて発揮するため、「とやま学遊ネット」に記録された受講履歴を生かし地域活動に展開することや、学習の記録に加え、自ら学習の実績や成果を地域に対して発信できる仕組み作りが課題である。

1-2-3 eポートフォリオ、eパスポートを活用した人材活用推進の取り組み

富山県内の社会教育、生涯学習関係施設（富山県教育委員会、富山県民生涯学習カレッジ、富山インターネット市民塾）が研究協議会をつくり、「人材情報の共有化」と「地域ぐるみの認証体制の確立」を通して、社会教育、生涯学習にて育成した地域人材の活用の促進を図ることを目的とし、以下の事業に取り組んできた。

- ・ 既存の様々な地域人材を育成する取り組みのネットワーク化
- ・ 地域人材の学習成果を地域で生かすためのネットワーク化

(1) 地域人材を育成する既存の様々な取り組みのネットワーク化

既存の地域人材育成、社会教育事業のレベルアップと相互連携を図り、公民館、学校等にて地域人材の活用を行うことができるよう、人材育成のネットワーク化を構築した。

(2) 地域人材の学習成果を地域で生かすためのネットワーク化

ネットワーク化し育成した「ICTふるさと学習推進員」や「情報サポータ」の地域人材が、公民館、学校等の地域のさまざまな場で地域人材として生かされるよう、育成機関と人材活用を行う公民館が連携し、活動を支援するネットワーク化を構築した。

事業では、学習者が地域人材として自身の経験、成果を振り返り、地域活動のテーマ、目標、実績などをeポートフォリオとして記録を行っていただき、記録をもとに、地域に対して自己をPRするためのショーケースとしてまとめていただいた。富山大学／富山県教育委員会／富山県民生涯学習カレッジ／富山県公民館連合会等、生涯学習、社会教育関連施設による人材の評価委員会を設け、学習者が作成したショーケースに対し、地域人材として活躍するための実績、実績を地域で役立てるための目標と現在の取り組み、活動に求められる能力（コンピテンシー）について評価、厳正な認定を行った。教育委員会や社会教育機関を含めた地域が一体となって保証し、人材情報に対する信頼性を高め、人材や人材の持つ能力に対する社会的な通用性が得られるよう認定の証として地域eパスポートを発給した。また、地域人材情報ポータルサイトを開設し認定を受けた地域人材の情報提供を行った。

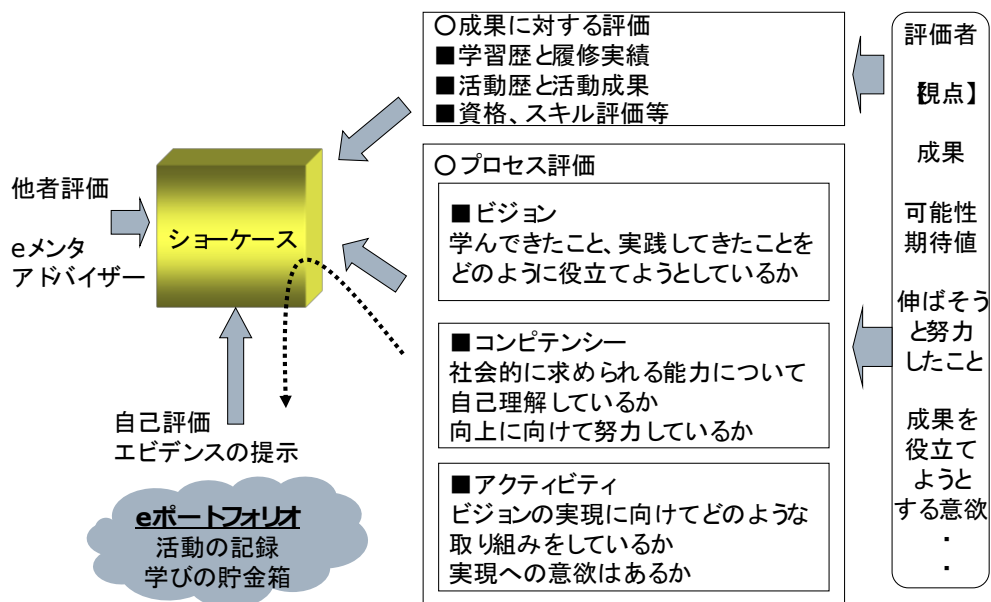


図 1 人材評価モデル

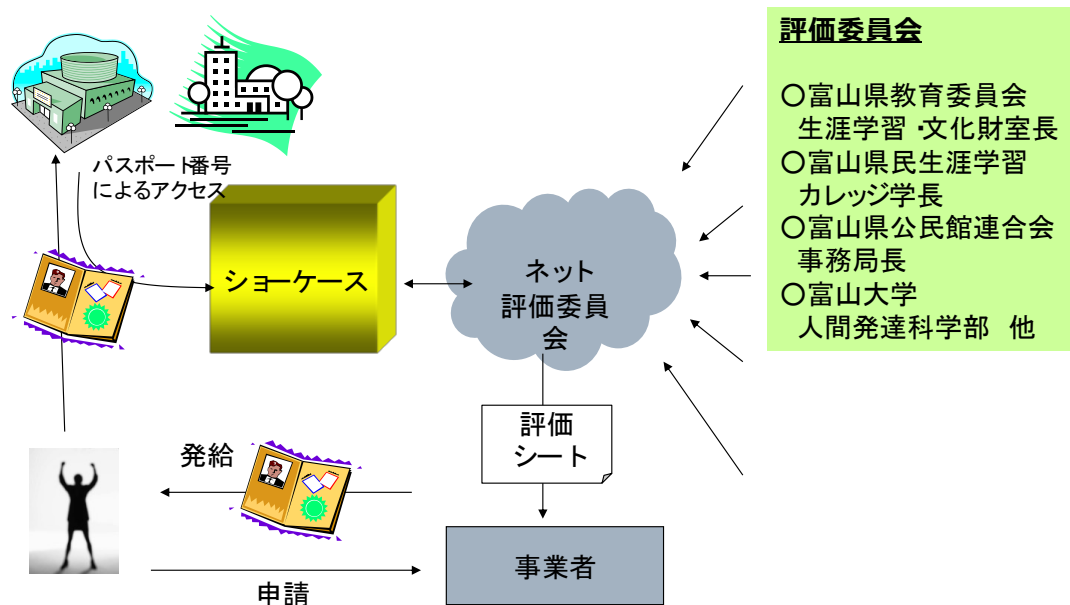


図 2 学習成果の評価と認定体制

以上の事業の効果として、学習者がeポートフォリオ、ショーケースを作成することで、自身の持ち味や得意分野を再認識する機会となったこと、学んだことを生かした活動目標づくりに役立ったことが挙げられる。また、目標に対し、関係機関の支援を生かして地域活動の取り組みをより具体的に計画できたとの意見が聞かれた。生涯学習、社会教育関連施設の委員からは、eポートフォリオ、ショーケースによる学習成果のまとめや、eパスポートによって示された学習成果と活用の目標は、学習成果を積極的に生かす意識向上と、これを支援する社会教育、生涯学習機関の役割の上で、重要な情報であるという指摘があった。

地域人材が地域活動のテーマ、目標、実績などをショーケースにより公開することで、従来の人材バンクで扱われる人材情報に比して地域人材一人ひとりの「個性」「人となり」が窺えることから、関係機関の支援や活動の場の提供など活動機会の広がりにつながる取り組みとして評価されたものと考えられる。また、eポートフォリオのショーケースにあるテーマ、目標、自身の経験や取組への努力は、人材を求める地域の社会教育・地域づくり関係者側に、大きな「地域を思う仲間と感じられる」「顔が見える」効果をもたらした。

このような地域学習の実際へのマッチングという点から、ショーケースという形による一人ひとりの活動動機、目標設定、活動のための学習・研究実践、成果のまとめや指導意欲の公開は、文字で紹介されるその人材の特性、分野等を補完するというレベルを超えてネットワークとして活用されていくための大切な機能を有する可能性が明らかとなった。

以上のように、富山県民生涯学習カレッジをはじめとする、生涯学習、社会教育に関する組織では、その目的に応じた生涯学習・社会教育活動を行っており、組織間で連携協力し、ネットワークをより深化させることで、地域課題に対応した地域人材育成の質向上と学習成果を地域に生かす活躍の場の広がりが見えてくることが、今後、期待できる。

具体としては、県民の学習成果を活かした活動が地域社会で展開されるための仕組みとして、富山県民生涯学習カレッジ参加者を対象に、県民が広く参加する「とやま学遊ネット」に長年蓄

積された受講履歴の記録を活用し、県民が自身の学習の記録に加え、学習の実績や成果を地域に対して発信可能な生涯学習 I C Tプラットフォームを整備する。この生涯学習 I C Tプラットフォームにより、県民がこれまでの生涯学習の成果を生かす地域人材として、受講履歴と学習の記録から、自身の経験、成果を振り返り、地域活動のテーマ、目標、実績などショーケースとしてまとめ、地域人材を活用する公民館や学校、生涯学習施設等へ、情報発信を行うことが可能となる。

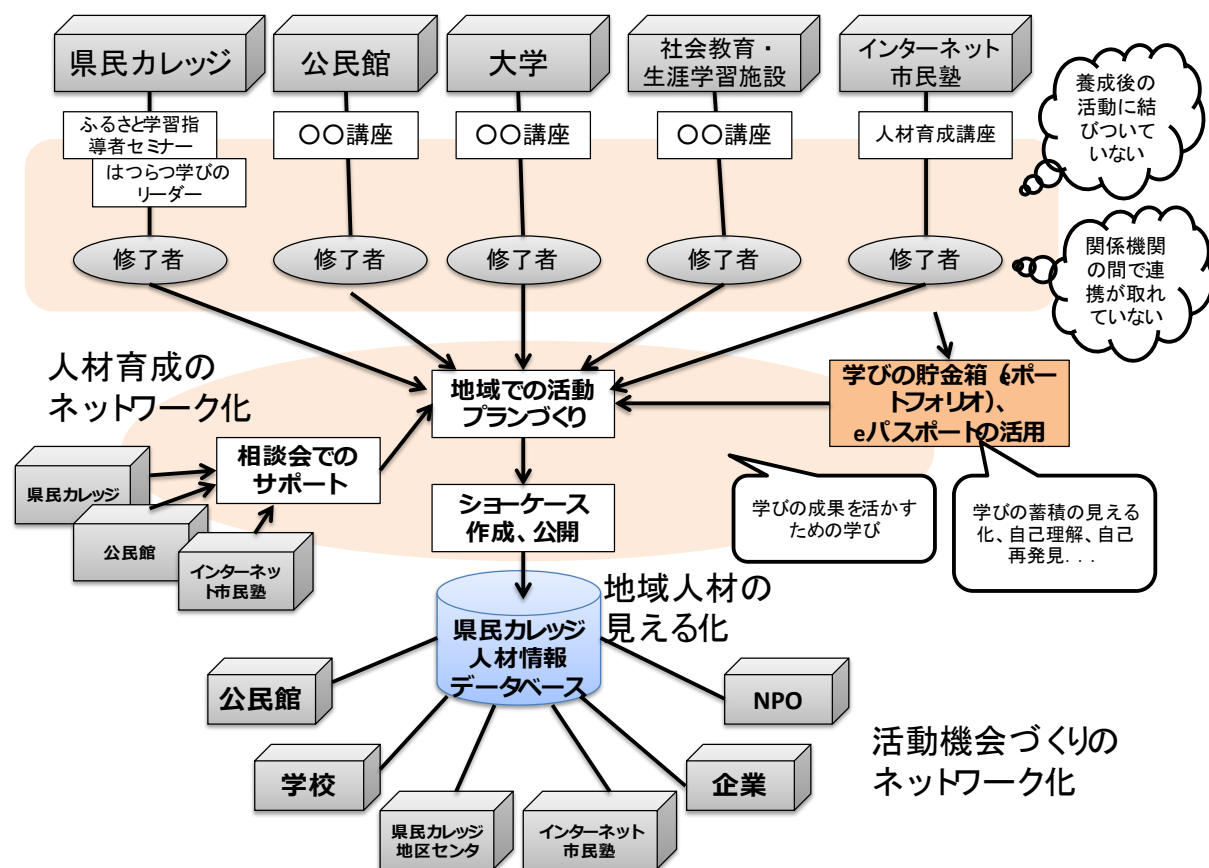


図 3 学習成果を社会に活かすための地域基盤を目指して

地域人材が地域活動に関われるよう、人材活用に対する受け入れ側のニーズの調査と、これまで認定した地域人材の地域での活動状況について調査を行う。調査結果より、受け入れ側と地域人材とのマッチングにつなげる他、人材に対する助言や相談、各種機関とのコーディネートを行う。

連携講座を含め多くの講座を開講し、県内の生涯学習の中心的拠点である富山県民生涯学習カレッジを本事業の対象とすることで、全県的な学習成果の評価と活用の取り組みとなることが期待できる。また、学習支援、学習成果の評価、学習成果を活かした活動支援に e ポートフォリオ、e パスポートが果たす効果の検証や検証より作成する e ポートフォリオ、e パスポートの運用についてモデル化することによって、他の都道府県の生涯学習機関でも導入可能なシステムとして展開することが可能になる。

1-3 今年度の目標

富山県における生涯学習推進の中核的機関である県民カレッジにてeポートフォリオ・eパスポートによる学習成果の評価・活用支援についての実証研究を実施する。

(1) 学習の記録における活用効果に関する検証

県民カレッジ利用者を対象に、学習やボランティア活動等の記録に、eポートフォリオを活用するとともに、既存の学習記録等との連携の可能性について検証する。

(2) 学習者自身による学習成果の活用支援のあり方に関する検証

学習や活動記録の振り返りにeポートフォリオの活用を促し、学習成果を活用する意欲醸成にどのように役立つか検証する。

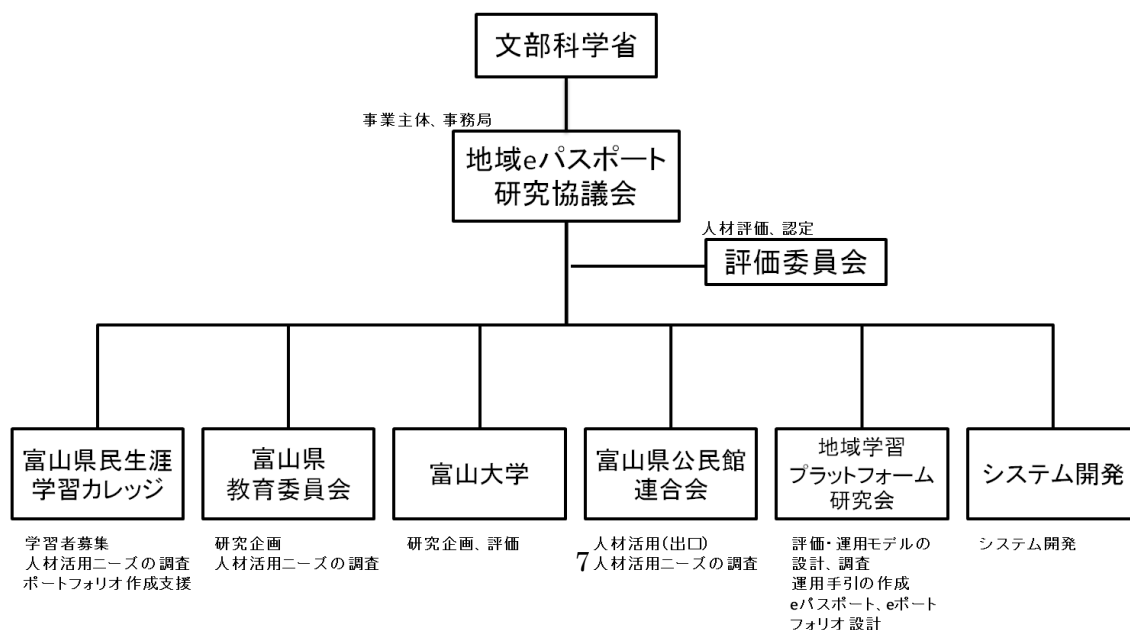
(3) 学習成果の評価における活用効果、課題に関する検証

学習成果を活用しようとする学習者に対し、目標やこれまでの取組、学習実績の記録と評価、振り返りの支援を行う。また、学習の成果が社会に活かされる仕組みについて試行し、効果、課題等を検証する。

(4) 学習成果を活かした活動支援のあり方に関する検証

学習成果を活用しようとする学習者を、公民館等の社会教育施設や学校支援地域組織等、広く紹介し、活動機会の創出にどのように役立つことができるか、その可能性について検証する。あわせて、既存の人材データベースとの情報連携や、学習・活動相談における認定情報の活用の可能性についても検証する。

1-4 今年度の実施体制



	氏名	所属	職名
	荒井 克博	富山県民生涯学習カレッジ	学長
	木村 博明	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	室長
	黒田 卓	富山大学人間発達科学部	教授
	柵 富雄	NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会	理事長
オブザーバー	立田 慶裕	国立教育政策研究所生涯学習部	統括研究官
	中村 啓志	富山県公民館連合会	事務局長
代表	山西 潤一	富山大学人間発達科学部	教授
事務局	吉田 真理	富山インターネット市民塾推進協議会	事務局

2 実施内容

2-1 出番づくり応援プログラム

学習成果の ICT を使った活用支援に関する地域実験として、働きながら地域に何ができるか考えたい人、退職後のこれからの自身の活動について考えたい人を対象に、地域での出番づくりを支援する「出番づくり応援プログラム」を実施した。

「出番づくり応援プログラム」として、e ポートフォリオ、ショーケースを活用した学習成果の活用支援のモデルを試行的に実施し、学習成果を活用する学習者にとっての効果、学習成果を促す推進機関（県民カレッジ等）にとっての効果や運用における課題と可能性を評価した。

応援プログラム説明会

「出番づくり応援プログラム」の実施内容の説明と、自身の学びや活動の実績について振り返り、地域の中でどのような活動が行えるのか考えるためのワークショップ、グループディスカッションの場として、「応援プログラム説明会」を実施した。

内容：自己紹介、活動事例紹介、グループディスカッション、

活動プランづくり、e ポートフォリオの活用について説明

日時：平成 25 年 12 月 23 日（月・祝）13：30 ～ 16：00

場所：富山県教育文化会館 403 号室

参加人数：28 名

今後地域で取り組むそれぞれの活動について、活動を実現するに際しての課題や目標、課題を解決するための方策、活動の場について相談するための相談会を実施した。相談会は、計 5 回、県民カレッジ、富山インターネット市民塾にて行った。また、活動や実績を記録し振り返るのに活用できる e ポートフォリオについて説明を行い、e ポートフォリオの日常的な活用についてフォローを行った。

第一回相談会

内容：相談会概要及び e ポートフォリオの利用説明、個別相談会

日時：平成 26 年 1 月 8 日（水）11：00 ～ 12：00

場所：富山県教育文化会館 203 号室

参加人数：3 名

第二回相談会

内容：個別相談会、活動プラン進捗状況確認

日時：平成 26 年 1 月 18 日（土）11：00 ～ 13：00

場所：富山県教育文化会館 203 号室

参加人数：7 名

第三回相談会

内容：個別相談会、活動プラン進捗状況確認

日時：平成 26 年 1 月 25 日（土）10：50 ～ 12：10

場所：富山県教育文化会館 203 号室

参加人数：7 名

第一回活動プランづくりのための相談会&活動プランづくりに役立つ貯金箱（e ポートフォリオ）説明会

内容：「学びの貯金箱」（e ポートフォリオ）の活用・操作方法について説明、
個別相談会

日時：平成 26 年 1 月 30 日（木）10：00 ～ 12：00

場所：富山インターネット市民塾

参加人数：4 名

第二回活動プランづくりのための相談会&活動プランづくりに役立つ貯金箱（e ポートフォリオ）説明会

内容：「学びの貯金箱」（e ポートフォリオ）の活用・操作方法について説明、
個別相談会

日時：平成 26 年 2 月 1 日（土）10：00 ～ 12：00

場所：富山インターネット市民塾

参加人数：4 名

今後地域で取り組むそれぞれの活動について活動プランとしてまとめたものを、e ポートフォリオのショーケースを使って、広く地域に広報するための方法について説明を行った。また、e ポートフォリオの日常的な活用や、実績の積み重ねによるショーケース更新についてフォローを行った。

活動プランづくりのための相談会&活動プランの電子化（ショーケース）説明会

内容：広報に向けた電子化手順（ショーケースづくり）について説明

日時：平成 26 年 2 月 12 日（水）17：00 ～ 18：00

場所：富山インターネット市民塾

参加人数：2 名

「出番づくり応援プログラム」の予定、取組の報告を「出番づくり応援レター」として電子メールおよび郵送にて行った。レターには、e ポートフォリオ、ショーケースの活用についての案内、資料を同封した。

第一回 平成 25 年 12 月 27 日（金）配信 21 名

説明会参加の御礼、プランづくりの資料の案内

第二回 平成 26 年 1 月 10 日（金）配信 22 名

相談会、発表会の日程案内、活動プランの応募方法、質問回答、近況アンケート

第三回 平成 26 年 1 月 23 日（木）配信 30 名

活動プランの応募とその取扱い、活動プランづくり、学びの貯金箱紹介、近況アンケート

第四回 平成 26 年 1 月 28 日（火）配信 30 名

説明会参加の御礼、活動プランづくりのための相談会&活動プランづくりに役立つ貯金箱説明会

第五回 平成 26 年 1 月 30 日（木）配信 31 名

電子化の効果について、学びの貯金箱活用資料のご案内、相談会&説明会日程案内

第六回 平成 26 年 2 月 6 日（木）配信 31 名

学びの貯金箱の活用・操作方法に関する資料案内、広報活動について

第七回 平成 26 年 2 月 10 日（月）配信 17 名

活動プランへのアドバイス、広報に向けた電子化について

第八回 平成 26 年 2 月 14 日（金）配信 31 名

活動プラン発表会開催案内

出番づくり応援プログラムの参加者は、これまでの経験や学びの振り返り、地域の公民館や県民カレッジ、学校、青少年教育施設等での活動に活かす企画を行い、関係機関からの応援を受けて活動プランづくりを行った。

地域のニーズに対応した新しい活動や、県民の目線で地域の潜在的な魅力を伝える活動など、地域への熱い思いにあふれた活動プランとして 13 件の応募があり、うち 9 件については活動プラン発表会にて発表を行った。発表を行ったプランから、優れたプラン、ユニークなプランについては表彰を行った。

	活動プランの内容	活動プラン提出後の状況
A さん（男性、団体職員）	1996 年「塚原歴史の会」発足。同志を集め、寺院、神社、古老の話を聞き取り資料を収集。数千点の資料を 100 ページの冊子にまとめ、地域 1,000 世帯に配布。塚原の歴史を塚原校区の子供達へ伝えることを目指します。	歴史に関するテーマで地域にて活動を展開。映像資料をネットで公開するなど、ICT を活用した活動として評価を受けた。
B さん（男性、会社員）	ストレスや健康についての悩みの多い現代社会。笑うと楽になります。プラス思考になります。プラス思考の人々が多くなれば社会も元気になります。笑って元気・富山をテーマに「笑いの体操」（ラフターヨガ）をとおし	富山県民生涯学習カレッジにて自遊塾講座の講師として、2 期目の活動を展開した。

	て、ストレス解消・健康づくり、地域のコミュニケーションづくりを目指します。	
C さん（女性）、D さん（女性）	声と言葉を使って五感を通して感じることで、物事を肯定的に受け止めたり、ポジティブな発想ができるよう、お手伝いをしたいと考えています。人生をワクワク、楽しく、毎日がきらめいて、イキイキと過ごせるように一緒に活動しませんか？	富山県民生涯学習カレッジにて自遊塾講座の講師として新たに活動を開始した。
E さん（男性、公務員）	富山の郷土検定「越中ふるさとチャレンジ」の上級合格者らからなる「富山ふるさとマスター」として各地で講演活動。くすり、遺跡、ご朱印を例として富山ならではの魅力や価値はたくさんあります。富山の魅力や価値を再認識し、郷土への誇りと愛着を抱き、熱い想いを持って伝えられる活動を目指します。	富山県民生涯学習カレッジにて自遊塾講座の講師として新たに活動を開始した。
F さん（女性、主婦）	38 年間、能を趣味として続けてきました。地域の方や子供たちに公民館で、大きな声で謡を謡っていただき、声を出す楽しさを体験したり、無表情と思われている「能面」を実際に見てもらい、能面を通して見える世界を体験したりすることで、古典芸能としての「能楽」を身近に感じてもらえることを目指します。	能をテーマに生涯学習の講師として新たに活動を開始した。
G さん（男性、無職）	地域住民の活動拠点として、児童や高齢者をはじめ多くの方に自治公民館を利用していただけよう、取り組んでいます。高齢者の生きがいづくりのためのグループ活動、サークル活動を定期的に行い、小学生は放課後に宿題をした後、ゲームや卓球、ドッジボールを楽しむ等、活動の輪を広げることを目指しています。	自治公民館にて、地域住民を対象に継続して活動を行っている。
H さん（男性、無職）	古文書や古地図の解読を通して、地域の歴史を見直す活動を行っています。小学校での講演や銀行での展覧会に加え、歴史書の発刊や地域での活動の輪を広げることを目指しています。	歴史に関するテーマで地域にて活動を継続して展開している。
I さん（男性、無職）	セーリングを学ぶなか、富山湾から見る立山連峰や富山の素晴らしい景観を体験できました。海拔 0 m から 3,000m の山が見られる、	操船技法の習得に努めながら、活動プランの見直しを進めている。

	世界に三ヶ所しかないと言われる富山湾から見た富山の景観は素晴らしいものです。セーリングをマスターして、富山湾から見える、立山連峰を望むセーリングと一緒に楽しむ活動を目指しています。	
Jさん（男性、無職）	富山発の言葉である「ケアウィル」は、『豊かな暮らしに向けた意志』を表します。富山大学でケアウィル講座を受講した仲間とともに、退職後余生とするのではなく、生きがいや人生への満足を持つための行動について考える勉強会を行っています。勉強会での学び合いを通じて、豊かな暮らしの実現を希望する人たちとの活動の輪がより広がるよう、ホームページでの情報発信や各地でのケアウィル勉強会の開催を目指します。	ケアウィル勉強会にて活動を継続的に展開している。ICTに興味を持ち勉強会にて新たな展開を企画している。
Kさん（男性、無職）	富山の郷土検定「越中ふるさとチャレンジ」の上級合格者らからなる「富山ふるさとマスター」。地域のお寺や神社、文化財について、本を発行したり、講演したりしています。また、年間を通して8, 9回、県内外の古刹をめぐるサークルの活動を2006年より現在まで続けています。今後、調べたり学んだりしたことを、できるだけ多くの人に伝えられるよう、学校など様々な場所で情報発信していくことを目指します。	歴史に関するテーマで地域にて活動を展開している。
Lさん（男性、無職）	公民館やコミュニティの活動の活性化・効率化のツールとして、ホームページを活用したいという方々に、ホームページ、ブログの作成を通して、メリットや活用について理解していただくとともに、同様のニーズをもっている仲間・公民館・関連者に伝え、「館から環」のネットワークを広げていくことを目指します。	公民館にてICT活用の支援を展開している。
Mさん（男性、無職）	これまで県民カレッジの生涯学習講座の受講を始め、認知症、高齢者支援に関する資格取得や子どもたちへのレクリエーション活動、ものづくりボランティアなど様々な活動に関わってきました。高齢社会を迎えるにあたり地域住民が支えあう共生社会となるよう、高	認知症、高齢者支援ために大学開催講座の受講や活動場所の開拓を継続的にやっている。

	齢者の認知症をサポートしあえる地域の絆づくりのための講座開設を目指します。	
Nさん（男性、会社員）	省エネルギー推進ネットワークとやまの世話人として、環境省、文部科学省および経済産業省からの省エネルギー普及啓発に携わっています。気候変動―地球温暖化現象に関して、過去の資料データ・文献や NASA、WMO、気象庁等のホットニュースをわかりやすく解説しながら、気候変動について知識を深めていくことを狙いとした講座を開講します。講座を通して、地球環境問題に関心を持つ人たちを育てることを目指します。	富山インターネット市民塾にて講座を開講している。

地域が応援する活動プラン発表会

内容：活動プランを作成した出番づくり応援プログラム参加者による活動プランについての発表、地域 e パスポート研究協議会委員による発表に対する講評、優れたプラン、ユニークなプランに対する表彰（3名）

日時：平成 26 年 2 月 23 日（日）15：30 ～ 17：30

場所：富山県教育文化会館 403 号室

参加人数：出番づくり応援プログラム参加者 11 名、
 一般参加者 2 名、委員等関係者 15 名

学びを活かす地域人材ホームページの公開

内容：出番づくり応援プログラム参加者を、学習成果の活用場である生涯学習施設や公民館、学校等に紹介し、地域人材としての活動の場づくりとなるよう、出番づくり応援プログラム参加者を紹介するホームページを作成し、インターネットにて公開した。

(<http://toyama.shiminjuku.com/documents/jinzai/>)。

ホームページには、出番づくり応援プログラム参加者が作成した活動プラン、これまでの活動実績や地域での活動目標等を示すショーケースを掲載した。また、活動プラン発表会での活動プラン発表の様子を映像として閲覧可能とした。

あわせて出番づくり応援プログラム参加者の地域での活動の後押しとなるよう、地域 e パスポート研究協議会に参加する教育委員会や富山県生涯学習カレッジ、大学教員による、出番づくり応援プログラム参加者への応援メッセージを掲載した。

学びを活かす「地域人材」紹介冊子配布

内容：出番づくり応援プログラム参加者が作成した活動プランや経歴・資格等と

ともに、「出番づくり応援プログラム」に関わる関係機関代表者の活動への応援コメントを冊子としてまとめ、公民館、学校、青少年教育・生涯学習関連施設等に配布した。冊子には地域人材ホームページについても紹介しており、人材の詳細や活動プラン等について照会することができる。

配布先：富山県下市町村教育委員会、高等教育機関、高等学校、富山県内全小中学校、生涯学習関連施設、公民館等

2-2 県民に対する「学んできたことや経験を生かした活動」に関する現状調査

生涯学習機関等において、学習成果の評価や地域社会での活用をどのように支援することが効果的か検討を行うために県民に対し生涯学習に関する現状調査を行った。調査は、アンケートにより行い「学んできたこと、多様な経験を生かした活動」について県民に尋ねている。生涯学習で学んだこと、経験が社会に生かされる機会や取り組みを行っているか、情報をどのように得ているか、学んだこと、経験を社会で生かすことに対するニーズや、課題、自身に関する情報発信について回答いただき、学習成果の地域社会での活用支援について考察した。

第1回 対象者：出番づくり説明会参加者26名 回答25名（96%）

実施：平成25年12月23日

第2回 対象者：県民カレッジ とやま学遊ネットマイページ登録者

実施：平成26年2月26日

2-3 学習成果を活かして地域活動を行う人材育成・活動支援に関する現状調査

生涯学習機関等において、学習成果の評価や地域社会での活用をどのように支援することが効果的か検討を行うために公民館、青少年施設等に対し現状調査を行った。調査は、アンケートにより行い地域人材の受け入れや育成状況、人材情報、地域課題の把握、人材の学習成果を生かすための取組と課題について回答いただき、人材育成・活動支援について考察した。

対象：公民館、青少年教育施設等 384機関 回答126（33%）

実施：平成25年12月

2-4 県民カレッジでの利用を前提とした学習成果の活用のためのeポートフォリオ開発

eポートフォリオシステムは、個人の持続的、自立的な学びを支援し、学びの成果の活用の仕組みづくりを担うシステムである。

今年度は、事業テーマの推進のための以下の開発を行った。

（1）生涯学習支援システムとeポートフォリオとのデータ連携機能

自治体を持つ生涯学習支援システムに蓄積された記録を学習者が学びの振り返りと

実績の活用のために e ポートフォリオから利用するモデルとして、県民カレッジの生涯学習支援システムである「とやま学遊ネット」に蓄積された学習実績の記録を e ポートフォリオで活用可能とするためにネットワーク経由でデータを連携する機能の開発を行った。

(2) 生涯学習支援システムでの人材バッジ機能

学習の成果を地域に生かそうとする人材であることを示す電子的なバッジを取得し、富山県の生涯学習支援システムである「とやま学遊ネット」にてバッジを公開することで、人材に対する社会的な通用性を持たせることができた。

(3) e パスポートとスマートフォン連携機能

e パスポートに印刷された QR コードにより、e パスポートとスマートフォンを電子的に連携させ、スマートフォンを使い容易に学習の蓄積と振り返りが行えるよう機能の開発を行った。

2-5 学習成果を生かした地域活動を行う人材育成と人材情報の共有に取り組む生涯学習機関の訪問調査

平成 26 年 1 月 30 日、31 日に、学習成果を生かした地域活動を行う人材育成と人材情報の共有に取り組む生涯学習機関の訪問調査として、秋田県生涯学習センターを訪問した。また、秋田県生涯学習・社会教育研究大会に参加し、秋田県生涯学習センターによる事例紹介「学びの成果を地域活性化に生かす！ ～行動人連携学習プログラム開発事業から～」に参加した。

2-6 地域 e パスポート研究協議会の実施経過

(1) 第 1 回研究協議会

日時：平成 25 年 11 月 13 日（水） 10 時 00 分～12 時 30 分

場所：富山県教育文化会館 203 号室

議題：①事業計画について

②実証研究の協力者の募集について

③その他

(2) 第 2 回研究協議会

日時：平成 26 年 2 月 7 日（金） 12 時 30 分～14 時 30 分

場所：富山県教育文化会館 304 号室

議題：①事業状況報告、アンケート調査結果報告

②今後の実施内容、人材活用につながる広報について

③その他

(3) 第3回研究協議会

日時：平成26年2月23日（日）13時00分～15時00分

場所：富山県教育文化会館 203 号室

議題：①事業状況報告・今後の実施内容

②事業（学習成果の評価、活用支援のモデル化）の考察

③その他

3 実施評価

3-1 学習者にとっての効果

(1) 学習成果の記録と評価

学習者が積み重ねてきた経験や学びを棚卸し、学習成果としてどのような意味を持つか、自己評価を行う機会を提供することができた。

その際、経験や学びの積み重ねに関する記録をデジタル化（学びの貯金箱）し、分野・テーマとしての深まりや、他の分野との関連などを俯瞰し、学習者自身が学習成果として再認識し、学習成果を役立てることへの意欲の向上に、eポートフォリオを活用する効果が見られた。

(2) 関係機関、窓口における相談

学習成果をどのように活かすことができるか、県民カレッジ等での活動相談では、これまでの学習歴や活動歴を具体的に示し、学びの候補となる活動の場に関する情報を得るなど、効果的なアドバイスを得る機会を提供した。

その中で、関係機関における相談の窓口や担当への説明に、デジタル化された学習歴や活動歴、相談の記録などを活用することで、学習者自身の説明が体系的に分かりやすくなり、より効果的な活動相談を行うことに役立てることができるようになった。

デジタル化された学習歴や活動歴は、学習成果を活用する場への訪問調査でも学習者自身が対面で説明する効果と相まって、効果的な活動相談に役立った効果が報告された。具体的には、個々の学びとして取り組んできた場やテーマと、地域のニーズの間にはミスマッチが生じることも多いが、より具体的な情報をもとに、学習者と地域の相互理解を図ることへの可能性が示された。相談による支援そのものが、「顔と顔を繋いで」情報を把握することの重要性を学習者に気付かせ、公民館、地域の団体等に出向いて、「思いを語る」形で資料を提示し、実際に自身の学習成果の中のどの部分をどのように生かせるのかを「肌で」知り得たという事例が多く出ている。

また、学習者自身の振り返りに対するマンツーマンの支援の結果、学習成果をなおも継続・深化させ、「自身のレベルアップ」に生かしたいという学習者の「修養」への本音が引き出された。これは学習成果活用の「質の高さ」に繋がるものである。

さらに、これらの一連の調査、相談の状況を随時記録することに、紙媒体と電子記録を併用するeパスポートを活用することで、学習成果を活かす多様な可能性や課題を、学習者自身が主体的に考えることにも役立つ効果が得られた。

(3) 学習成果と活動目標の公開

積み重ねてきた経験や学習を活かした活動プランを広く地域に示し、地域の人材ニーズと結びつくための情報の公開を行った。この公開する情報として、学習歴や活動歴については、根拠となる記録をエビデンスとして示すとともに、体系的に整理・デジタル化された情報内容や、映像を用いたプレゼンテーションを取り入れることで、これまでにない豊富な情報量と、地域人材として顔が見えるショーケースとして広く地域に伝えることが可能となった。

デジタル化されたショーケースは、紙の情報に比べ、インターネットを通じて働き盛りの方などにも伝わる可能性を高め、活動の仲間づくりや広がりにも役立つ可能性を持つ。また、情報の更新性も高まり常にアップデートされた情報として公開することが可能となった。

3-2 推進機関（県民カレッジ等）にとっての効果

（１）活動相談の質向上

県民カレッジでの活動相談では、相談員は学習者が事前に学習歴や活動歴に関する情報をまとめたものをもとに説明を聞き、適切なアドバイスを行うことに役立っている。

学習歴、活動歴に関する資料は、紙資料では多くを持参して説明することは難しいが、あらかじめデジタル化して示した一部の学習者との相談では、活動の様子を写した映像を交えて多くの情報による活動歴を分かりやすく把握することができ、適切なアドバイスに役立った。

また、学習者が事前に資料を集めデジタル化する過程で、学習者自身による振り返りと省察を経ていることも、相談の質向上に役立っていると言える。

活動相談の質が向上したことにより、相談員として対応した県民カレッジ、公民館連合会、公民館、生涯学習機関の職員と学習者との交流や信頼関係が増し、学習者の活動へのモチベーション向上につながった。

（２）関係機関のネットワーク化

活動相談は、県民カレッジのほか、地域の公民館ほか社会教育施設等が窓口となっている。学習者はこれらの複数の窓口を訪ねてさまざまな活動の可能性を模索することもある。その際、各相談窓口にとって、学習歴や活動歴に関する豊富な情報をもとに学習者から相談を受けることができる。

また、それぞれの関係機関でどのようなアドバイスがあったか、学習者がその記録を示すことで、関係機関の間で重複した訪問やアドバイスの齟齬が生じにくくなっているとみることができる。

これらの情報はデジタル化（e ポートフォリオ）することで、いつでも、どの窓口でも、十分な情報を確認しながら活動相談を受けることが可能となる。

さらに、これまでそれぞれの関係機関に分散しがちな学習歴、活動歴を、学習者自身が主体的に集め、活動相談に生かすことは、従来の情報集中管理とは全く違う次元で活動相談のネットワーク化を実現することにつながる。

（３）県民の活動ニーズの把握

活動相談を通じて、e ポートフォリオを使った学習者の学習歴や活動歴に関する十分な情報をもとに、地域における活動に対するニーズを把握することができ、ニーズに対応した人材育成や人材活用場の場づくり等に役立てることが可能になる。

（４）生涯学習と社会教育のクロスオーバー

成果を活用したいと考える学習者にとって活動「エリア」が課題になっている。学習者にとっ

て、自分が学んだ成果がどんな範囲・対象者に生かせるのか、判断が難しい状況にあることがわかった。近隣（自治公民館等）・小学校区（公立公民館・小中学校等）・市町村（図書館・資料館・博物館施設を含め）・広域（県民カレッジ地区センター等）・県域（県民カレッジ・県立の各種施設・県域 NPO 等）など、生涯学習と社会教育活動とのクロスオーバーを図るための「学習圏レベル」に関する総合的支援体制の整備が重要である。

3-3 運用モデルとしての評価

（１）産学官の連携による応援プログラム

生涯学習推進の中核的機関である県民カレッジを中心として、産学間が連携することにより各機関の特色や固有の情報を持ち寄った人材育成のネットワーク化や人材情報の見える化が図れることが明らかとなった。

相談会では、自らの講座の企画内容に自信が持てない学習者が多くみうけられた。そこで、県民カレッジの県民主催の講座開設にあたってのノウハウを用い、積極的傾聴を試みることで学習者の不安を払拭するとともに、面談を通して漠然とした目標が具現化していくよう支援した。また、公民館連合会の事務局長を介して、近くの公民館に足を運び、職員から公民館活動について説明を受けたり、活動プランに関して助言をしていただいたりしたことで、今後の活動の見通しを明確に持つことができたという事例もあった。

e ポートフォリオの活用については、富山インターネット市民塾が関わることで、画像や動画を使ってわかりやすく自身の学習、活動実績や今後の活動プランを示すことができ、関係機関における相談の窓口や担当への説明が体系的にわかりやすくなることで、効果的な活動相談を行うことが可能となった。また、ショーケースの活用についても、富山インターネット市民塾が関わることで、学習者が積み重ねてきた経験や学習を活かした活動プランを地域に示し、地域の人材ニーズと結びつくための情報の公開を行うことが可能となった。体系的に整理・デジタル化された情報内容や、映像を用いたプレゼンテーションを取り入れたショーケースによる人材情報の見える化により、これまでにない人材に関する豊富な情報量と、顔が見える地域人材として地域に伝えることが可能となった。

（２）県民カレッジの単位制度を生す e ポートフォリオ

県民カレッジ受講生の講座受講歴を管理してきたデータベースと、e ポートフォリオシステムとの連携を行うことで、学習記録の集約化とショーケースによる学習記録の情報発信のための基盤が整った。今後、他の社会教育、生涯学習機関に蓄積された学習記録の集約化を進めることで、マッチングの精度向上や、社会教育、生涯学習機関での人材育成が、地域活動の充実につながる可能性が高まる。

（３）県民カレッジ人材データベースの活用を高めるショーケース

ショーケースにより公開される情報が従来の人材バンクで扱われる人材情報に比して大きく相違している点は、リストアップされている地域人材一人ひとりの「個性」「人となり」が窺えら

いうことである。eポートフォリオのショーケースにあるテーマ、目標、自身の経験や取組への努力は、人材を求める地域の社会教育・地域づくり関係者側に、大きな「地域を思う仲間と感じられる」「顔が見える」効果をもたらした。地域人材の活動を支援する関係機関にとっても「胸を張って」紹介することができるメリットは大きい。

公民館や学校等で行われる地域に密着した学習活動は、テーマで学ぶという側面よりもエリアで学ぶという側面が強い。従って、指導・支援者として求められる人材は、地域の実情・実態や課題の共有者・理解者であること、平生から地域人として生活・行動を共にしている者であること、地域の人々からその活動ぶり・実践・業績が日常的に見えていることなどが大きなウェイトを占める。

このような地域学習の実際へのマッチングという点から、ショーケースという形による一人ひとりの活動動機、目標設定、活動のための学習・研究実践、成果のまとめや指導意欲の公開は、文字で紹介されるその人材の特性、分野等を補完するというレベルを超えてネットワークとして活用されていくための大切な要素であることが明らかとなった。これまで、県民カレッジの地域人材データベースである「とやま学遊ネット」の講師・指導者情報は、指導可能テーマや活動歴一覧等が主な記載内容であったが、eポートフォリオのショーケースを通じて、詳細な取組みのほかに、活動への意欲や生涯学習への思いを知ることができるなど、個人を多面的に理解することが可能となった。ショーケースにより従来の人材の情報に「血を通わせた」という点で、地域人材情報ネットワークシステムのあり方に大きな示唆を与えるものとなった。今後、このシステムの認知度を高めるとともに、関係機関との効果的なマッチングへの不断の努力が不可欠である。

（４）学習歴、活動歴を学習者が主体的に収集・活用

eポートフォリオの活用効果として、学習者が積み重ねてきた経験や学びを棚卸し、デジタル化（学びの貯金箱）することで、分野・テーマとしての深まりや、他の分野との関連などを俯瞰し学習成果としてどのような意味を持つか、自己評価を行う機会の提供と、学習成果を役立てることへの意欲の向上につなげることができた。

また、活動相談の場や関係機関の窓口での相談では、デジタル化された学習歴や活動歴、相談の記録などを活用することにより、学習成果をどのように活かすことができるか、これまでの学習歴や活動歴から具体的に示すことや、学習者自身の説明が体系的に分かりやすくなることで、学びの候補となる活動の場に関する情報を得るなど、効果的なアドバイスを得る機会を提供した。

（５）スマートフォン、タブレット等、現代的ツールの活用

学習者にとって、日常的にスマートフォンやタブレット端末、PC等を活用している背景があること、相談におけるデジタル化された記録の効果や、インターネットを通じて人材情報が様々な世代や組織に伝わる可能性を高め、活動の仲間づくりや広がり役立つことからICTを活用する効果は大きい。

デジタル化になじまない高齢者には、eポートフォリオの記録やショーケースの作成を代行するだけでなく、上記ICTの活用効果を示すことで、ICTに対する関心や習得に対する意欲を高めることができる。

また、電子情報と連携する e パスポート（紙媒体）は、デジタル化になじまない高齢者にとっても、電子情報を活用することを可能とするものである。

（6）学習・活動ニーズの把握と、学習成果の活用に関するベンチマーク測定としての効果

学習成果を活かして地域活動を行う人材育成・活動支援に関する現状調査として、公民館、青少年施設等に対し、地域人材による学習成果を活かした取り組みを行う上での課題について尋ねたところ、公民館、青少年施設による地域の学習、活動ニーズの把握が不十分であること、学習、活動ニーズに合った人材の発掘まで至らない状況が明らかとなった。また、学習成果を生かすことにつながる人材育成等の実施について尋ねたところ、人材育成につながる取り組みを行っている公民館、生涯学習施設は少ないことがわかった。

人材育成のこのような状況を補うためにも、地域活動に貢献する地域人材の育成は、様々な社会教育や生涯学習の場においてこれまでも行われてきたが、育成した地域人材が地域活動の現場において必ずしも十分活躍できていない状況であることがわかる。

以上の課題を解決するために、これまで公民館と接触のなかった地域人材を公民館活動に巻き込むことや、地域人材がどのような能力をもち、公民館での地域活動に参画できるのか把握するための仕組みとして「地域を思う仲間と感じられる」「顔が見える」効果をもたらしたショーケースは十分に機能するものと考えられる。

また、ショーケースの作成を通じて、個が自らの学びの積み重ねを振り返り、自己評価と他者からのアドバイスを得て、地域活動に役立てるビジョンを作る力を養成することにつながることで、ショーケースの公開により様々な地域人材の特性や持ち味の把握につながることから、ショーケースが、学習成果の活用に関するベンチマークとして機能することが明らかとなった。

4 考察

4-1 学習成果の活用における学習者の現状と課題

(1) 単位認定制度

富山県民生涯学習カレッジ（以下県民カレッジ）では、各講座の単位認定は、昭和 63 年の開学以来、「富山県民生涯学習カレッジ講座単位認定要領」に基づき実施している。単位が認定される講座は、「夏季講座」や「ふるさと発見講座」等県民カレッジが主催する講座や高校生と社会人が共に学ぶ「共学講座」、公的機関や高等教育機関等からの申請を受け、県民カレッジが定めた要件を満たしていると認定した「連携講座」等である。これらの講座において、7 割以上の回数に出席をした受講者のうち、県民カレッジ単位取得希望者に対して、1 時間あたり 1 単位（5 単位刻み）として認定している。

(2) 県民カレッジカードの発行

講座受講者で希望する方には、受講した講座名等の学習歴や取得単位を記録する県民カレッジカードを発行している。このカードには、取得した単位数に応じて配布された単位シールを、受講者自身がカードに貼ることで、修得単位数を記録することになっている。カードの発行により、学習者が取得単位を自己管理することが可能となり、学習意欲の向上に波及することをめざしたものである。

一方、カレッジカードは、単に時系列に受講した講座名等を記録し、シールを貼るだけの形式であり、分野ごとに学習内容が区分されていない。また、自己の学習記録としてのみ利用される場合が多く、他の活用例がほとんどない。

(3) 単位認定証と称号

県民カレッジでは、毎年、学習成果の発表・交流の場として「学遊祭」を開催している。その際、100 単位ずつの区切り（900 単位まで）の単位取得者には認定証を、1000 単位・2000 単位・3000 単位の単位取得者には、それぞれ「カレッジアドバイザー」・「カレッジマスター」・「カレッジドクター」の称号もあわせて授与している。

(4) 学習成果の活用状況と課題

県民カレッジでは、単位認定制度を導入した当初から、「カレッジアドバイザー」等の称号を取得した方には、学習成果を活かして活動してほしいという願いがあった。しかし、現実には、単位取得者のほとんどは受講そのものが目的で、学習成果を活かして講師等で活躍している方は皆無といってよい。

今回の県民カレッジ登録者等への事前アンケートでは、学習成果を講師やボランティアとしてすでに還元されている方や、仕事で役立てている方が多いという結果が出た（問 3）。また、学んできたことを活かしたいという方が過半数を超え（問 5）、今後地域で活動していきたいと考えている方に、いかにして活動の場を提供するかが課題として見えてきた。

現行の単位認定制度は、多くの受講者にとって学習の励みになったという評価を得ている。一

方で、単純に1時間を1単位ととらえ、累計何時間学習したかという点でのみ評価しており、何を学んだか、何を身につけたか、何ができるようになったか、という内容まで踏み込んで評価する段階には至っていない。

そこで、eポートフォリオ、eパスポートによる学習実績の記録と振り返りは、学習成果を活かしたいと考えている学習者にとって、大きな効果をもたらす。また、ショーケースによる地域人材の見える化は、学習者の学習成果を地域に活かす「知の循環型社会」構築の一助となると考えられる。あわせて、学習成果を社会に還元するためには、社会教育関係機関の有機的な連携が必要であることは言うまでもない。

4-2 学習成果の活用における学習者の本モデルによる可能性、実施に向けての課題

(1) 自遊塾の概要

県民カレッジの主催講座である自遊塾は、公募した県民教授がボランティア講師として運営する全国でもユニークな事業である。平成7年に16講座から始まり、現在は約70講座を開講している。また、県民教授の創造性を活かして講座が運営されており、学びのフリーマーケット（flea market ノミの市）として、学習をとおして交流を深めるとともに、新しい学びの創造とボランティア活動の広がりもめざしている。自遊塾での活動が発展して生まれたNPOやボランティア組織、サークル活動もある。

(2) 県民教授になるには

県民教授には、富山県民なら誰でも応募することができる。応募に際して、講座企画書を提出しなければならない。講座のテーマや内容は、ユニークな視点に立ち、今日的意義があり、ある程度の専門性を必要とする。また、家元制度がある分野や一般のカルチャー教室で広く行われている領域のもの、特定の政治や宗教、企業や職業等の宣伝・営利を目的とするもの、公序良俗に反するものなどは認めていない。

県民カレッジでは、提出された企画書を審査し、自遊塾の講座として適格であると認められると、リーフレット等を通して塾生（受講者）を募集することになる。申込者が極端に少ない場合は、講座が開設されないケースもある。

(3) 自遊塾の講座運営

自遊塾は、県民教授と塾生によって、自主的に運営されている。また、すべての県民教授で構成される県民教授会を設置し、県民教授は、県民教授会を通じて、自遊塾の運営に積極的に参画する。塾生も、県民教授の補佐や出欠確認や諸連絡等、様々な形で講座の運営にかかわることになる。

講座は県民教授と塾生との双方向で学び合いが進められるなど、両者は水平関係に近く、一般的な講義形式の講座とは、趣を異にしている。そのため、講座を展開するには、間の取り方や発問の仕方、受講者間のコミュニケーションのあり方等の創意工夫が求められ、一朝一夕で一人前の県民教授になることは容易なことではない。

現在、新規で県民教授として応募される方の多くは、3～5年程度の塾生の経験者である。そ

の背景には、県民教授が自らの後継者を育成したいという思いがある。県民教授は、後継者候補に対して、講座の中でリーダーシップが発揮できるような場を設定するなどの配慮や、講座終了後に「ふりかえり」の時間を設けて学習内容の検討を行うなど、県民教授としてのノウハウが伝授され、デビューすることになる。

（４）今後の課題

出番づくり応援プログラムには、参加者への事後アンケート結果からもわかるように、自らの学習成果を活かして地域で活動したいという、意欲あふれる方の参加が大半である（問２・問３）。

「活動プランづくりがどのように役立ったか」という問いに対し、「新たな目標を見つけた」「目標が具体化した」「相談やアドバイスが役立った」といった回答が多く、今後の活動へある程度の見通しを持つことができたようだ（問５）。

一方で、「学びや経験を活かす上でどのような課題を持っているか」という問いに対し、「相談やアドバイスが必要」「地域の課題や現実的課題に対して、どのような人材が求められているかわからない」「活動の仲間がいると自身の知識や経験を活かすことができる」といった回答が多く寄せられており、課題というより不安の方が大きい様子がうかがえる（問１６）。

今回の出番づくりプログラムの参加者には、今後、関係機関へ問い合わせたり相談したりすることに加え、講座やイベントへも積極的に参加することが望まれる。職員を介して情報を得るより、直接地域のニーズや特徴を把握することが可能となり、受講者・参加者の目線で活動のあり方を考える機会ともなりうる。さらに、関係機関との様々な関わりをとおして、職員との信頼関係を築くことができるのも大きなメリットであるということも忘れてはならない重要な点である。

また、自遊塾の事例にもあるように、インターンシップのような形態として、まずは受講者からスタートし、講座運営のノウハウを直接理解することから始めることも有効な手段である。この間に、企画している講座の目標や学習内容をより明確にすることができたり、今後の課題について、講師や職員から助言を得ることができるなど、貴重な体験を積むことができる。

このように、関係機関との連携を深めることで、受講者の願いと講師のねらいとのミスマッチを未然に防ぐことができる。また、地域のニーズに応えることができる人材としてさらにブラッシュアップすることにより、受講者から講師へのステップアップにつながり、自己実現への可能性が高まる。

（５）人材育成事業

県民カレッジでは、平成１９年度から、学習機会の提供を充実させて人材育成事業にも取り組んでいる。平成２１年度まで３年間は、「はつらつ学びのリーダー育成事業」を実施した。また、平成２２年度から平成２４年度は、「ふるさと学びあい推進事業」を実施した。これらの事業の趣旨は、団塊シニア世代を中心に、県民の学習活動を支えるボランティアや生涯学習団体等の指導者を発掘・育成するため、その知識や技能を習得する機会を提供するとともに、県内市町村や公民館などの施設とも連携・協力することで、より多くの県民が生涯学習に参画するとともに、社会貢献したりすることを支援することである。

平成２５年度は、今までの学習成果を活かし、今後、現地探訪や学びあいの講座を運営すること

ができる「高志の国文学専門講座・活用実践コース」を企画した。コース概要の説明では、人材育成という表現を控え、多彩な現地研修をとおして、受講者がオンリーワンのプログラムを企画したり、解説を模擬体験したりすることであると記載し、能動的な学びへいざなうようにした。

いずれの講座も受講者の満足度は極めて高く、充実した学習であったなどの声が異口同音に寄せられるなど、好評であった。受講をとおして学びあう楽しさや喜びなどを体験するとともに、仲間意識が醸成されたことなどが要因であると考えられる。

これらの人材育成事業をとおして、共通の課題も明らかになった。それは、生涯学習を担う人材を、市町村や公民館、図書館などの社会教育施設とどのように連携をとりながら活用していくか、いかにして活動の場を確保するかという点である。また、地域のニーズに基づいた人材を育成することも重要である。

さらに、学習成果を活かしたいという県民に対し、助言や相談、各種機関とのコーディネートができる専門職員の配置も求められている。あわせて、社会教育機関が連携協力し、ネットワーク化を図ることで、地域人材育成の質向上と活躍の場の広がりが期待できる。

4-3 学習成果の評価と活用支援における支援機関の現状と課題

地域eパスポート研究協議会が実施したアンケート「学習成果を生かして地域活動を行う人材への支援に関する調査」の集計結果に基づき考察を加えてみた。

問1「貴施設・機関では、地域人材の受け入れについてどのような状況ですか？」の回答としては、「特に受け入れていない」が約60%を占めたほか、「主催事業の実施の中でボランティアとして受け入れている」が約29%、「県民が主体的に行う活動を側面から支援している」が約9%という結果であった。

地域人材について、受け入れていない施設・機関が過半数を占め、受け入れていても、主催事業の補助という形で人材を活用するのみであったり、側面支援にとどまっている施設・機関が多いことがわかる。県民生涯学習カレッジでは、地域人材を「自遊塾県民教授」や「カレッジメイト」というボランティアとして受け入れて事業を展開しているが、自遊塾講座の企画審査、カレッジメイトの指導を行うといった、受け入れの仕組みが確立している施設・機関が少ないことがうかがえる。

問3「貴施設・機関では、県民が学習成果を生かすことにつながる育成等を行っていますか？」の回答としては、「活動の仲間作りに結びつく場を設けている」が約23%、「地域の課題などを話し合う場を設けている」が約10%、「学習成果や経験を振り返り、新たな活動への生かし方を考える機会を設けている」が約9%と続き、人材養成につながる講座等を開催している機関は、合計でも10%に満たなかった。

同好の士を集めて、サークル・同好会等を立ち上げる手助けを行う施設・機関は少なくはないが、県民一人一人が学習成果を振り返り、新たな活動に生かしていくことまで支援を行い、人材養成講座等の開講にまでつなげているところは少ないことがわかった。

問5「学習成果を生かそうとする県民のうち、一定の評価を得て認証している制度をご存知で

すか？」の回答としては、「いずれも知らない」が約 7 割を占め、県民カレッジが育成してきた「はつらつ学びのリーダー」や「ふるさと学習指導者」のほか、県教育委員会が富山インターネット市民塾推進協議会に委託して養成した「ICTふるさと学習推進員」等を知っていた施設・機関は少なく、認証制度の周知はなかなか困難であることがわかった。

問 7「学習成果を生かす場の発掘や連携を実施していますか？」の回答としては、「特に行っていない」が約 8 割を占め、「学習成果や経験を生かそうとする人材の存在を周知するようにしている」、「活動希望情報と人材募集情報の交換ができるよう、組織間の意思疎通を図っている」、「定期的に問い合わせを行い、人材の活用機会に関する情報を収集している」という選択肢を選んだ施設・機関はそれぞれ数%にしか過ぎず、学習成果を生かす場を発掘したり、組織内において、あるいは他機関と情報を交換したりするなどして連携を取ることが少ない現状が浮き彫りとなった。

問 8「次の施設・機関（自施設以外）との間で、活動希望情報と人材募集情報の交換を行っていますか？」の回答としては、無回答が約 3 割を占めたが、公民館 18%、放課後子ども教室と地域の小学校・中学校がそれぞれ約 15%、ボランティア団体と県民カレッジがそれぞれ約 8%という結果であった。

本調査の対象施設・機関では、やはり社会教育の最も身近な拠点である公民館との情報交換を行うところが多いということがわかった。

問 10「学習成果を生かした地域社会に生かすことにつながる取り組みを行う上で、どのような課題を持っていますか？」という問いに対し、複数回答をまとめたものだが、上位では、「ボランティアや地域活動を志す人が少ない」が約 16%、「地域課題や現代的課題の把握と求められる人材を把握していない」と「学習成果を生かす支援のノウハウが分からない」がそれぞれ約 12%、「職員の減少や多忙により学習成果を生かす取り組みを支援する余裕がない」が約 9%といったものが挙げられる。

特に近年の市町村合併や地方自治体における行財政改革の影響で、県民の学習成果を地域社会に生かす取り組みを行うことができる職員が減少していることが、地域活動を志す人の発掘、人材の把握等情報収集、支援活動のノウハウの欠如等につながっているのではないかと憂慮するものである。

4-4 学習成果の評価と活用支援における本モデルによる可能性、実施に向けての課題

去る 1 月末に、秋田県生涯学習・社会教育研究大会に参加し、秋田県生涯学習センターによる事例紹介「学びの成果を地域活性化に生かす！ ～行動人連携学習プログラム開発事業から～」を拝聴した。

秋田県は、平成 23 年 3 月に県生涯学習ビジョンを策定し、「知と行動が結びついたクリエイティブな循環型社会」をめざしている。上記の事例紹介の副題にある「行動人（こうどうびと）」とは、「クリエイティブな循環型社会を担う、学んだことを行動に結びつけ社会に生かす人」と定義され、秋田県では、生涯学習を通し、すべての県民が「行動人」になることを大きな目標として掲げている。

秋田県生涯学習センターが文部科学省の委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」として取り組んでいる「行動人連携学習プログラム開発事業」とは、「行動人」、「生涯学習センター」、「市町村公民館等施設」の三者がそれぞれの特色を生かし、協働・連携して提供する、「行動人を育成する」及び「地域を活性化する」学習プログラムの開発を行うものである。

このプログラムにおける「行動人」は、学びを行動に生かし、地域を元気にする活動を行うことで、人材として協力するほか、人材の受け皿ともなるべきものである。また、「生涯学習センター」は、「行動人」に関する情報を公民館等の施設に提供するとともに、配置されている社会教育主事による助言を行い、学習支援の役割を果たす。もう一つの「市町村公民館等施設」は、学習や活動の場を提供する従来の役割のほか、地域人材の育成・活用、地域課題解決への挑戦を担うものとして位置づけられている。

また、この事業の主な内容は、「行動人」連携学習プログラムの開発と実施のほか、公民館における学びの成果を生かす取組の調査と活用である。生涯学習センターが実施した公民館の実態調査の結果から注目される点は、学習の成果を生かす取組として多くの公民館が「成果を発表する場」を挙げているが、その発表の場を体験・参加型にすること、県内の参考になる事例に学ぶことを呼びかけている。公民館側は、「社会の要請に基づいた講座に人が集まらない」、「ボランティアや地域貢献を志す人が少ない」と捉える傾向があるが、利用者はやりたいと捉える割合が高いということである。学習ニーズを掘り起こし、人材育成と地域活性化を進めることの重要性を改めて認識させられる考察であった。

さらに、公民館利用者調査の結果からは、団体・グループによる活動に学びの目的や学びを行動に生かす価値を見出しているということや、ボランティアや地域課題解決、スタッフなどに学びを生かしている人は3割程度いるということがわかった。ここからも、学習後の受け皿、活動の場を保証することの大切さが実感できる。

前述の「県内の参考になる取組例」としては、「伝統芸能体験講座（中学生の「掛歌」「ささら舞」の継承→地元の大会や巡行で披露）」、「めざせ！アウトドアマスター（父親の育児参加の学び→防災キャンプ）」、「生涯学習フェスタ（団体・サークル活動→ブース・体験コーナー開設）」、「家庭教育講座『夏休み親子体験入学』（大学との連携→大学生が学習の成果を披露）」が挙げられているが、これらの取組では、地域活性化を担う人材が育成されているほか、学びを生かす場や受け皿が保証されていると言える。

「行動人」の広報活動の強化と啓発については、ポスター・リーフレットによる広報のほか、行動人取材、ウェブサイトによる紹介を行っているが、平成26年1月20日現在で、行動人ウェブサイト紹介の累計が30,679人、取材記事65件、紙面記事92件であり、ウェブページアクセス、ページビューとも増加傾向である。

本年度の成果としては、公民館調査の活用ということでは、市町村への情報提供やセンター事業への反映という点があり、行動人連携プログラムの手応えとしては、公民館事業及びコミュニティ活性化の一助となっている点が挙げられる。また、広報活動の面ではウェブサイト利用者の増加により、市町村や他の行動人からの紹介事例も多くなっている。

今回、秋田県の行動人連携学習プログラムについて知る機会を得て、大変有意義な視察となっ

た。富山県では、いわゆる生涯学習振興法のモデルとなった、県民生涯学習カレッジを中心とする生涯学習推進機関と、社会教育諸団体とはそれぞれ歴史を持ち、両者が一体となったり、連携して事業を行っている例はあまり見られない。ただし、県民カレッジが運営している富山県生涯学習情報提供ネットワークシステム「とやま学遊ネット」の中に開設した、県内公立公民館毎のウェブサイト「とやま公民館学遊ネット」は間もなく本格稼働から2年を迎えるが、公民館からの地域情報発信を支援する仕組みであり、県民カレッジが公民館活動を支援する事業と言えよう。

学習成果の評価と活用支援という今回の調査研究の取り組みの中においても、秋田県の「行動人」の実践事例が参考になることが多い。前述のとおり、富山県におけるいわゆる学社連携の歩みは緒についたばかりであるが、今後は秋田県等の取り組みに学んでいかなければならないであろう。

①県民カレッジ等における学習成果の活用支援としての評価

「社会人の学び直し」等の事業では、再雇用や、自らより良い暮らしを上げるために必要となる知識や技術等を、「身に付けさせる」ことに重点が置かれていた。企業等への再雇用を目的とする場合は、これまでの職業訓練や必要となる資格取得といったある程度ゴールの見えやすい学びに思われることも多かった。しかしながら、実際に現在の社会で求められている再雇用に必要なとされる能力は多岐にわたっており、ましてや、自らのより良い暮らしを上げるということが目的となった場合は、何をどこから学べば良いのか途方に迷ってしまうということもあった。

近年、地域での学びを地域に活かすことで、地域コミュニティの活性化を促進したり、お互いに得意な分野を活かし、学び合うコミュニティを作ることで、継続的に、知を循環させたりしようとする動きが高まってきている。富山県においても「ふるさと学習」に重点を置いたさまざまな施策に取り組んでおり、その一つとして、2015年3月に迫った北陸新幹線開業に向けて、「なんもないちゃ ゼロ作戦」に取り組んでいる。これは、富山県民自身がまず富山の良さをよく知ろうという活動である。

富山県は生涯学習に積極的に取り組んでいると全国からの評価も高い。昭和43年に現在の富山県生涯学習文化財室の前身となる精神開発室が設置され、昭和63年には富山県民生涯学習カレッジ（以下カレッジ）が発足している。平成7年にはカレッジで学んだ人が「県民教授」に認定され、県民教授がさらにその学びを伝えていく「自遊塾」が開始されている。当初16講座から始まり、平成26年度には20周年を迎え、72講座の開講が予定されている。また、同様の講座をインターネットで行う富山インターネット市民塾も平成11年に開始され、「知の循環」を目指した「場」作りにもこれまで取り組んできた。

これらの取り組みを通して、より知の循環を良くしていくために、「学習した成果を活かす場」を整備するだけでなく、学びを伝える「伝え方」や、仲間づくりを支援していくことが大きな問題であった。また、その場を利用してもらうのに適した人かどうかを判断したり、自分自身の能力の裏支えとして利用したりするための証拠をどのように蓄積し、活用するかといった問題を解決するために、本事業では、eポートフォリオを活用し、また、相談会等においてそれらを用いて、自分のこれまでの学びを振り返ったり、自分の強みを再認識することができた。相談会で学

びの分析をしたり、強みを活かすためのアドバイスを貰ったりすることで、次の一步に踏みだそうと思われた受講者も多かった。

e ポートフォリオは、記載が煩雑で面倒ではあるが、学んだことが詳細に記録、蓄積されるため、振り返り等には利用しやすい。カレッジでは、これまで受講修了した講座の数に応じてポイントが発行されており、学習者の学習意欲の維持、向上に役立ってはいたが、自らの学びを振り返るには情報量が少なすぎた。今後、e ポートフォリオや、相談会を併用することで、その学びを循環させていく事が可能になるであろう。

このように、本事業を通して、これまでの生涯学習をさらに一歩進めて、学んだことを伝え、知の循環を生み出すための課題として、以下の点が明らかになった。

- ・自己の振り返りと学びで得た知識の裏支えとなる学びの成果の蓄積をどのように行うか。
- ・学習者の振り返りを促進し、次への一歩を踏み出させるためのアドバイザーの整備
- ・学びの成果を発揮できる場の整備

これらを一気に解決することは難しいが、今回の取り組みを通して、その一つの解決策が見いだせたと考える。

②ICT（e ポートフォリオ）の活用評価

これまでの学びの記録と蓄積のための道具として、本事業ではe ポートフォリオが利用された。これまでの経験や学びの積み重ねを、学びの貯金箱に蓄積し、それを元に作成した活動プランを、ショーケース機能を利用して公開し、それらをもとに相談会、プランの評価を実施した。

今回の事業は短期間で行われたこともあり、本格的な活用は難しく、e ポートフォリオ本来の機能を全体的に評価することは困難であった。しかしながら、事業で行われた相談会の際に、さまざまな視点から利用されており、学習成果を長期間蓄積していくことで、より有効に機能することが期待できる。

反面、今回の事業参加者の多くは、60台後半の高齢者であり、e ポートフォリオに新たに情報を蓄積することは難しく、登録等にもかなりのサポートを必要とした。この問題も、e ポートフォリオを長期的に運用することで、登録に慣れたり、若い人の利用が促進されたりすることも期待できるため、一概に問題ということとはできない。

ショーケース作成には、予め用意したテンプレートを用いてもらったが、利用者にとってそれが余計に書きにくくしてしまった面は否めない。枠組みとしてのテンプレートではなく、どのようなことを書けば良いのかを具体的にアドバイスすることで、ショーケースを作成しやすくすることができるであろう。今回は、マニュアルを別に用意して対応したが、より具体的な記載例を用意するなどの工夫も必要となると考える。

実際に作成されたショーケースでは、これまで学んできたこと等は詳しく書かれているものの、出番づくりに一番必要となる「何をしたいのか」ということが、根拠を持って伝えられていない事例が多く見られた。また、今回の事業が強く意識されすぎたのか、評価をしてもらうための提

案書になってしまっている例も多く、本来の e ポートフォリオのショーケースとして、多くの人に見てもらい、知ってもらおうという目的からはすこし外れてしまっているものもあった。

以上のようなことから、e ポートフォリオの活用評価にはまだ少し継続的に利用して検討を行う必要があり、今回の利用の状況などから拙速に判断することはできない。

③今後の課題（富山県教育施策、大学における生涯学習、実運用）

本事業を通して、「学ぶ意欲」を持つ人が多いということだけでなく、「学んだことを伝えたいという意欲」を持つ人も多いことが明らかになった。ただ、このような人の多くは、最初の一步を踏み出せずとどまったままになっていることも明らかになった。

学んだことを伝えるためには、「より深い内容知識」だけでなく、「教育的知識・技能」、「コミュニケーション・プレゼンテーション能力」も求められる。これらをどのように高めていくかも、今後の生涯学習をより進めて行くための課題となるであろう。インターネット市民塾では、「市民塾講師養成講座」を実施し、教育的知識や技能、コミュニケーション・プレゼンテーション能力の育成に、数年前から取り組み、そこの修了者から多くの新しい講師がでてきている。このような取り組みも参考になる。

場作りの観点から、「自遊塾」や「インターネット市民塾」、またそれらはまだ敷居が高いという人が、地域での活動として「公民館」を利用して活動を行う事例も出てきた。しかしながら、どの場を利用する場合においても、受講者集めでは、誰もが苦勞している。立派な肩書のある有名講師の講座は多くの受講者を集めているが、サークル的な活動はなかなか仲間が集まらない。講座の内容を知ってもらうため、パンフレットなどを大量に作成して配布するなどさまざまな取組がおこなわれているものの、この問題はなかなか解決の難しい問題である。口コミなどで伝えやすくするための工夫も必要であろう。

5 今後に向けて

5-1 県教育振興基本計画との整合をふまえた取り組み

富山県教育委員会では、国の第2期教育振興基本計画を参酌し、県の総合計画「新・元気とやま創造計画」との整合性を図りながら、平成25年9月に富山県教育振興基本計画を策定した。

その基本施策Ⅵ「生涯をとoshた学びの推進」（1）多様な学習活動の支援 の【おもな取り組み】には、「学習の成果を活かしたボランティア活動（県民カレッジ自遊塾やふるさと学習におけるボランティア講師）や公民館等を中心とした地域活動の推進」及び「ICT（情報通信技術）の活用による世代のニーズに対応した在宅学習機会の充実への支援」という項目がある。

地域社会への帰属意識の希薄化や住民交流の機会の減少が進行し地域コミュニティの活力衰退等が懸念されている中、富山県では、地域の魅力に関する学びの機会をとoshて、ふるさとへの愛着と誇りを育み、将来を担い、活躍する地域人材を育成し、活力あるふるさとづくりを進める県民運動「ふるさと教育」を展開している。

平成 21 年度末から実施した「ICTを活用した地域ぐるみのふるさと教育と人の交流推進事業」では、県と富山県ひとづくり財団が主体となり、富山インターネット市民塾を基盤とした「富山型地域ぐるみのふるさと教育とプラットフォーム」の構築とともに、ふるさとを伝え・支える地域人材として、「県民ふるさと講師」と「住民ディレクター」の育成を行った。

上記の事業の継承事業として、平成 22 年度から 24 年度まで、県教育委員会が富山インターネット市民塾に委託し、「ICT活用ふるさと学習コミュニティ活性化事業」を実施しており、地域人材「ICTふるさと学習推進員」を育成している。

富山県生涯学習カレッジの映像センター課は、インターネットに接続できる環境であれば、家庭・職場・学校など場所を問わず、ふるさと富山の映像を視聴できる「とやまデジタル映像ライブラリー」を運用している。「とやま映像コンクール」入賞作品や、映像センター制作の郷土学習教材等、平成 26 年 2 月末現在で約 1,800 件のコンテンツを保有しており、映像ライブラリーとしては全国でも屈指の規模である。著作権等の問題は無論考慮しなければならないが、今回の調査研究において「出番づくりプログラム」を作成した県民が生涯学習・社会教育等の場で講座を開くなど、活動している様子の発信を今後検討していくことは、県民の在宅学習機会を充実させることにつながり、県教育振興基本計画にも沿った取り組みと言えよう。

また、県教育振興基本計画の基本施策Ⅵ「生涯をとoshた学びの推進」(2) 県民の学習を支える基盤整備 の【おもな取り組み】には、「ふるさと学習等を推進するボランティアやリーダーの育成」という項目があるが、県生涯学習カレッジでは、平成 19 年度から 21 年度まで、団塊、シニア世代を対象に、県民の学習活動を支えるボランティア指導者の発掘・育成とともに、市町村と連携協力し、県民の生涯学習参画や社会貢献を支援する地域人材を育成する「はつらつ学びのリーダー育成事業」を実施してきたところである。

さらに、県生涯学習カレッジでは、前述の「ふるさと教育」の一環として、平成 22 年度から 24 年度まで、ふるさと教育を推進する生涯学習団体等の指導者を育成するとともに、地域住民が身近なふるさとについて学びあう自主的な学習を推進することを趣旨とした「ふるさと学びあい推進事業」を展開してきた。

平成 25 年度の新規事業としては、県民カレッジ「高志の国文学入門・専門講座」を開講し、専門講座の活用実践コースにおいて、受講者が郷土文学に関する学習成果を活かすことにより高志の国文学館や文学現地探訪で解説をし、学びあいの講座を運営するボランティア養成を実施している。また、平成 26 年度もこの事業については継続する予定である。

このように、富山県教育委員会では、地域人材を育成する事業を継続してきており、育成講座の修了者は、富山インターネット市民塾、県生涯学習カレッジ、公民館等で講座を担当するほか、講演会講師、団体サークル主宰、施設ボランティアとして活動しているところである。今後、富山県教育振興基本計画との整合をふまえて、学習成果を活用したボランティア活動や地域活動の推進に寄与できる人材育成が図られることを望むものである。

5-2 大学による生涯学習への新たな取り組み

富山大学人間発達科学部では、学校教育及び生涯学習を担う地域人材の育成を目的に、地域社

会と共生するための教育研究機能の充実を図っている。特に生涯学習では、富山インターネット市民塾と、平成9年からICTを活用した学習基盤の構築やコンテンツ開発などで連携した研究開発を行い、市民塾で学ぶ受講者も延べ10万人を超えた。世代別受講者も図4に示すように働き盛りから今後増加が予想されるシニア世代まで幅広い。市民塾の特徴は、インターネットを活用した学びの場を通して、日常の知恵や経験を伝え合うコミュニティの創出である。他方、近年では、「新しい公共」をキーワードに、地域課題解決に参画する地域人材を産学官の連携のもとに育成する動きも出てきた。

本研究の主題である、生涯学習人材の学習の質保証と学習成果の活用という視点で、大学の持つ様々な専門性、特に、人間発達科学部が目的とする教育・学習方法の開発に関わる専門家との連携による生涯学習人材育成の可能性について言及する。

(1) 地域人材の教育力向上を目的とした市民塾ゼミ

試みの一端として、インターネット市民塾で講座を開設したい受講生に、インターネット等情報通信技術を活かした教育・学習方法の開発において不可欠な、映像コンテンツの開発に関する基礎技術、著作権など法的問題、成人など経験や知識のばらつきの多い受講者を対象とする学習支援の方法などについて、教材コンテンツ開発の専門家、法律の専門家、教育方法の専門家などによるゼミ「市民塾ゼミ」を実施した。また、限られた学習時間を補うものとして、講義の内容を地域公開オンライン講座として開発・配信を行った。特に、地域にあっては、時間的制約の多い学習者にとって、オンラインの学習は、いつでもどこでも学習を可能にするものであり、かつ、そこでの学習と教室での議論のブレンドで、学習者の意欲向上と学習成果の活用に対する意識向上が見て取れた。

ただし、市民塾ゼミは、あくまで時限的な講義であり、内容面の深まりや体系化といった点では、課題も多い。その課題解決の方法の一つとして、図に示す、大学の知を生涯学習振興に活かす社会人大学院生受け入れのモデルを検討した。

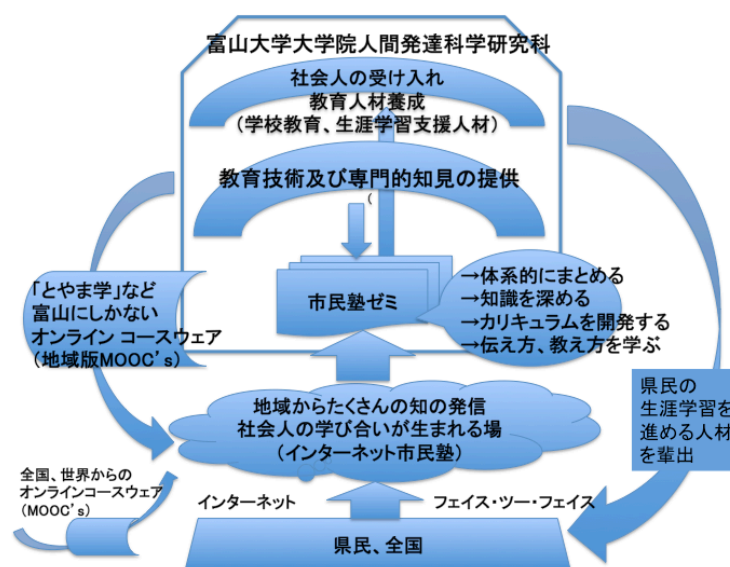


図4 大学の地を生涯学習振興に活かす概念図

大学と生涯学習の連携は、現時点では、大学の公開講座の受講生が、生涯学習履歴としての学習ポイントを加点できるのみであるが、インターネット市民塾で講座を開設しようとする意欲的な生涯学習人材を、社会人大学院生として積極的に受け入れ、市民塾ゼミでは断片的であった、教授技術、成人の学習理解、ここの専門性にあった知識を体系的に学ぶコースを整備し、地域での生涯学習をけん引する地域人材を育成しようとするものである。少子高齢化の中で、若者の大学院生受け入れとともに、知識や経験豊富な社会人、特に高齢者層の再教育機関としてのコースを整備することで、大学にとっても地域にとっても、ウインウインの関係が構築できる可能性が期待できる。ここでも、オンラインの良さと集合学習の良さをブレンドできる地域公開オンライン講座が期待される。

（２）地域人材の活躍の場としてのネットワークと大学の役割

MOOCs（大規模公開オンライン講座）とよばれ、米国の有名大学を中心に、講義ビデオを無料で配信し、世界中でネットを通して受講できるようになった。実際の単位の取得には、別途入学して学生の資格を得る必要があるが、授業の映像を見て自身で学ぶ分には無料である。日本でも東京大学、京都大学などが参画し、授業の配信を始めたことでも話題となっている。数年前から普及している米国では、最近では少し異なった動きが出てきた。LOOCs（地域公開オンライン講座）とよばれ、MOOCs のように世界を相手にするような大規模なものではなく、自分の大学やその近くの地域を対象としたコンテンツを作成して配信していこうという試みである。先にあげた「市民塾ゼミ」は LOOCs として設計を行った。

LOOCs は MOOCs ほどのスケールメリットは無いが、受講者のニーズにそった、地域色豊かなコンテンツを配信することが可能である。システム的には MOOCs と変りなく、場合によっては、もっと小規模なもので十分である。動画配信では、YouTube などのサイトを利用すれば、特に独自に準備する必要は無く、映像の撮影も、スマートフォンやパソコンに付属している USB カメラで十分に行え、すぐにアップロードできる。

今回の受講者の多くが高齢者であることを考えると、その人たちが持っている知識は、数年から数十年のうちに消えてしまう。講座等で話をすることは体力も必要であり、長期間続けることはどうしても難しくなることが容易に予測できる。そのため、元気なうちに、映像として撮影し、記録しておくことは、知を蓄積し、後世に永く伝えていくためにも必ずやっておかないといけないことであろう。

また、富山県では、カレッジに付属する富山県映像センターにおいて、「とやまデジタル映像ライブラリー」を運用しており、これに蓄積していくことで、県民の共有の財産として活用していくことも可能となるであろう。映像センターには本格的なスタジオも完備しており、これらを活用して、知の蓄積を進めて行くことも、今後の課題であると考ええる。

富山大学人間発達科学部および大学院人間発達科学研究科では、さまざまな教育方法の研究、生涯学習に関する課題解決、ネットワークを活用した新しい学びについて、教育・研究を行っている。今回の事業で明らかとなった、出番を求める人たちに、教育的知識や技術、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を身に付けてもらうことや、ネットワークを活用した新しい学

びのためのコンテンツやより使いやすいシステムを開発するなど面で協力していくことが可能であると考え。最近では、定年退職後のシニア世代がこれらを学び、第2の人生において自分のこれまでの経験や学びを次世代に伝えていこうと大学院に入り直し、学びを続けるという事例も増えてきている。

長野県駒ヶ根市では、平成6年から3年毎に「地域の身近な先生「指導者名簿」」を発行している。人形作りやフラワーアート、カラオケまでさまざまな先生が登録されており、学校の学習活動やPTA活動、公民館活動などの指導者を探すために活用されている。本事業でも訪問した秋田県では、「行動人」として、さまざまな活動を行う人をWebページで紹介しており、登録者数はすでに3万人を上回っている。人が循環する、行動することで、知や技術を循環させていこうという取り組みである。富山県でも、県民カレッジのWebページに生涯学習講師・指導者検索システムがあり、1300人ほどが登録されているが、その知名度や活用はまだまだである。ショーケースの内容が、これらにリンクされることにより、活動の可能性を高めていくことも大切であろう。また、自分でショーケースを作成されるのを待つだけでなく、本人の許諾が取ればだが、積極的にショーケース作成を支援して、公開していくような関わり方も、「出番づくり」という点では考えていけないといけないのかもしれない。

5-3 実運用化に向けて（運用面）

本事業では、生涯学習推進の中核的機関である富山県民生涯学習カレッジを中心に産学間で連携することにより、各機関の特色や固有の情報を持ち寄った人材育成のネットワーク化や人材情報の見える化が図れることが明らかとなった。

特に活動相談の場では、富山県民生涯学習カレッジのノウハウにより地域人材としての目標が具現化したり、公民館連合会が持つ公民館とのネットワークにより、地域人材としての活動場所である公民館への理解を深めたり、公民館のニーズに合った活動プランづくりを支援することができた。特に、eポートフォリオに蓄積されたデジタル化された学習歴や活動歴、相談の記録などの活用により、学習成果の活かし方を示すことや、学習成果の活かし方について体系的に分かりやすく伝えることが可能になることで、学習者に応じて効果的にアドバイスできる。また、相談内容や相談に対するアドバイスを関係者間で共有することが可能となることで、それぞれの機関が専門性に応じた対応に専念できる。

また、eポートフォリオシステムと県民カレッジ受講生の講座受講歴を管理してきたデータベースとの連携が可能になったことで、学習記録の集約化とショーケースによる学習記録の情報発信のための基盤が整った。生涯学習の様々な場面で学んだ学習の記録が集約されることで、分野・テーマとしての深まりに加え、他の分野、テーマとの関連などを俯瞰し学習成果としてどのような意味を持つか、自己評価を行う機会の提供と、学習成果を役立てることへの意欲の向上につながる。

以上のように、生涯学習推進の中核機関や教育行政が学習成果の活用を促進するeポートフォリオの運用に関わることで、学習に関する記録の一元化や関係機関の専門性を活かした学習者対応の役割が期待される。

5-4 実運用化に向けて（技術面）

生涯学習推進の中核機関では、施設情報、開講する講座に関する情報や、生涯学習の推進に関わる人材に関する情報、講座の受講歴等を管理、公開するシステムとして生涯学習支援システムが導入されている。生涯学習支援システムにより生涯学習機関では、講座の受講を希望する住民に対し講座情報の案内や、過去に受講した講座の受講歴を提供している。

学習成果の活用について e ポートフォリオ、ショーケースの有効性や可能性については、これまでに指摘した通りだが、こうした機能を生涯学習機関が管理するシステムに導入するには、開発・保守費用やサーバの維持管理面で生涯学習推進の中核機関を運営する地方自治体の負担が大きい。

今回、整備した e ポートフォリオシステムは、生涯学習支援システムとは異なるサーバで運用されており、ネットワークを経由して、生涯学習支援システムとの連携が可能となっている。e ポートフォリオシステムには、生涯学習支援システムに蓄えられた講座の受講履歴にアクセスする機能が備わっており、生涯学習支援システムの ID とパスワードによる認証後、認証した利用者の講座の受講履歴データに e ポートフォリオの画面からアクセスすることができる。すなわち、本来は異なるシステムでありながらも、利用者は異なるシステムであることを意識せずにシステムを利用することが可能になる。

そこで、e ポートフォリオによる学習の成果活用支援を全国規模で広げるための運用モデルとして、e ポートフォリオ、ショーケースの機能を公的機関が生涯学習機関に対して提供するクラウドサービス型のモデルを提案する。

生涯学習機関は公的機関と契約を結び、サービス利用料を支払うことで、クラウドサービスとして提供されている e ポートフォリオの機能を利用する。

クラウドサービスを提供する公的機関は、e ポートフォリオシステムの構築費用や、システムを維持するためのサーバ、データベースの維持管理、保守費用を負担する。e ポートフォリオサービスを利用する側である生涯学習推進の中核機関は、e ポートフォリオサービスの利用料と生涯学習機関を利用する住民に対するサポート、導入済みのシステムとクラウドサービスを連携する機能の導入のみを行うことになる。

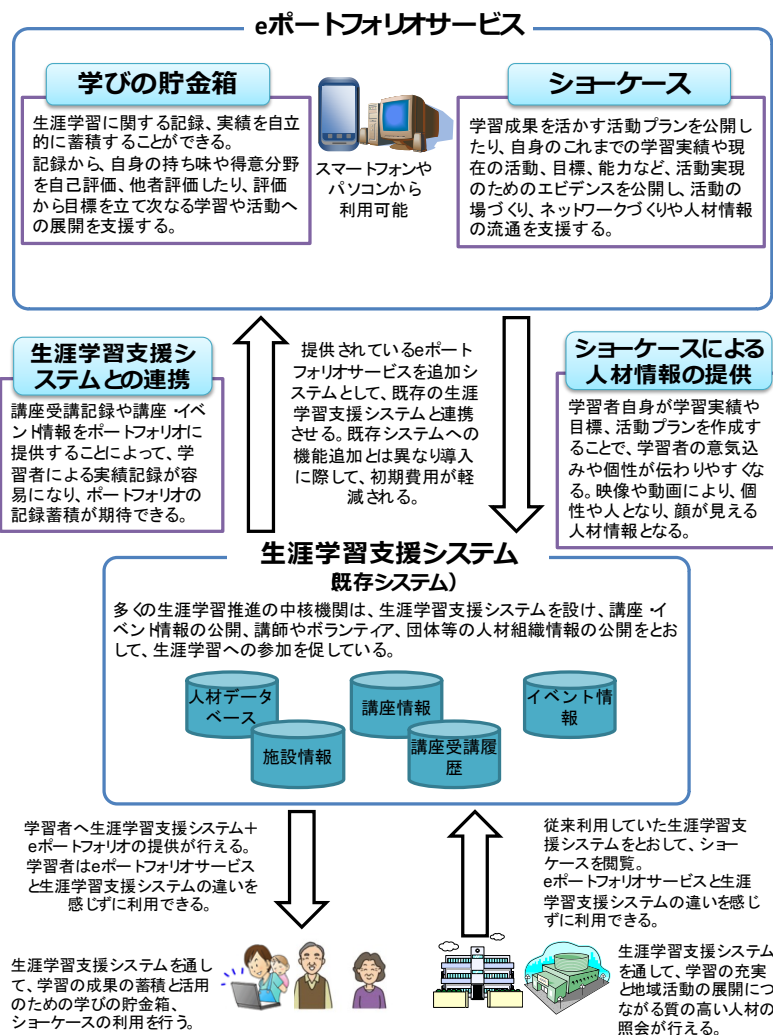


図 5 eポートフォリオサービスと生涯学習支援システム

地域の中核的な生涯学習機関における e ポートフォリオ・e パスポート活用の実証的研究実施体制（組織名五十音順）

	組 織 名	代 表 者 名
	NPO 法人 地域学習プラットフォーム研究会	理事長 柵 富雄
統括	地域 e パスポート研究協議会	代表 山西 潤一
	富山インターネット市民塾	理事長 山西 潤一
	富山県教育委員会 生涯学習・文化財室	室長 木村 博明
	富山県公民館連合会	会長 鹿熊 久三
	富山県民生涯学習カレッジ	学長 荒井 克博

地域 e パスポート研究協議会委員名簿（氏名五十音順）

	氏名	所属	職名
	荒井 克博	富山県民生涯学習カレッジ	学長
	木村 博明	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	室長
	黒田 卓	富山大学人間発達科学部	教授
	柵 富雄	NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会	理事長
オブザーバー	立田 慶裕	国立教育政策研究所生涯学習部	統括研究官
	中村 啓志	富山県公民館連合会	事務局長
代表	山西 潤一	富山大学人間発達科学部	教授
事務局	吉田 真理	富山インターネット市民塾推進協議会	事務局

ICT の活用による学習成果の評価・活用に関する調査研究

地域の中核的な生涯学習機関における e ポートフォリオ・e パスポート活用の実証的研究

報告書 資料編

平成 26 年 3 月

地域 e パスポート研究協議会

資料編目次

資料 1	研究協議会開催記録.....	1
資料 2	学習者へのアンケート結果.....	13
資料 3	出番づくり応援プログラム参加者へのアンケート結果.....	23
資料 4	学習者へのアンケート結果.....	33
資料 5	支援機関へのアンケート結果.....	42
資料 6	参加者が作成した活動プラン.....	50
資料 7	活動プランの記載内容チェックシート.....	54
資料 8	学びの貯金箱（e ポートフォリオ）活用についての資料 1	55
資料 9	学びの貯金箱（e ポートフォリオ）活用についての資料 2	58
資料 1 0	活動プラン発表会・表彰開催記録.....	60
資料 1 1	学びを活かす「地域人材」紹介冊子配布先.....	63
資料 1 2	Web ページによる人材照会	64
資料 1 3	e ポートフォリオシステムの概要	66
資料 1 4	e ポートフォリオシステムと生涯学習支援システムとの連携	68

資料 1 研究協議会開催記録

(1) 第 1 回研究協議会

日時：平成 25 年 11 月 13 日（水） 10 時 00 分～12 時 30 分

場所：富山県教育文化会館 203 号室

議題：①事業計画について

②実証研究の協力者の募集について

③その他

「ICT の活用による学習成果の評価・活用に関する調査研究」 第 1 回 地域 e パスポート研究協議会 議事録		
開催日時	平成 25 年 11 月 13 日（水）	10：00～12：30
開催場所	県教育文化会館 203 号室	
出席者	富山県県民生涯学習カレッジ	荒井学長
	富山県教育委員会 生涯学習・文化財室	木村室長、石倉氏、森氏
	富山大学人間発達科学部	山西教授（代表）、黒田教授
	富山県公民館連合会	中村事務局長
	NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会	柵理事長
	富山インターネット市民塾 推進協議会事務局	杉本氏
	文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課事務局	細野係長
		(株)ジェック経営コンサルタント 谷優美子、田中雅人
議 事	1. 開会挨拶 2. 平成 25 年度の事業実施計画について 3. 実証研究の協力者の募集について 4. その他	
協議内容	1. 開会挨拶 (1) 山西先生 ・生涯学習における今までの学びや経験を地域に活かす取り組みとして、e ポートフォリオ（電子媒体）を活用する。ポートフォリオで記録していく中で、今後は e パスポートを活用して展開する。 (2) 文部科学省 細野係長 ・委託期間が短く非常にタイトな取り組みとなる。本趣旨をご理解の上、改めてご協力賜りたい。本年度が研究最終年度となり、次年度以降は普及活動に転じるためにも、本年度は導入手引書などの成果物をお願いしたい。 (3) 関係者挨拶 ・協議会メンバーによる自己紹介、挨拶。	

2. 平成25年度の事業実施計画について

(1) 要綱の確認

(2) 計画書の確認

①昨年度の取り組み

- ・ ふるさと学習推進員 → eポートフォリオ → eパスポート
(市民塾による新たな講座) (学びの記録) (情報発信)

②今年度の取り組み

- ・ 協力者への説明会の実施（振り返り、ワークショップ、活用説明等）
- ・ ファイリング（学びの記録、振り返り、目標づくり）
- ・ 企画の発表（企画発表、表彰、認定書交付等）
⇒発表方法は未定。今後検討する。

<懸念事項として>

- ・ 新しい講座は難しいため、どのように推進していくのか。
- ・ 県民カレッジの研修修了者はどのような形で（地域で）活躍しているのか。
- ・ 県民カレッジの受講生は数百名いるが、本事業に参加したいと思われる方がどの程度いらっしゃるか。かなり少ないと想定される。対象を県民カレッジと限定するのではなく、募集範囲を拡大すべきではないか。

<システム開発の進捗状況について>

- ・ 昨年の仕様で進めるものとする。またシステム機能として、学遊ネットとeポートフォリオの連携を図る。スマホ、タブレット対策も視野に入れる。

<地域人材としての認定の仕組みについて>

- ・ 認定の仕組みの妥当性について見直しを検討。
- ・ 評価委員会としては何を認定するのか。
⇒人ではなく、講座を認定するのが自然ではないか。

3. 実証研究の協力者の募集について

(1) 全体の流れの確認

- ・ 協力者への説明会の実施。自身の学びや経験を振り返り、ワークショップによる話し合い、地域人材の事例紹介を通じて今後の目標づくりを行う。
- ・ その過程において、eポートフォリオの活用方法について説明を行う。

(2) 事例紹介

- ・ 秋田県の県民総「行動人」推進事業について資料確認。
⇒「すべての県民が行動人になる」ことを目指し、県民が「学んだことを行動に結びつけ社会に生かす」という機運を醸成し、環境を整える。

(3) 学んだことを役立てる支援への展開について

- ・ eポートフォリオによる記録と振り返りによる「学ぶ支援」→「学んだこ

	とを役立てる支援」を実施する。 ・e ポートフォリオの必然性を訴求すべく、本活動における出口を明確にしておく必要があるのではないか。 (4) 募集チラシについて ・想定ターゲットは高齢者が多いことから I C T にどれだけの理解を示して頂けるかには不安が残る。そのため語彙表現など説明する側としても分かりやすい表現とする。また募集方法と内容を明確にし、参加条件を追加しておく。 ・見出しを「出番づくりプログラム」デザインコンテストとし、「あなたの学びを●●に活かしませんか？」という形で各自の企画を募る。その上で、優れたアイデアの企画を表彰するものとする。 ・取り組みの背景をお伝えするためにも、第一ステップとして今までの取り組みを振り返り、整理する (e ポートフォリオの活用)。その上で、第二ステップとして各人の新たな「出番」をデザインする。 ⇒参加者本人が「どのような分野で自分の経験や学びを活かしたいか」が明確になっていた場合は、どのような活路があるか助言する。 4. その他 ・本事業における視察先候補としては秋田県、佐賀県、大分県、青森県等のいずれかを予定している。 以 上
--	---

(2) 第 2 回研究協議会

日時：平成 26 年 2 月 7 日 (金) 12 時 30 分～14 時 30 分

場所：富山県教育文化会館 304 号室

議題：①事業状況報告、アンケート調査結果報告

②今後の実施内容、人材活用につながる広報について

③その他

「ICT の活用による学習成果の評価・活用に関する調査研究」 第 2 回 地域 e パスポート研究協議会 議事録		
開催日時	平成 26 年 2 月 7 日 (金)	12 : 30 ~ 14 : 30
開催場所	富山県教育文化会館 304 号室	
出席者	富山県生涯学習カレッジ	荒井学長
	富山県教育委員会 生涯学習・文化財室	木村室長、石倉氏、森氏
	富山大学人間発達科学部	山西教授 (代表)、黒田教授
	NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会	柵理事長
	富山インターネット市民塾 推進協議会 事務局	杉本氏、吉田氏

	事務局	(株)ジェック経営コンサルタント 谷優美子、田中雅人
議 事	1. 事業実施報告 2. 今後の実施内容 3. その他	
協議内容	1. 事業実施報告 (1) 出番づくり応援プログラム説明会、定例相談会の実施報告 ・昨年 12 月から実施した説明会（全 1 回）及び相談会（全 3 回）の参加者、内容についてご報告。 ・相談会出席者は説明会参加者より大幅に減少したものの、その分相談会に参加頂いた方全員が前向きで熱意のあるプランをお持ちであり、既に各機関との折衝をされている方もいらっしゃり、積極的に活動頂けている方がほとんどであった。 ・また当初予定にはなかった「活動プランづくりのための相談会&活動プランづくりに役立つ貯金箱説明会（全 2 回）」の実施状況についてもご報告。相談会同様参加人数は少ないものの、自身の活動プランの広報に向けた準備を前向きに進めていらっしゃる方ばかりであり、数多ある活動実績（エビデンス）を整理されている姿も見受けられ、徐々に活動プランが完成に近づいてきている。 ・併せて参加者への情報発信、定期フォローとして実施した応援レター配信についてもご報告。本日までに全 6 回配信している。 (2) プログラム参加者へのフォローと e ポートフォリオの活用について ・上記説明会、相談会を通じて活動プラン作成のサポートを定期的に実施。 ・また活動プラン作成に際し、「学びの貯金箱（e ポートフォリオ）」の活用方法、操作方法についても説明。資料配信済み。 ・市民塾にて開催した相談会&説明会に参加頂いた方には、「自身の活動記録（修了証や認定証、写真、新聞記事等）をスキャニングし電子化→学びの貯金箱へ記録頂き→ショーケースにて公開する」までの手順をマンツーマンで説明し、参加者自ら作業頂いた。 ・しかし、PC に不慣れな方、自宅が PC 環境にない方もいらっしゃるため、まず電子化の効果についてご理解頂き、事務局にて電子化のフォローを実施。今後の広報活動していくため準備を進めている。 (3) 活動プランの提出状況の報告 ・昨年末開催の説明会にて 28 名の方に参加頂き、相談会を経て、現在 10 名の方に活動プランを提出頂いている。	



- ・提出はショーケースに公開頂けた方や郵送で頂いた方、電子メールで頂いた方とバラつきはあるものの、積極的に活動を進めて頂いている方からの提出が多い。書き方の基準は説明させて頂いているものの、進捗や内容にバラつきが見受けられる。23 日までにフォローが必要。

(4) 人材活用に関する生涯学習機関との学習者へのアンケート結果報告

1) 県民カレッジ等を利用する学習者へのアンケート

- ・出番づくり説明会参加者 26 名 回答 25 名 (96%)
 - ・平成 25 年 12 月。県民の「学んできたことや経験を生かした活動」に関する現状調査を実施。
 - ・説明会に参加されている時点で元々意思が高い方々であり、実際参加者の 9 割以上が学んだことや経験を講師やボランティア活動の形で生かしており、その場は多様である。
- ・県民カレッジ マイページ登録者へ実施予定 (3 月頃)

2) 公民館、青少年教育施設等へのアンケート

- ・384 機関 回答 126 (33%)
 - ・平成 25 年 12 月。学習成果を活かして地域活動を行う人材育成・活動支援に関する現状調査を実施。
 - ・地域活動を目指す人材の認定制度や人材の情報について、ほとんど把握されておらず、「ボランティアや活動を志す人が少ない」という回答や、「地域課題、現代課題の把握と求められる人材を把握していない」という状況がある。

(5) 生涯学習支援調査研究のための先進事例調査

- ・平成 26 年 1 月 30 日～31 日、秋田県生涯学習センター様視察。
- ・30 日は約 1 時間、秋田県民の活動状況と課題、県民への支援内容などセンターの取り組みや、行動人の取り組みについてお話を伺った。
- ・2 日目は天候の都合もあり、午前中のみ滞在となり、セミナーのみの参加。「学びあい」の生涯学習・社会教育—その理念と技法—に触れる。

2. 今後の実施内容

(1) プランに対する応援プログラムについて

- ・提出頂いた活動プランについては、広報活動する前に関係機関にてレビューを実施。
- ・再度内容や書き方を見直していただけるよう、参加者へフィードバックするためのアドバイス及び応援メッセージを記述する。
- ・活動プランへのアドバイス・支援事項としては大きく 4 項目(実績、目標、

課題、取組み) に対しての助言を行い、+αとして活動に対する応援メッセージを記載し学習者への励みとしていただく。

- ・一昨年は提出頂いた活動プランを「評価」することが目的の一つであったが、本年度は学習者の出番づくりを「応援」することであり、評価、点数付けを行う訳ではなく、上記アドバイスを通じて活動プランの方向付けを行う。
- ・しかし担当機関としてアドバイスすることは立場上難しいため、これまでの経験を元に個人（地域eパスポートの委員）としての助言を行う。
- ・事務局にてフォーマットの準備、活動プランの取りまとめを行い、改めて関係機関へ連絡。14日(金)までの完了を目指す。取りまとめた結果を受けて、17日(月)以降、順次ご連絡する。
- ・学習者へのアドバイスを通じて、評価委員までに事務局サイドで発表者の選出を行う。学習者への事前に通達することで、発表会までの準備を進めて頂く。
- ・また活動プラン未提出者については、随時フォローする。電子化が困難な方については、事務局にて代行するなどして一人でも多くの方に提出頂く。

(2) 発表会・表彰について

- ・発表会は当月23日(日)午後から実施。第3回協議会、評価委員会も同日開催予定。
- ・事前にマスメディアへの告知を行い、当日はネット、マスコミで一斉に活動プランの公開と関係機関への広報を実施する。
- ・広報先についてはまだ検討中であり、早急に案内する。
- ・また意見としてスタードラフト会議(日テレ)のように、学習者の発表を受けて、委員の皆様が携わっている機関で「是非当機関を利用して欲しい」など学習者をスカウトするような形式を取れないか提案があった。

(3) 評価後のプログラム参加者へのフォローについて

- ・3月下旬に県民カレッジキャンパスメニューブックを配布予定。
- ・県関係、教育機関、市町村、生涯学習団体、協賛企業、教育文化会館など約100箇所に対してキャンパスメニューブックの配布を予定しており、併せて今回作成頂いた活動プランの取り纏めを冊子として配布する。

3. その他

- ・文部科学省より報告書の提出について、当月中を目処に作成依頼があった。事業自体は3月28日までであるが、報告書構成案に基づき、各自作業を進める。
- ・今後のスケジュールとしては、

	① 事業完了報告書、根拠書類の準備状況の確認／2月末まで ② 上記書類の一次提出（準備出来たところまで）／3月7日(金) ③ 省内手続き開始（並行して追加での書類提出）／3月10日(月)～ ④ 省内手続きの完了／3月末～4月上旬 ⑤ 省内手続き完了後、随時委託費の振込み ・23日協議会にて進捗状況の確認、最終仕上げに向けて精査する。 以 上
確認事項	評価（レビュー、アドバイス）フォーマット作成 関係機関によるレビュー、助言 マスメディアへの告知 参加者への活動プラン作成フォロー 発表会、第3回協議会、評価委員会開催準備
次回日程	平成26年2月23日（日）13時～富山県教育文化会館 403 号室（予定）

（3）第3回研究協議会

日時：平成26年2月21日（水）午後4時～5時25分

場所：富山市牛島新町 タワー111 ビル 21 階会議室

議題：①事業状況報告・今後の実施内容

②事業（学習成果の評価、活用支援のモデル化）の考察

③その他

「ICT の活用による学習成果の評価・活用に関する調査研究」 第3回 地域eパスポート研究協議会 議事録		
開催日時	平成26年2月23日（日）	13:00～15:00
開催場所	富山県教育文化会館 203 号室	
出席者	富山県民生涯学習カレッジ	荒井学長、石倉副学長、森氏
	富山県教育委員会 生涯学習・文化財室	広瀬様
	富山県公民館連合会	中村事務局長
	富山大学人間発達科学部	山西教授（代表）、黒田教授
	NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会	柵理事長
	国立教育政策研究所	立田氏
	富山インターネット市民塾 推進協議会 事務局	杉本氏、吉田氏
	事務局	(株)ジェック経営コンサルタント 谷優美子、田中雅人
1. 事業状況報告・今後の実施内容		

議 事	2. 事業（学習成果の評価、活用支援のモデル化）の考察 3. その他
協議内容	2. 事業状況報告・今後の実施内容 (1) 活動プランの提出、レビュー状況の報告 ・第2回協議会以降に開催した相談会、応援レター配信状況の確認。 ①相談会 ・平成26年2月12日（水）活動プランの電子化説明会 ②応援レター配信 ・平成26年2月10日（月）広報に向けた電子化について ・平成26年2月14日（金）活動プラン発表会開催案内 ・出番づくり応援プログラムへの参加状況及び活動プランの提出状況確認。 ①説明会、相談会の参加者状況 ・平成25年12月23日（月）説明会／参加者28名 ・平成26年1月8日（水）相談会①／参加者3名 ・平成26年1月18日（水）相談会②／参加者7名 ・平成26年1月25日（水）相談会③／参加者7名 ・平成26年1月30日（水）レクチャー①／参加者4名 ・平成26年2月1日（水）レクチャー②／参加者4名 ・平成26年2月12日（水）レクチャー③／参加者2名 ②活動プラン提出状況 ・（本日時点で）13名の方にご提出頂いた。 ・提出頂いた活動プランを受けての評価委員からのコメントについて確認。 ・当初11名の方についてコメント頂いた。追加2名（白石様、湊様）についてもお願いしたく、後日事務局よりご案内させていただく。 ⇒尚、本日の発表会については、10名の発表を予定している。 ・評価委員より、学習者へのコメントを通じて総評頂いた。（※以下敬称略） <中村氏> ・昨年末の説明から、どう自分の考えを積み上げていくか、学習者の方にとってはタイトな日程の中での取りまとめとなり、時間がなかったのではないか。 ・時間があれば、より具体的な活動プランに仕上がっていたと思う。 <黒田氏> ・富山の方は表に出るのは苦手だと思っていたが、今回提出頂いた方々は真逆であった。70歳を超えてから積極的に活動されている方もいらっしゃる見習いたい。

- ・知識や経験をどう蓄積していくか。本活動において具体的にになったと思う。

<山西氏>

- ・出番を求める人（学校や公民館など）にご自身の活動プランを、どのように伝えるかが難しいと感じた。今のままだと伝わりにくいところもあり、相談員（書き方を指導する人）が必要であったかもしれない。
- ・また出番づくりを応援するというゴールが広いため、アドバイスが難しい。

<荒井氏>

- ・自身の活動記録を整理され、電子化されたことは素晴らしいことである。
- ・本日発表会を予定しているが、今後の課題としては、伝える力（プレゼンテーション能力）を身に付ける必要もあったと感じる。
- ・表彰についても、本来であれば、発表会を受けて選出すべきであったが、時間の都合上難しかったことが悔やまれる。

<中村氏>

- ・自分が活躍できるフィールドやレベルがどの程度の位置にあるのかという悩みが多いと感じた。地区レベルなのか、自治体レベルなのか、ご自身のもつ力がどこまで通用するのか謙遜されている方も見受けられた。

<柵氏>

- ・定期的に相談会を実施してきた中で、相談員としての限界を感じることもあった。皆さん専門的にご活躍されている方ばかりであり、時に業界の専門知識を必要と感じる場面もあり、表面上の回答になっていたこともあった。

<立田氏>

- ・他県でも本事業と類似した活動しているところはあるが、本事業においては、自分が活動してきたことをキャリアとして明文化し、電子化して残すという点においては、13 名の方が活動プランを提出されており、非常にすばらしい事例であると感じる。
- ・また個人レベルで自己の振り返りをされている方はいらっしゃるかもしれないが、組織として e ポートフォリオを活用し、更に短期間で纏められたことは大変素晴らしいことであると同時に大きな成果ではないか。
- ・今回は文部科学省の受託事業であるため補助金を活用した取り組みとなっているが、本事業における成果や効果を継続していたためにも、今後の課題としては、無料で情報開示することが求められるのではないか。
⇒(例) アマゾンでは、ベストセラーの本も今や 100 円で販売される時代。今回提出された活動プランを広く周知させる上で、有償とするのか、無償とするのかは大きな違い。新たに HP 等の媒体を使用した展開をする上で、今後の課題であると思われる。

(2) 発表会、表彰について

- ・出番づくり応援プログラム 活動プラン発表会の段取りについて確認。会場は 403 号室に移動し、開催予定。

- ・発表会後に表彰、全体講評を予定。その後、時間の許す限り名刺交換会、懇親会を実施予定。

- ・表彰者について事務局より案を提示させて頂く。単純に評価委員からの推薦数で表彰者を選出するのではなく、推薦数が少ない方でもこれから継続して尽力頂けそうなプラン提出者も表彰対象とした。



⇒推薦数が多いにも関わらず表彰対象から漏れた方の理由が不明確。

- ・上記事由を考慮し、表彰者を再検討。推薦数の多い 4 名を表象対象とし、その中から本日発表予定の 3 名を表彰することとなる。

①加賀谷様：ふるさと富山の魅力アップと知のおもてなしに期待

②川田様：伝統芸能の素晴らしさ、楽しさを新たな形で地域に伝えることに期待

③大谷矢様：心と身体をユニークな方法で元気にすることに期待

- ・全体講評については、表彰対象者のみしか予定されていないが、本日発表される方全員に一言応援メッセージを送るべきではないかという意見が挙げられた。

⇒活動プラン発表後、評価委員よりお一人お一人にコメントすることとし、役割分担を行う。

(3) 活動プランの公開と関係機関への広報について

- ・大きく電子媒体による広報と紙媒体による広報を予定している。

①電子媒体による広報活動

- ・電子媒体については、地域 e パスポート研究協議会の HP にて、今回活動プランを提出いただいた方のページを作成し、公開予定。本日その素案を確認いただく。

- ・また、とやま公民館学遊ネットにて、専用のバナーを設け、公開予定。
⇒色々な人材にアクセスできる入口を設けることで、問合せ窓口を広げる。

⇒問合せ先として、富山県民生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会、富山インターネット市民塾の 3 団体について記載。

②紙媒体による広報活動

- ・前回協議会にてご案内の通り、県民カレッジキャンパスメニューブックの配布先に併せ、県内約 1,300 箇所に活動プランを取り纏めた冊子を配布予定。

- ・現時点で提出された活動プランは冊子作成前にチェックし、修正すべき

ではないかという意見が挙がった。対応については検討する。

2. 事業（学習成果の評価、活用支援のモデル化）の考察

（1）報告書構成案により現状と課題の整理

- ・前回確認した報告書執筆分担を受け、大きく以下4点について協議。
 - ①学習成果の活用における学習者の現状と課題
 - ②学習成果の活用における学習者の本モデルによる可能性、実施に向けての課題
 - ③学習成果の評価と活用支援における支援機関の現状と課題
 - ④学習成果の評価と活用支援における本モデルによる可能性、実施に向けての課題
- ・事業（学習成果の評価、活用支援のモデル化）の考察の視点としては以下の通り。
 - ①県民カレッジ等における学習成果の活用支援としての評価
 - ②ICT（eポートフォリオ）の活用評価
 - ③今後の課題（富山県の教育施策、大学における生涯学習、実運用）

（2）考察の視点について

- ・上記考察の視点を受けて、役割分担、現状について確認。
 - ①県民カレッジ等における学習成果の活用支援としての評価
 - ・今までの国の支援は「学ぶ支援」に重きが置かれていた。しかし、今は「学習した成果を生かす」ことに重点がおかれており、学びを生かす「場」をどのように創出していくかが争点となっている。
 - ・学習者本人にとっては、自身の活動記録をどのように整理していくかが課題となっており、学習者を支援する機関にとっては学習者への人的支援やICTの効果などをどのようにまとめていくかが課題となっている。
 - ・学習者の出番を創出する支援として、講師としての出番づくりだけが支援ではなく、映像や文書などの記録を整理する支援も非常に重要な位置付けである。
 - ・今回本事業を通じて（学習者に纏めて頂いた）活動プランの広報活動に向けては電子媒体及び紙媒体による情報公開となるが、前述の通り、その前段階としての自己の振り返りのサポートが重要であると考えられる。
 - ②ICT（eポートフォリオ）の活用評価
 - ・学習者に作成頂いた活動プランをショーケースにアップロードされた方を対象に、アンケートによる活用状況について前後比較を実施する。説明会時に実施したアンケートと本日発表会後に配布するアンケートを比較し調査する。

- ・経験や学びの積み重ねの振り返り（学びの貯金箱＝e ポートフォリオ）、これをもとにした活動プランづくり、活動プランの公開情報（ショーケース）をもとにした地域での相談や広報など、応援プログラムへの参加をとおした ICT の活用がどのように役立ったと考えているか。また今後役立つと考えるか。という視点で活用状況について評価を行う。

③今後の課題（富山県教育施策、大学における生涯学習、実運用）

- ・今回の実証実験は、来年度も今の枠内で実施することは可能である。しかし本事業は文部科学省の受託事業で進めた事業であり、今後富山県の生涯学習期間としての独立した活動が必要となる。
- ・今回は自己の活動記録の整理、電子化がメインとなったが、今後はその取り纏め頂いた情報をいかに第三者へ伝えることが出来るかが課題となる。
- ・伝える力＝プレゼンテーション能力のスキル向上に向けた支援機関のサポート体制の構築及び人的支援を実施するための体制作りに向けた活動が必要になってくる。
- ・県教育振興基本計画との整合性を踏まえた取り組みや大学による生涯学習への新たな取り組みを模索する上でも、本事業の成果を踏まえ、報告書へ反映させていく。

3. その他

(1) 報告書作成状況、資料について

- ・上記2の考察の視点を踏まえ、各自作報告書作成を進める。
- ・2月末までに文部科学省へ提出。

以 上

資料２ 学習者へのアンケート結果

県民の「学んできたことや経験を生かした活動」に関する現状調査

対象：県民カレッジ等を利用する学習者

(１) 出番づくり説明会参加者 26名 回答 25名 (96%)

実施：平成25年12月

(２) 県民カレッジ マイページ登録者

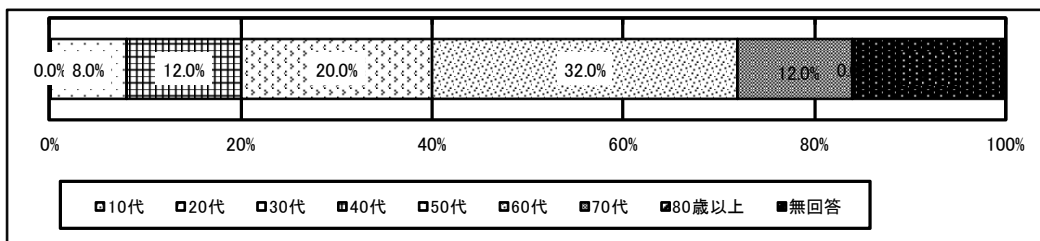
【集計概要】

＊以下は、(１) 説明会参加者についての集計概要

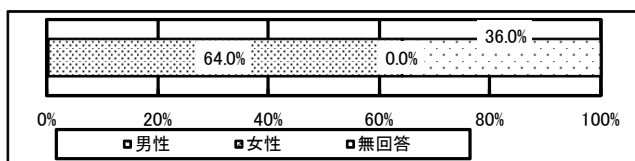
- 説明会参加者の9割は、学んだことや経験を講師やボランティア活動の形で生かしており、その場は多様である。
- ① 多いのは公民館、県・市町村の関係機関、学校等であり、県民カレッジやインターネット市民塾での講師活動も多い。
- 約9割の参加者は、今後生かしたいと「強く思う」「思う」と答えており、その形としては、講演、講師が最も多く、ボランティア活動、グループの立ち上げなどが挙げられている。
- 生かしたい場としては公民館が最も多く、学校、市民塾・自遊塾、NPO、青少年施設等が続く。
- 生かすための取り組みとして、自身の学習歴や活動歴を記録し振り返ることができるようにしている人が2割程度で少ないが、その半数は公民館や県民カレッジへの問い合わせや相談の際に「役立った」としている。
- 生かすために養成講座等にも積極的に参加しており、「新幹線開通に関連する講座」や「古志の国文学館」「市民講師レベルアップ講座」などが挙げられている。
- 生かすために県民カレッジや公民館に相談していると答えた者は多いが、一方でインターネットや知人を情報源と挙げる者も多い。
- 参加者の要望としては、「活動の場の紹介」を望む者は多く、「求められている人材と相談窓口を知らない」とする者も多い。
- 一方で、自身も「生かせるかどうか自身では分からない」や、生かす力（企画力、コミュニケーション力等）に不安を持つ者も多い。また、生かすために仲間づくりが必要と考えている者も多い。

回答者属性

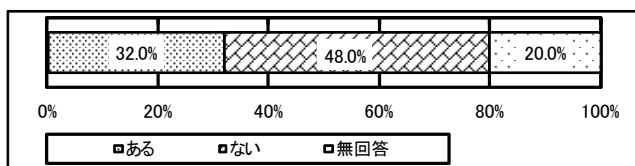
年代										
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答	全体
回答数	0	0	2	3	5	8	3	0	4	25
%	0.0%	0.0%	8.0%	12.0%	20.0%	32.0%	12.0%	0.0%	16.0%	100.0%



性別			
	男性	女性	無回答
回答数	16	0	9
%	64.0%	0.0%	36.0%

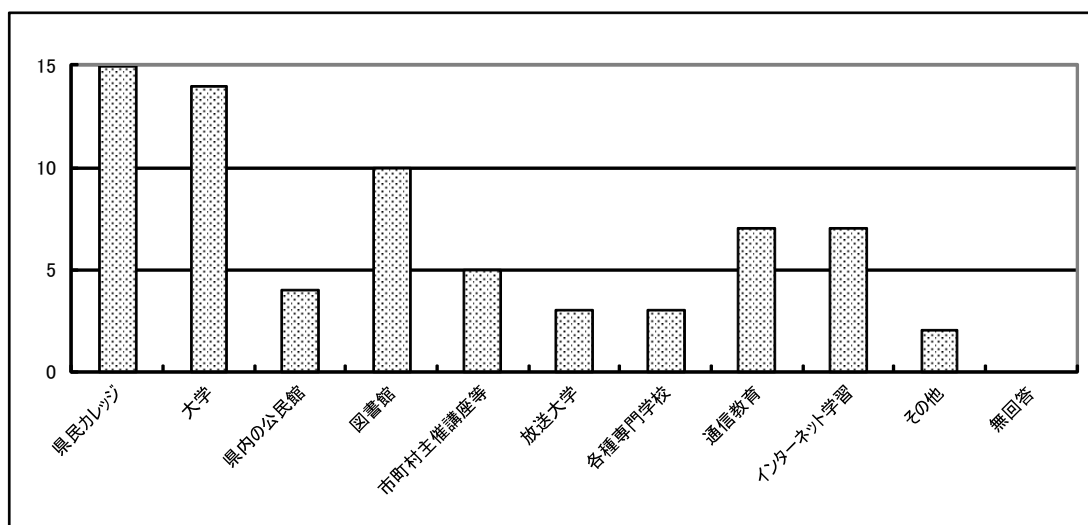


県民カレッジカード			
	ある	ない	無回答
回答数	8	12	5
%	32.0%	48.0%	20.0%



問1 あなたはこれまでどのような場で学んできましたか？（複数回答可）

	県民カレッジ	大学	県内の公民館	図書館	市町村主催講座等	放送大学	各種専門学校	通信教育	インターネット学習	その他	無回答	全体
回答数	15	14	4	10	5	3	3	7	7	2	0	70
%	21.4%	20.0%	5.7%	14.3%	7.1%	4.3%	4.3%	10.0%	10.0%	2.9%	0.0%	100.0%

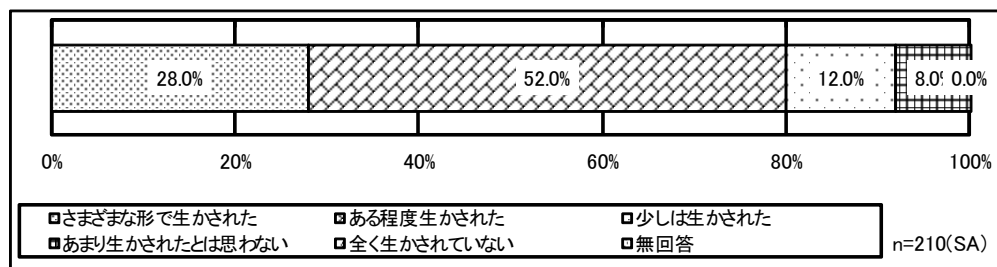


その他項目

- ・ 民間養成期間

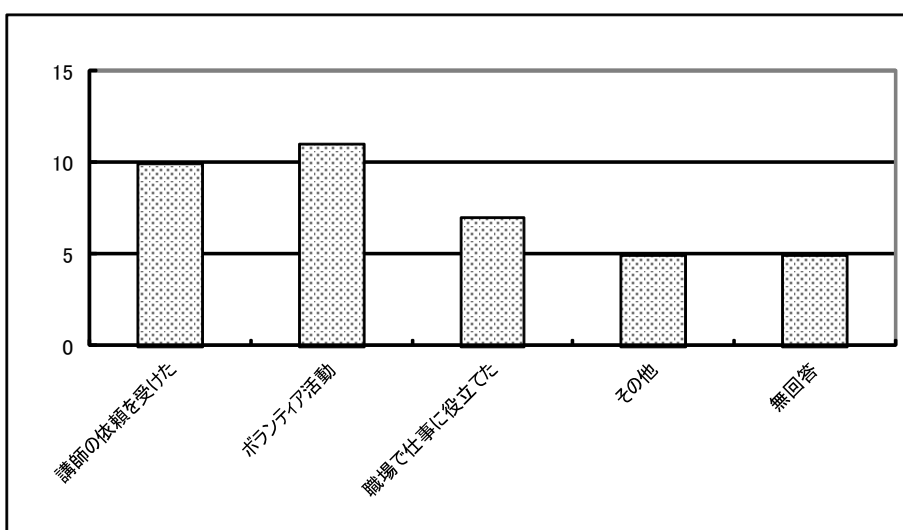
問2 あなたは、学んだことや経験がこれまでどのように生かされたと思いますか？

	さまざまな形で生かされた	ある程度生かされた	少しは生かされた	あまり生かされたとは思わない	全く生かされていない	無回答	全体
回答数	7	13	3	2	0	0	25
	28.0%	52.0%	12.0%	8.0%	0.0%	0.0%	100.0%



問3 問2で「生かされた」とお答えの方は、次のどのような形で生かされましたか？

	講師の依頼を受けた	ボランティア活動	職場で仕事に役立てた	その他	無回答	全体
回答数	10	11	7	5	5	38
%	26.3%	28.9%	18.4%	13.2%	13.2%	100.0%



その他項目

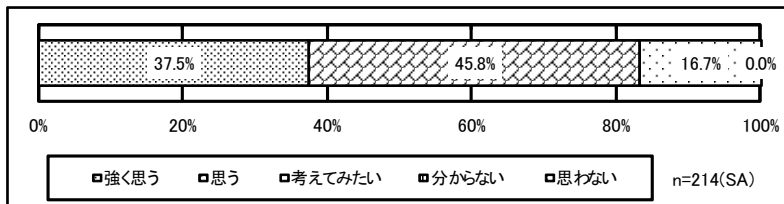
- ・ ボランティア活動などで
- ・ ITCを使って教えることが出来た
- ・ 勉強になった、知識が深まった
- ・ 人脈作り
- ・ カルチャー開講

問4 問2で「生かされた」とお答えの方は、その事例をご紹介します

地域	機関等	概要	役割
公民館、介護施設		ホームページ作成	講師、相談相手
富山県全域	いきいき長寿センター	サークルの結成	代表
富山市	国際会議場、大学、県民会館で開催される国際、国内会議の場、観光案内に活かされる		
富山県	消費生活センター、富山環境財団	悪質商法被害防止啓発活動講師、個人宅のエネルギー消費状況調査、省エネ・エコ方法案内	消費生活推進リーダー、うちエコ診断員
公民館、介護施設	市民塾	講師	講師、相談相手
インターネット 市民塾			塚原歴史の会事務局で
高岡	自由塾	笑いの体操	県民教授
富山市	学遊ビデオ・メイト		会の企画、運営
	大山歴史民族研究会、日本文化悠学会		
富山市	NPO、インターネット 市民塾	職員研修、講師による意見だし	ファシリテーター
地元	小学校	地球温暖化防止についての説明	講師として
富山県	県民カレッジ		
生涯学習	社会福祉	生き方	会員、一般人
県内外	大学、新聞社	講師の役割を果たした	
	病院、介護施設	各々施設のクライアントへのケア	ハンドソートメント講習
滑川	公民館	地元の講師で公民館のイベントを開催する時に役立った	コーディネーター
	富岩水ライン	解説員ボランティア	
会社		職場でPCのSEをしていた	
富山市	富山環境財団	はじめてのエコライフ教室	講師
高岡市		市民講座の講師	

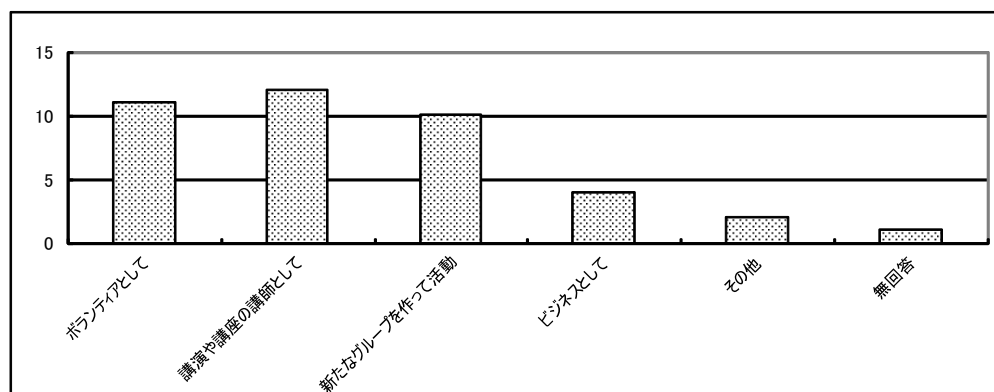
問5 学んできたことや経験を今後何らかの形で生かしたいと思いますか？

	強く思う	思う	考えてみたい	分からない	思わない	全体
回答数	9 37.5%	11 45.8%	4 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	24 100.0%



問6 問5で、「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、どのような形を考えますか？

	ボランティアとして	講演や講座の講師として	新たなグループを作って活動	ビジネスとして	その他	無回答	全体
回答数	11	12	10	4	2	1	40
	27.5%	30.0%	25.0%	10.0%	5.0%	2.5%	100.0%

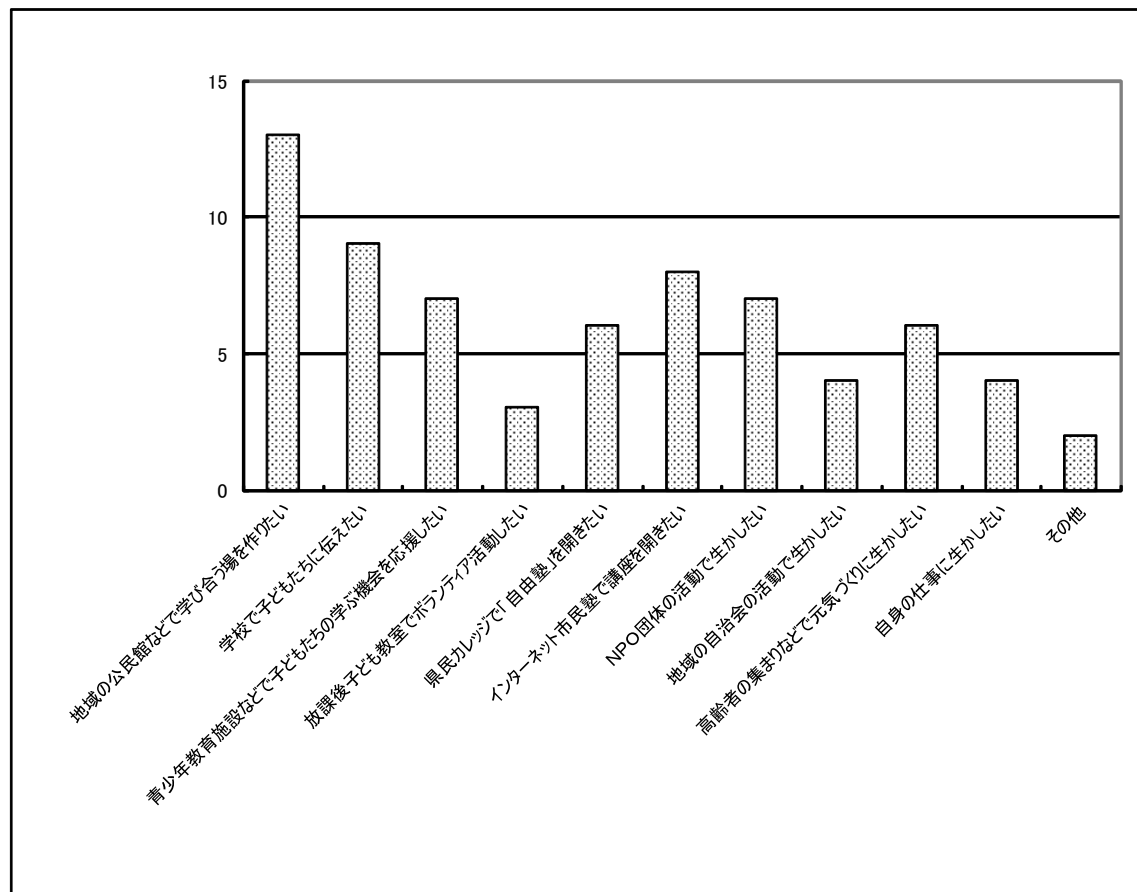


その他項目

- ・ 時間がないので教えることが出来ない
- ・ それも含めて考えてみた
- ・ これから考えます

問7 問5で、「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、どのような場で生かしたいと考えていますか？

	地域の公民館などで学び合う場を作りたい	学校で子どもたちに伝えたい	青少年教育施設などで子どもたちの学ぶ機会を応援したい	放課後子ども教室でボランティア活動したい	県民カレッジで「自由塾」を開きたい	インターネット市民塾で講座を開きたい	NPO団体の活動で生かしたい	地域の自治会の活動で生かしたい	高齢者の集まりなどで元気づけに生かしたい	自身の仕事に生かしたい	その他	全体
回答数	13	9	7	3	6	8	7	4	6	4	2	69
%	18.8%	13.0%	10.1%	4.3%	8.7%	11.6%	10.1%	5.8%	8.7%	5.8%	2.9%	100.0%

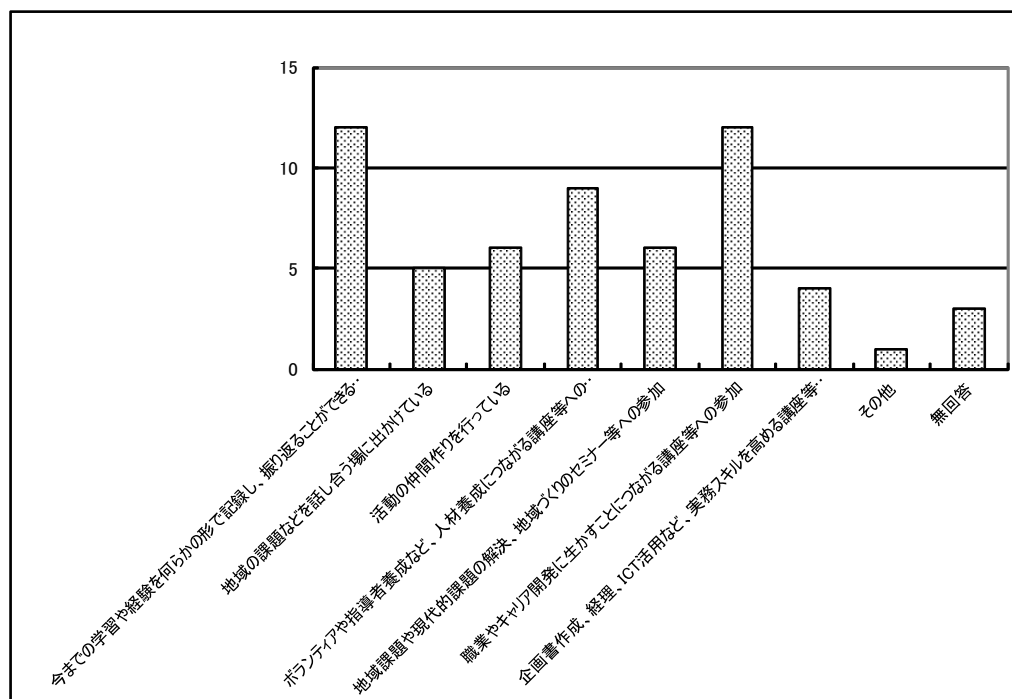


その他項目

- ・ わからない
- ・ 自分自身のために生かしたい

問8 学んできたことや経験を生かすために具体的に取り組んでいることがありますか？

	今までの学習や経験を何らかの形で記録し、振り返ることができるようにしている	地域の課題などを話し合う場に出かけている	活動の仲間作りを行っている	ボランティアや指導者養成など、人材養成につながる講座等への参加	地域課題や現代的課題の解決、地域づくりのセミナー等への参加	職業やキャリア開発に生かすことにつながる講座等への参加	企画書作成、経理、ICT活用など、実務スキルを高める講座等への参加	その他	無回答	全体
回答数	12	5	6	9	6	12	4	1	3	58
%	20.7%	8.6%	10.3%	15.5%	10.3%	20.7%	6.9%	1.7%	5.2%	100.0%

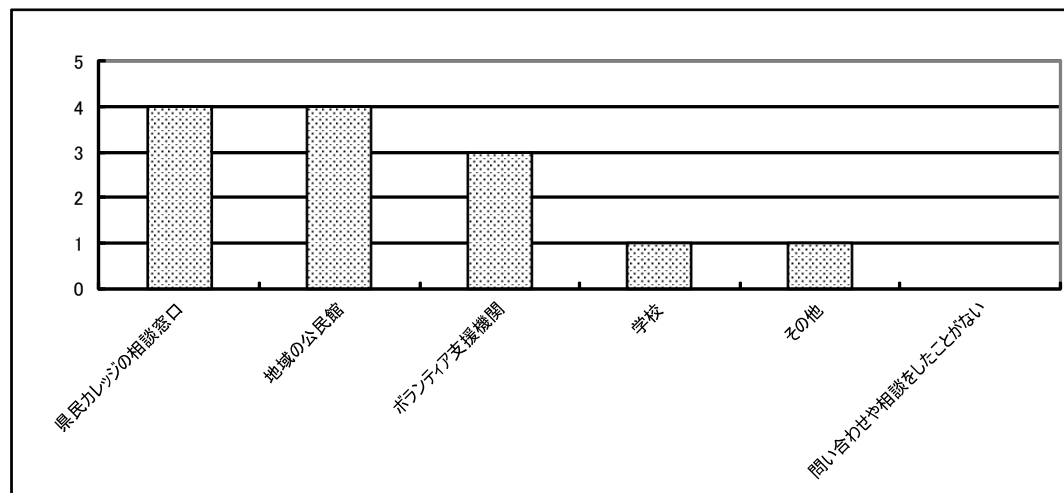


問9 上記いずれかの講座等に参加したことがある場合、もっとも役立った講座の概要をご紹介します

講座名	機関名	目的	成果
新幹線開始に関わるいろいろな催し、セミナー	いろいろ		人々の関心の度合い、プランの進み具合/遅れなどがわかる
日本海学、国際大学エクステンションカレッジ、古志の国文学館講座			
県民大学、講演会	県、市	教養を深める	
市民塾		地区の人に伝えたい、	ITCを使って行っている
高志の国文学館、活用実践コース			
フォレストリーダー	富山県フォレストリーダー会	子供たちの森林について教え、木材等ものづくりを教えるお手伝いであるが、子供たちの笑顔がおおく見られた	
市民講師レベルアップ講座	インターネット市民塾	映像の撮りかた、貼り付け。知的財産法の確認	
習い事教室経営道場	大阪市立中央青年センター	習い事教室を運営する為のノウハウを提供してもらう	6回で終了の教室を開く

問10 あなたは、学んだことや経験を生かすために、県民カレッジや公民館などの機関に問い合わせや相談を行ったことはありますか？

	県民カレッジの相談窓口	地域の公民館	ボランティア支援機関	学校	その他	問い合わせや相談をしたことがない	全体
回答数	4	4	3	1	1	0	13
%	30.8%	30.8%	23.1%	7.7%	7.7%	0.0%	100.0%

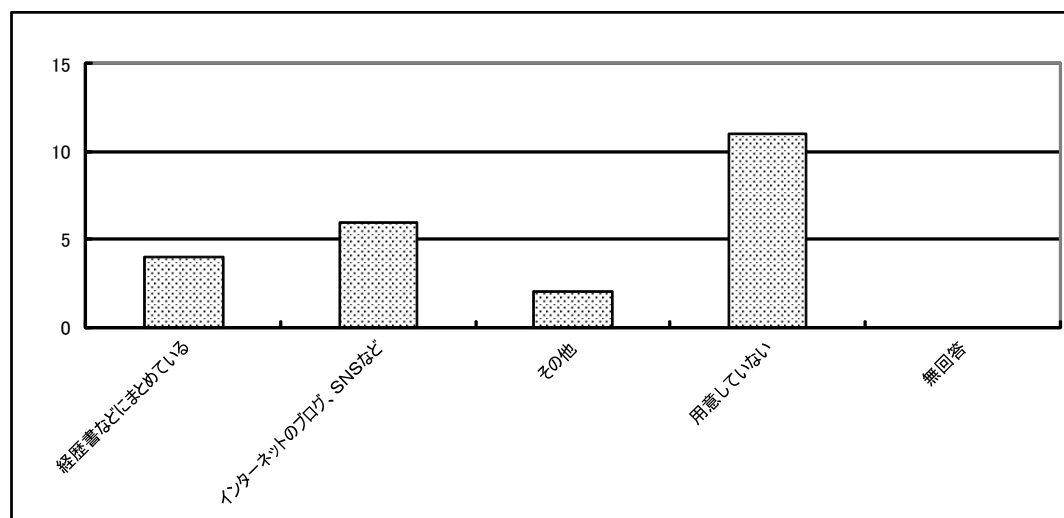


その他項目

- ・受け入れるような雰囲気がない「押し付け」体質が染み付いている

問11 あなたは、これまで学んできたことや経験、実績を分かりやすく説明する資料を用意していますか？

	経歴書などにまとめている	インターネットのブログ、SNSなど	その他	用意していない	無回答	全体
回答数	4	6	2	11	0	23
%	17.4%	26.1%	8.7%	47.8%	0.0%	100.0%

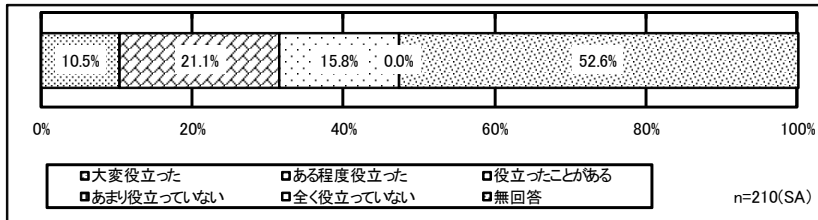


その他項目

- ・発信はしていないがまとめている
- ・ホームページで【塚原歴史の会】

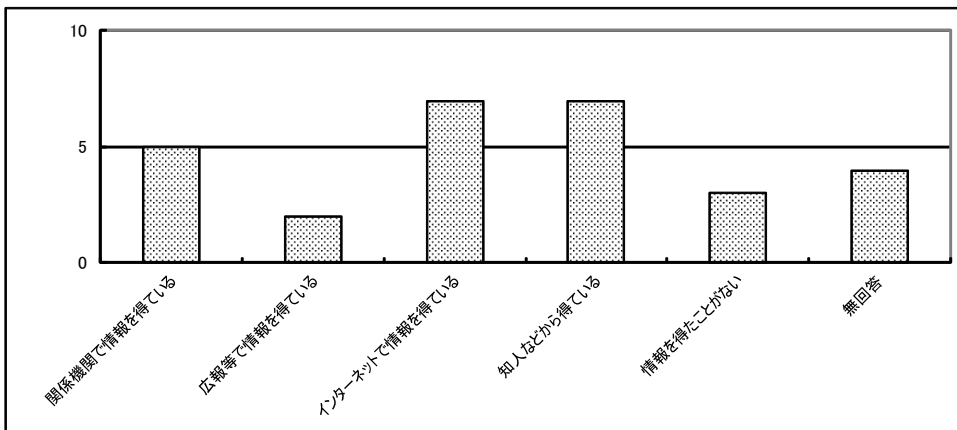
問12 問11で「用意している」方は、その資料等が機関での相談や問い合わせなどに役立ちましたか？

	大変役立った	ある程度役立った	役立ったことがある	あまり役立っていない	全く役立っていない	無回答	全体
回答数	2	4	3	0	0	10	19
	10.5%	21.1%	15.8%	0.0%	0.0%	52.6%	100.0%



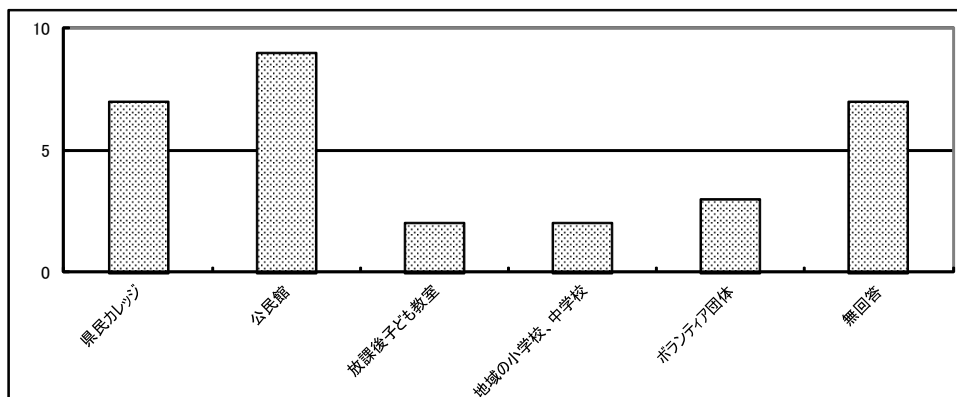
問13 あなたは学んだことや経験を生かして活動する場の情報を得ていますか？

	関係機関で情報を得ている	広報等で情報を得ている	インターネットで情報を得ている	知人などから得ている	情報を得たことがない	無回答	全体
回答数	5	2	7	7	3	4	28
%	17.9%	7.1%	25.0%	25.0%	10.7%	14.3%	100.0%



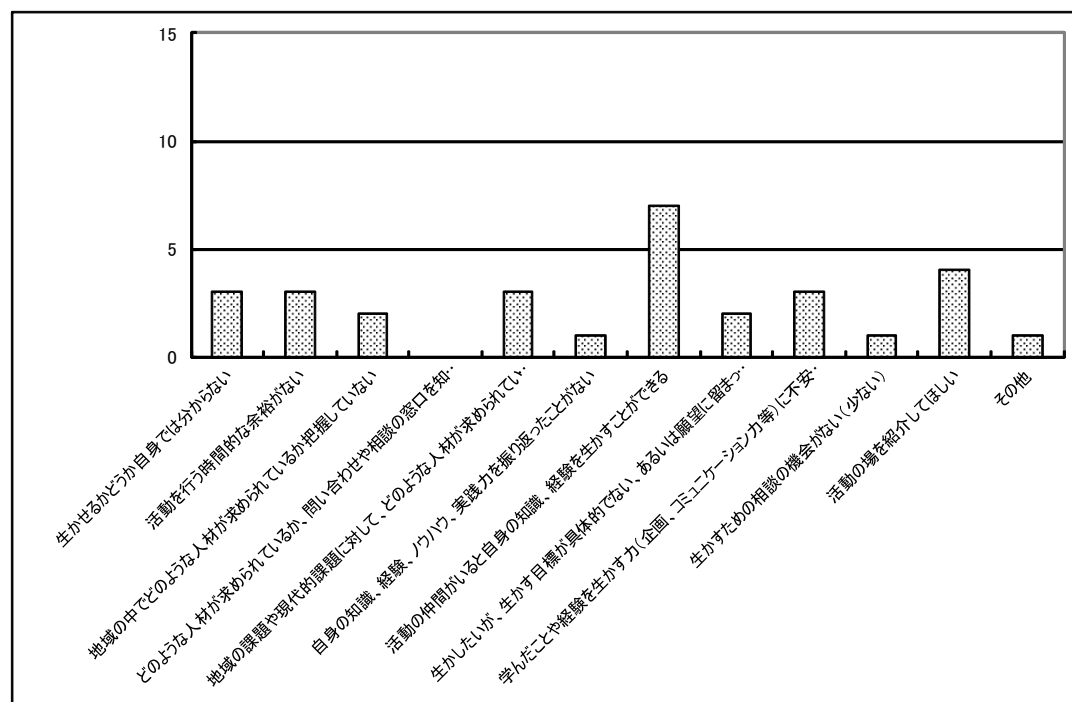
問14 あなたは次の機関では、住民の参加、活動をどのような形で受け入れているか

	県民カレッジ	公民館	放課後子ども教室	地域の小学校、中学校	ボランティア団体	無回答	全体
回答数	7	9	2	2	3	7	30
%	23.3%	30.0%	6.7%	6.7%	10.0%	23.3%	100.0%



問15 あなたは、学んだことや経験を生かす取り組みを行う上で、どのような課題を持っていますか？

	生かせるかどうか自身では分からない	活動を行う時間的な余裕がない	地域の中でどのような人材が求められているか把握していない	どのような人材が求められているか、問い合わせや相談の窓口を知らない	地域の課題や現代的課題に対して、どのような人材が求められているか分からない	自身の知識、経験、ノウハウ、実践力を振り返ることができない	活動の仲間がいると自身の知識、経験を生かすことができる	生かしたいが、生かす目標が具体的にない、あるいは願望に留まっている	学んだことや経験を生かす力(企画、コミュニケーション力等)に不安がある	生かすための相談の機会がない(少ない)	活動の場を紹介してほしい	その他	全体
回答数	3	3	2	0	3	1	7	2	3	1	4	1	29
%	10.3%	10.3%	6.9%	0.0%	10.3%	3.4%	24.1%	6.9%	10.3%	3.4%	13.8%	3.4%	100.0%



その他項目

- ・ 採算に合う基盤作り、スピード

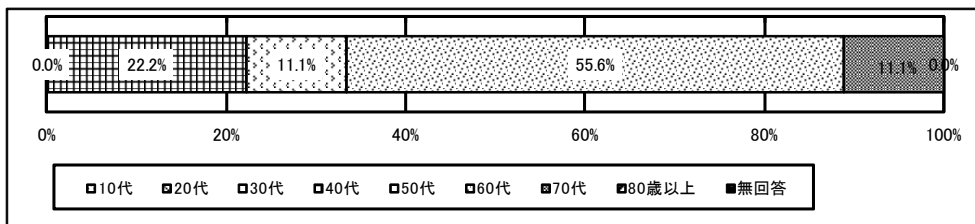
資料3 出番づくり応援プログラム参加者へのアンケート結果

県民の「学んできたことや経験を生かした活動」に関する現状調査

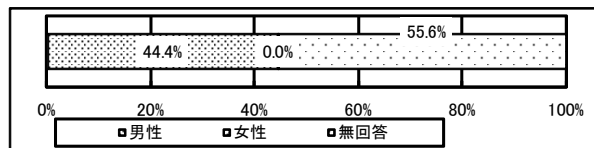
対象：出番づくり応援プログラム参加者、 実施：平成26年2月 回答9名

回答者属性

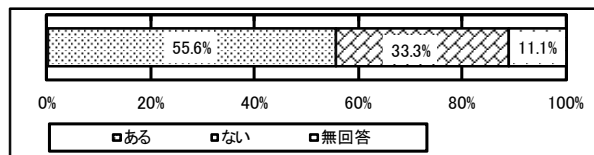
年代										
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答	全体
回答数	0	0	0	2	1	5	1	0	0	9
%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	11.1%	55.6%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%



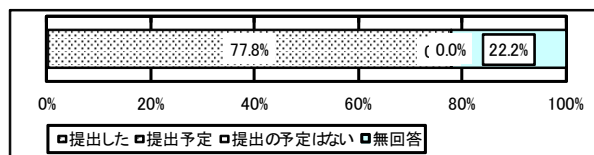
性別				
	男性	女性	無回答	全体
回答数	4	0	5	9
%	44.4%	0.0%	55.6%	100.0%



県民カレッジカード				
	ある	ない	無回答	全体
回答数	5	3	1	9
%	55.6%	33.3%	11.1%	100.0%

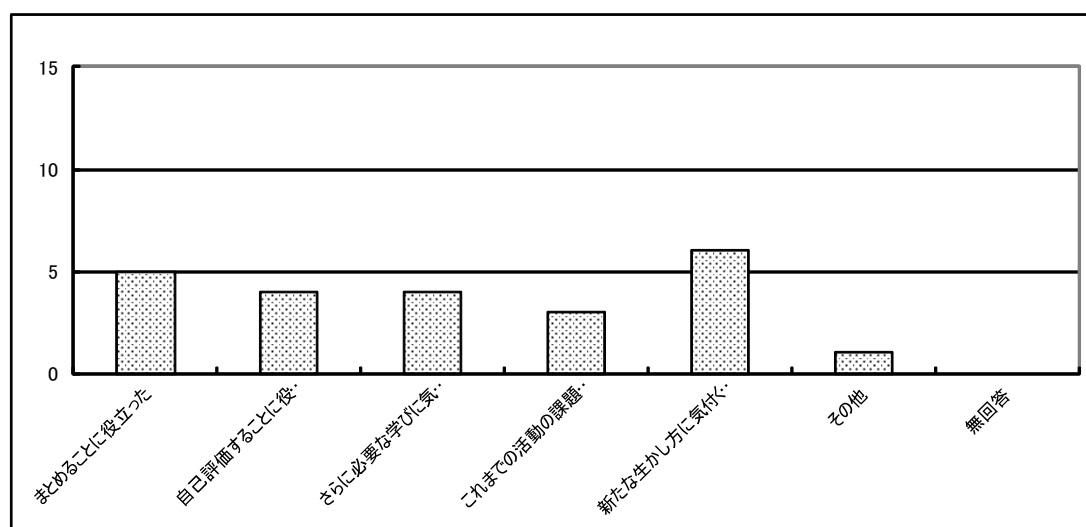


活動プランの作成					
	提出した	提出予定	提出の予定はない	無回答	全体
回答数	7	0	0	2	9
%	77.8%	0.0%	0.0%	22.2%	100.0%



問1 これまでの経験や学びによって、どのような効果を得ることができましたか？（複数回答可）

	まとめることに役立った	自己評価することに役立った	さらに必要な学びに気付くことがあった	これまでの活動の課題を振り返ることがあった	新たな生かし方に気付くことができた	その他	無回答	全体
回答数	5	4	4	3	6	1	0	23
%	21.7%	17.4%	17.4%	13.0%	26.1%	4.3%	0.0%	100.0%

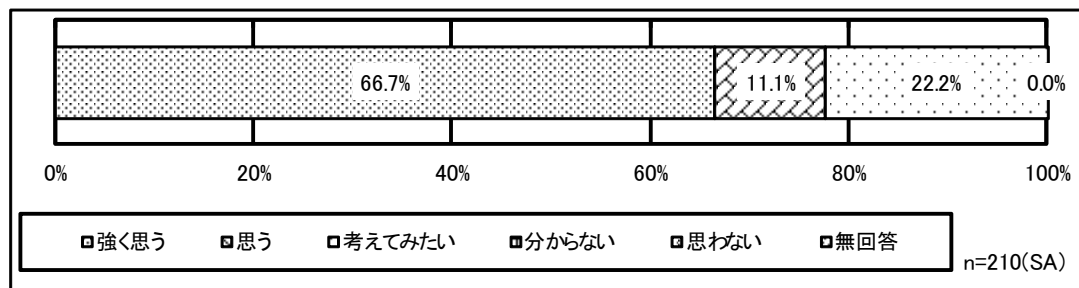


その他項目

- ・ 他人の意見を聞くことが出来た

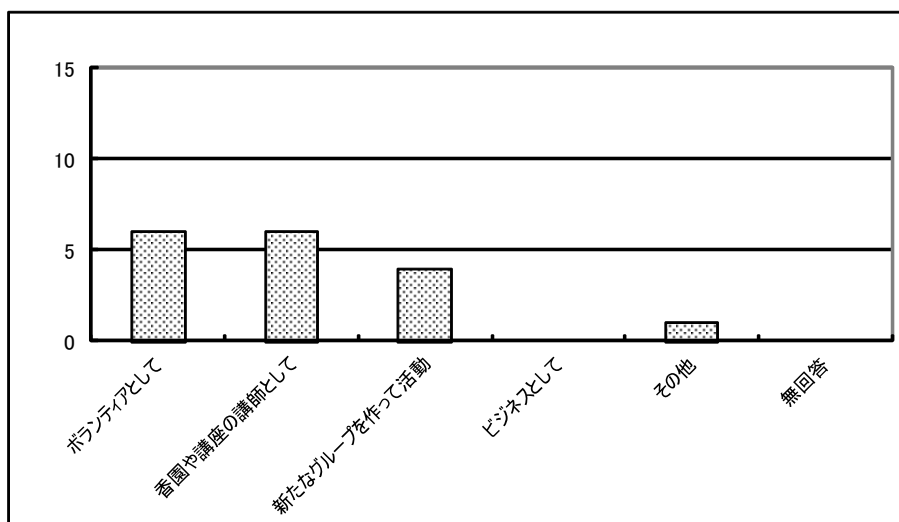
問2 学びや経験を生かしたいと思いませんか？

	強く思う	思う	考えてみたい	分からない	思わない	無回答	全体
回答数	6	1	2	0	0	0	9
	66.7%	11.1%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



問3 問2で「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、
どのような形を考えますか？（複数回答可）

	ボランティアとして	香園や講座の講師として	新たなグループを作って活動	ビジネスとして	その他	無回答	全体
回答数	6	6	4	0	1	0	17
%	35.3%	35.3%	23.5%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%

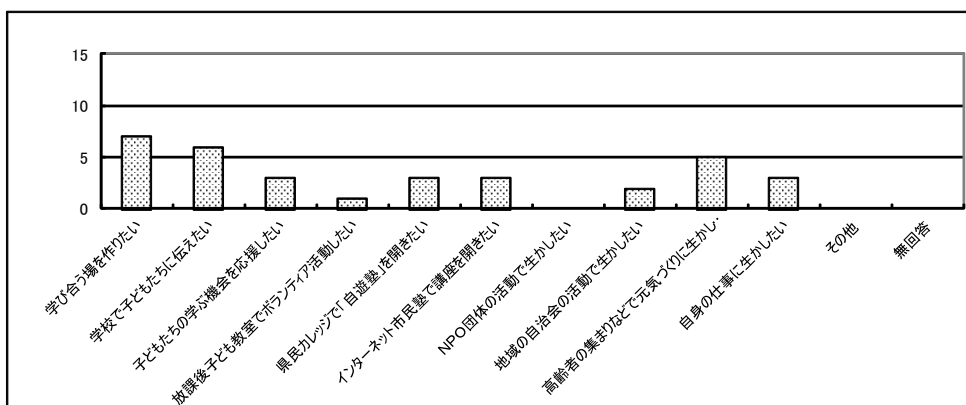


その他項目

- ・ ボランティア活動などで

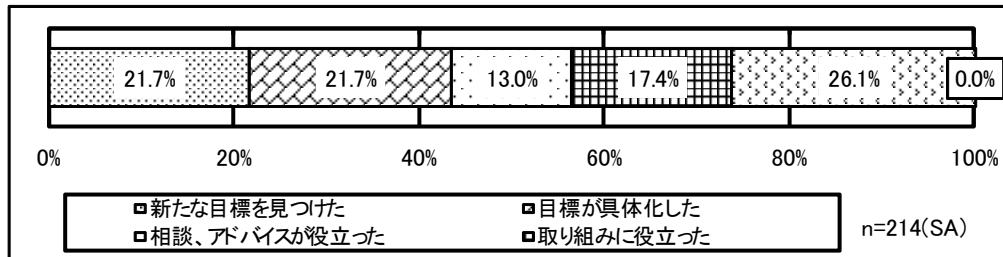
問4 問3で「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、どのような場で生かしたいと考えますか？（複数回答可）

	学び合う場を作りたい	学校で子どもたちに伝えたい	子どもたちの学ぶ機会を応援したい	放課後子ども教室でボランティア活動したい	県民カレッジで「自遊塾」を開きたい	インターネット市民塾で講座を開きたい	NPO団体の活動で生かしたい	地域の自治会の活動で生かしたい	高齢者の集まりなどで元気づけに生かしたい	自身の仕事に生かしたい	その他	無回答	全体
回答数	7	6	3	1	3	3	0	2	5	3	0	0	33
%	21.2%	18.2%	9.1%	3.0%	9.1%	9.1%	0.0%	6.1%	15.2%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%



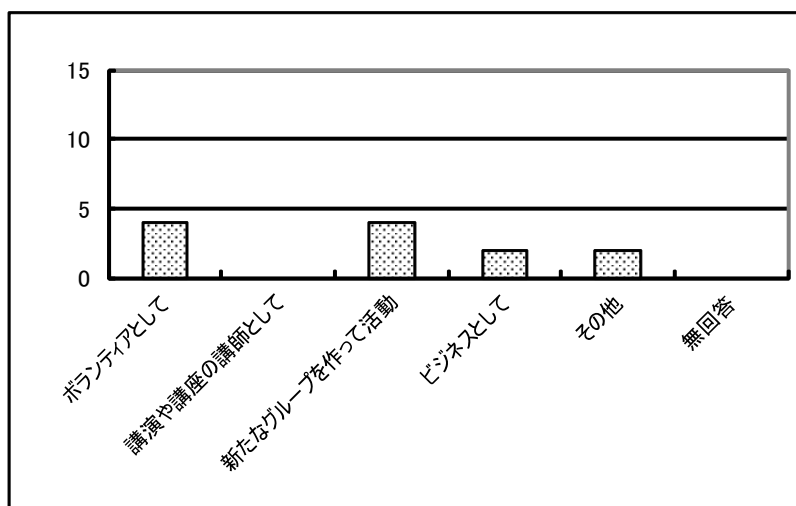
問5 活動プランづくりに、どのように役立ちましたか？（複数回答可）

	新たな目標を見つけた	目標が具体化した	相談、アドバイスが役立った	取り組みに役立った	見直しに役立った	その他	無回答	全体
回答数	5 21.7%	5 21.7%	3 13.0%	4 17.4%	6 26.1%	0 0.0%	0 0.0%	23 100.0%



問6 活動の記録や資料の保存は十分だったか？（複数回答可）

	ボランティアとして	講演や講座の講師として	新たなグループを作って活動	ビジネスとして	その他	無回答	全体
回答数	4 33.3%	0 0.0%	4 33.3%	2 16.7%	2 16.7%	0 0.0%	12 100.0%

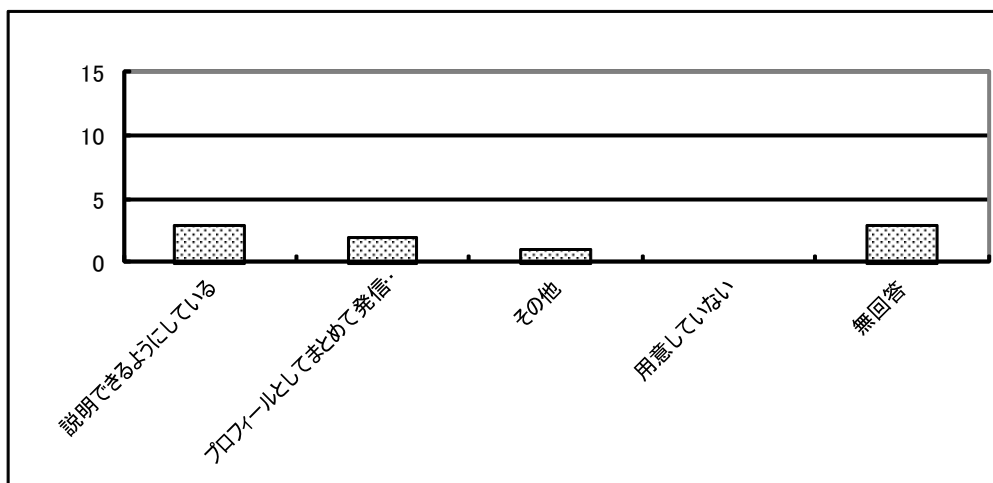


その他項目

- ・プレゼンテーションがうまくいかなかった
- ・これからさらに知識を深めます

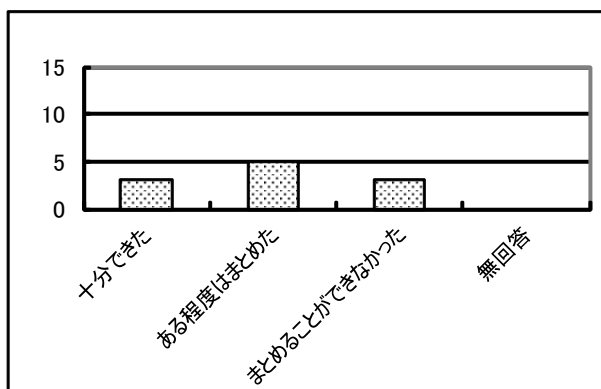
問7 実績を説明する資料を用意していたか？（複数回答可）

	説明できるようにしている	プロフィールとしてまとめて発信している	その他	用意していない	無回答	全体
回答数	3	2	1	0	3	9
%	33.3%	22.2%	11.1%	0.0%	33.3%	100.0%



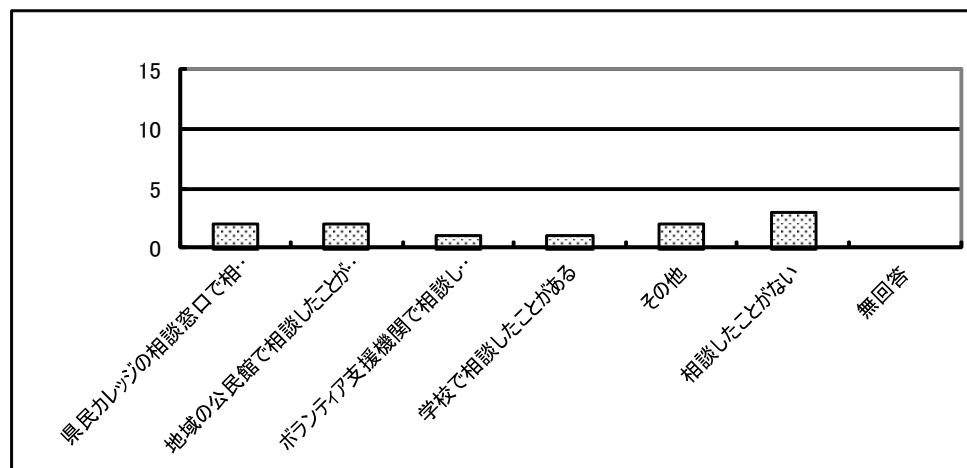
問8 学びや経験をまとめることが出来たか

	十分できた	ある程度はまとめた	まとめることができなかった	無回答	全体
回答数	3	5	3	0	11
%	27.3%	45.5%	27.3%	0.0%	100.0%



問9 応援プログラム参加以前に、関係機関に問合せや相談をされたか？（複数回答可）

	県民カレッジの相談窓口で相談したことがある	地域の公民館で相談したことがある	ボランティア支援機関で相談したことがある	学校で相談したことがある	その他	相談したことがない	無回答	全体
回答数	2	2	1	1	2	3	0	11
%	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%	18.2%	27.3%	0.0%	100.0%

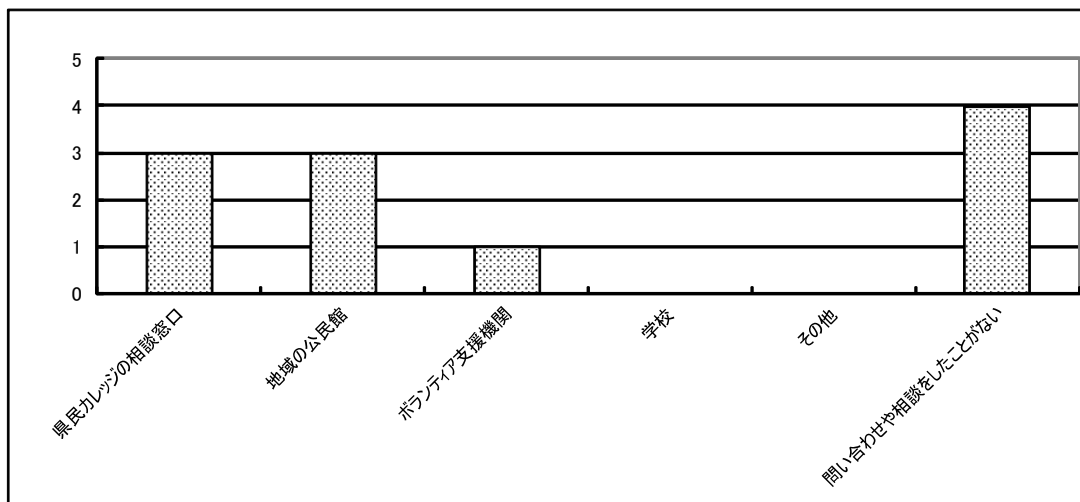


その他項目

- ・ インターネット市民塾で相談している
- ・ 公民館連絡協議会

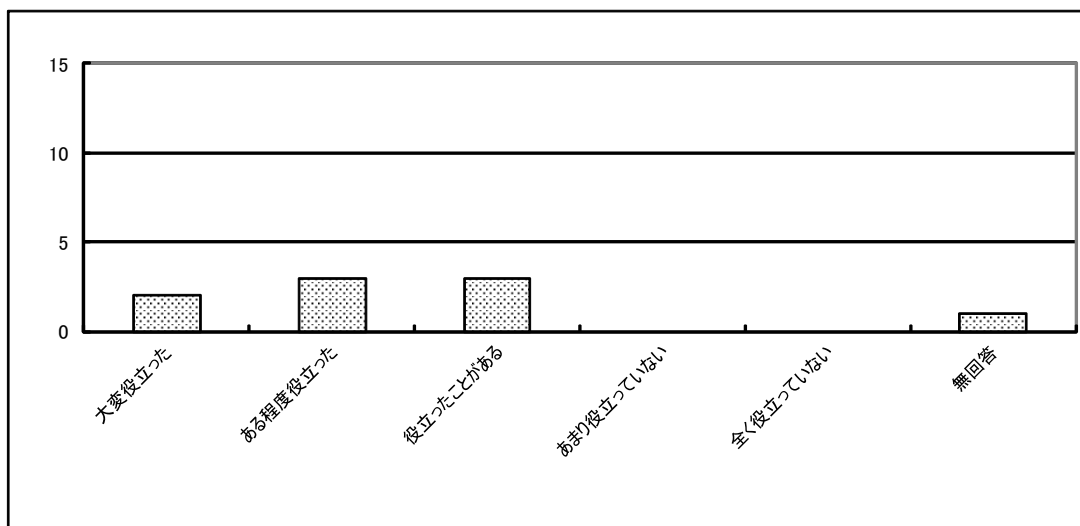
問10 応援プログラムの参加を通じて、新たに問合せや相談を行ったことはありますか？（複数回答可）

	県民カレッジの相談窓口	地域の公民館	ボランティア支援機関	学校	その他	問い合わせや相談をしたことがない	全体
回答数	3	3	1	0	0	4	11
%	27.3%	27.3%	9.1%	0.0%	0.0%	36.4%	100.0%



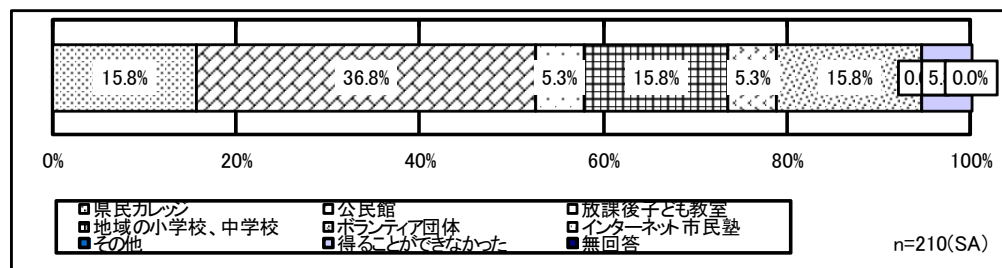
問11 まとめた資料が相談や問合せに役立ちましたか？

	大変役立った	ある程度役立った	役立ったことがある	あまり役立っていない	全く役立っていない	無回答	全体
回答数	2	3	3	0	0	1	9
%	22.2%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	11.1%	100.0%



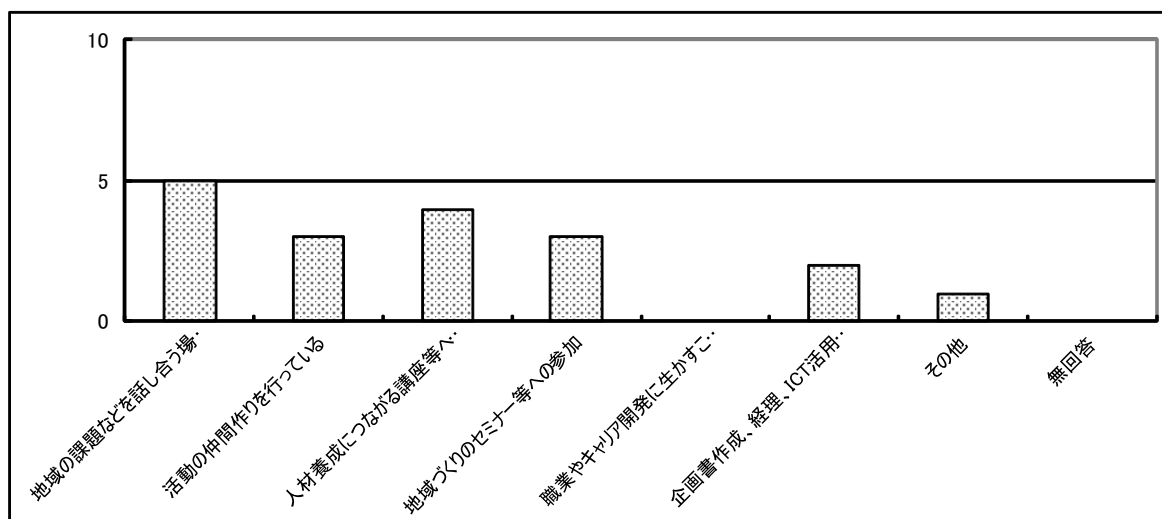
問12 次の機関では、住民の参加、活動をどのような形で受け入れているか
情報を得ることができましたか？（複数回答可）

	県民カレッジ	公民館	放課後子ども教室	地域の小学校、中学校	ボランティア団体	インターネット市民塾	その他	得ることができなかった	無回答	全体
回答数	3	7	1	3	1	3	0	1	0	19
	15.8%	36.8%	5.3%	15.8%	5.3%	15.8%	0.0%	5.3%	0.0%	100.0%



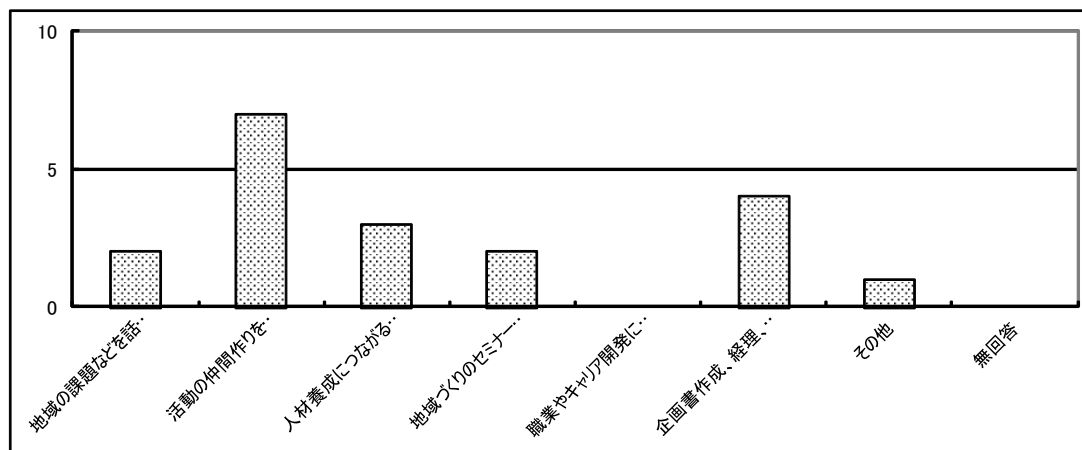
問13 応援プログラム参加以前より、学びや経験を活かすために
具体的に取組んでいることがありますか？（複数回答可）

	地域の課題などを話し合う場	活動の仲間作りを行っている	人材養成につながる講座等への参加	地域づくりのセミナー等への参加	職業やキャリア開発に生かすことにつながる講座等への参加	企画書作成、経理、ICT活用など、実務スキルを高める講座等への参加	その他	無回答	全体
回答数	5	3	4	3	0	2	1	0	18
%	27.8%	16.7%	22.2%	16.7%	0.0%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%



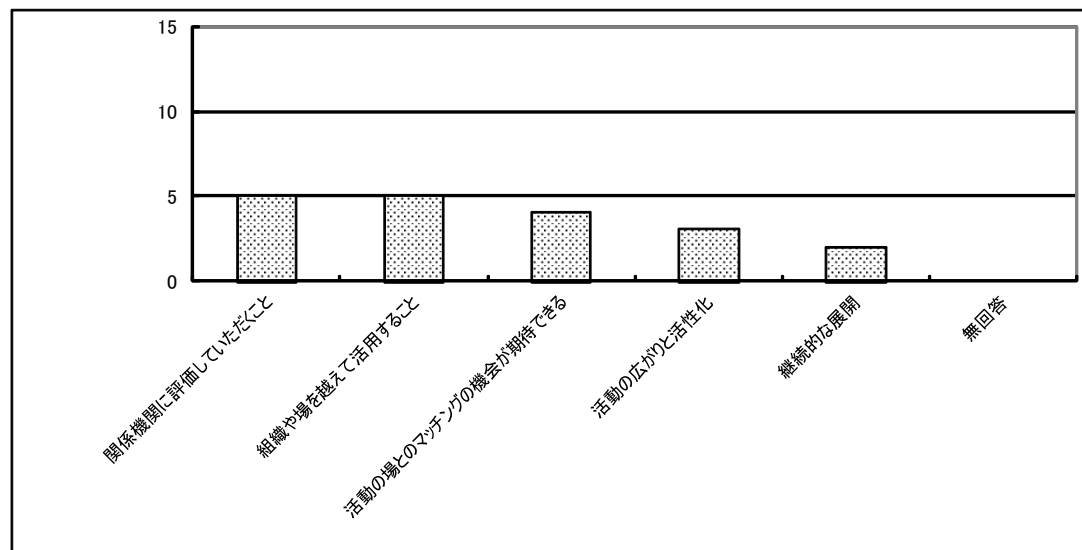
問14 応援プログラム参加を通じて、これまでの学びや経験を生かすために新たに取組もうとしていることがありますか？（複数回答可）

	地域の課題などを話し合う場に出かけていた	活動の仲間作りを行っている	人材養成につながる講座等への参加	地域づくりのセミナー等への参加	職業やキャリア開発に生かすことにつながる講座等への参加	企画書作成、経理、ICT活用など、実務スキルを高める講座等への参加	その他	無回答	全体
回答数	2	7	3	2	0	4	1	0	19
%	10.5%	36.8%	15.8%	10.5%	0.0%	21.1%	5.3%	0.0%	100.0%



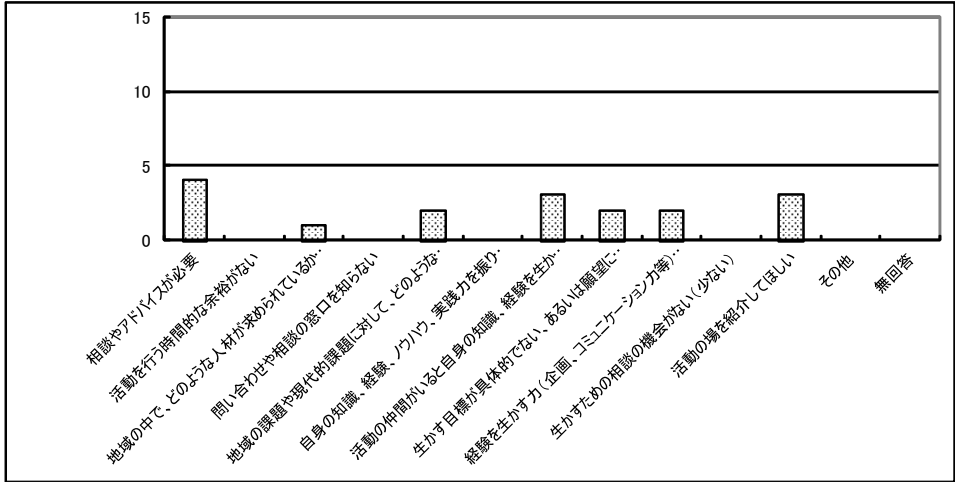
問15 ICTの活用によどのように役立ったと考えますか？あるいは今後役立つと考えますか？（複数回答可）

	関係機関に評価していただくこと	組織や場を越えて活用すること	活動の場とのマッチングの機会が期待できる	活動の広がり活性化	継続的な展開	無回答	全体
回答数	5	5	4	3	2	0	19
%	26.3%	26.3%	21.1%	15.8%	10.5%	0.0%	100.0%



問16 学びや経験を生かす上で、どのような課題を持っていますか？（複数回答可）

	相談やアドバイスが必要	活動を行う時間的な余裕がない	地域の中で、どのような人材が求められているか把握していない	問い合わせや相談の窓口を知らない	地域の課題や現代的課題に対して、どのような人材が求められているかわからない	自身の知識、経験、ノウハウ、実践力を振り返ることができない	活動の仲間がいると自身の知識、経験を生かすことができる	生かす目標が具体的にない、あるいは願望に留まっている	経験を生かす力（企画、コミュニケーション力等）に不安がある	生かすための相談の機会がない（少ない）	活動の場を紹介してほしい	その他	無回答	全体
回答数	4	0	1	0	2	0	3	2	2	0	3	0	0	17
%	23.5%	0.0%	5.9%	0.0%	11.8%	0.0%	17.6%	11.8%	11.8%	0.0%	17.6%	0.0%	0.0%	100.0%



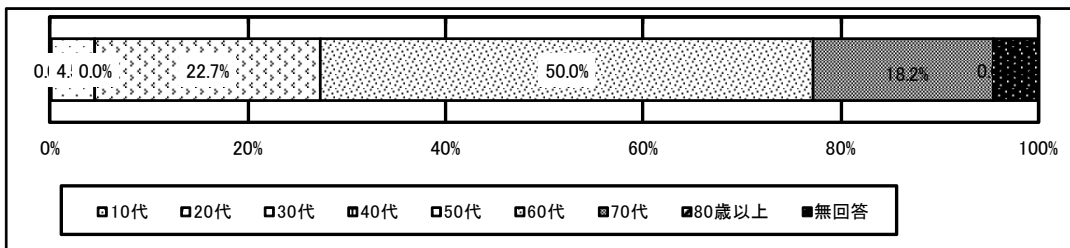
資料４ 学習者へのアンケート結果

県民の「学んできたことや経験を生かした活動」に関する現状調査

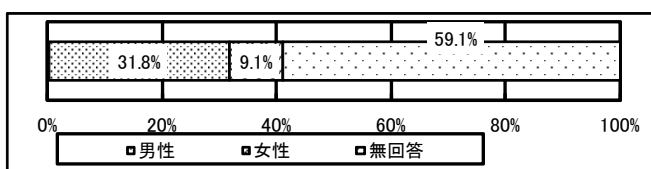
対象：県民カレッジ マイページ登録者

回答者属性

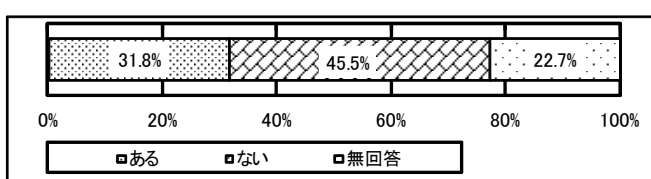
年代										
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答	全体
回答数	0	0	1	0	5	11	4	0	1	22
%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	22.7%	50.0%	18.2%	0.0%	4.5%	100.0%



性別				
	男性	女性	無回答	全体
回答数	7	2	13	22
%	31.8%	9.1%	59.1%	100.0%

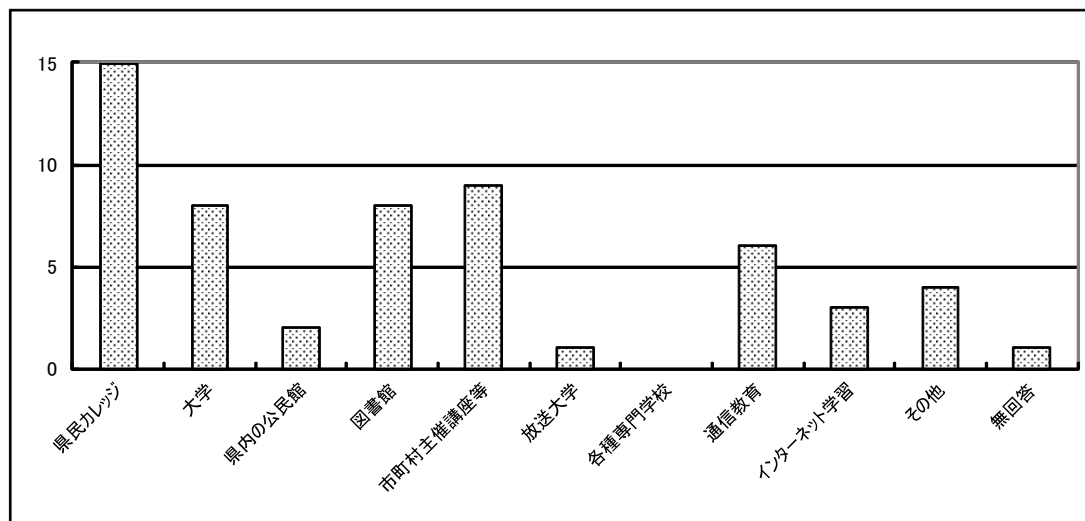


県民カレッジカード				
	ある	ない	無回答	全体
回答数	7	10	5	22
%	31.8%	45.5%	22.7%	100.0%



問1 あなたはこれまでどのような場で学んできましたか？（複数回答可）

	県民カレッジ	大学	県内の公民館	図書館	市町村主催講座等	放送大学	各種専門学校	通信教育	インターネット学習	その他	無回答	全体
回答数	15	8	2	8	9	1	0	6	3	4	1	57
%	26.3%	14.0%	3.5%	14.0%	15.8%	1.8%	0.0%	10.5%	5.3%	7.0%	1.8%	100.0%

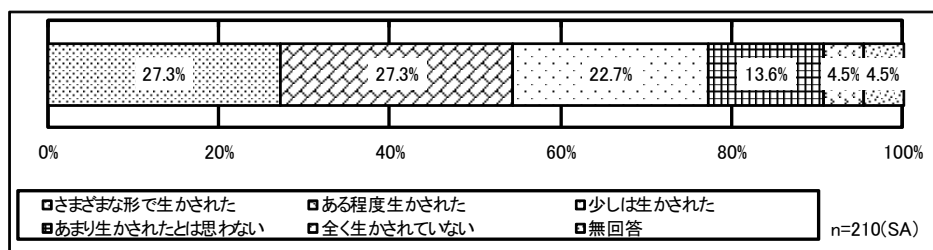


その他項目

・ 民間養成機関

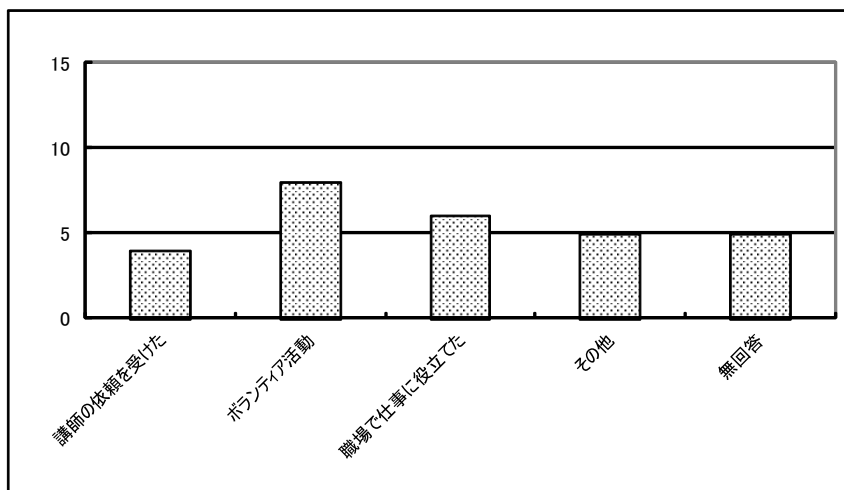
問2 あなたは、学んだことや経験がこれまでどのように生かされたと思いますか？

	さまざまな形で生かされた	ある程度生かされた	少しは生かされた	あまり生かされたとは思わない	全く生かされていない	無回答	全体
回答数	6	6	5	3	1	1	22
	27.3%	27.3%	22.7%	13.6%	4.5%	4.5%	100.0%



問3 問2で「生かされた」とお答えの方は、次のどのような形で生かされましたか？

	講師の依頼を受けた	ボランティア活動	職場で仕事に役立てた	その他	無回答	全体
回答数	4	8	6	5	5	28
%	14.3%	28.6%	21.4%	17.9%	17.9%	100.0%



その他項目

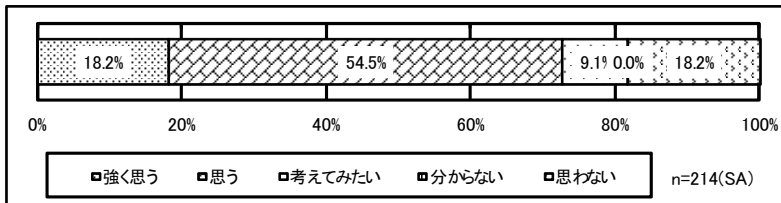
- ・ ボランティア活動などで
- ・ ITCを使って教えることが出来た
- ・ 勉強になった、知識が深まった
- ・ 人脈作り
- ・ カルチャー開講

問4 問2で「生かされた」とお答えの方は、その事例をご紹介します

地域	機関等	概要	役割
公民館、介護施設		ホームページ作成	講師、相談相手
富山県全域	いきいき長寿センター	サークルの結成	代表
富山市	国際会議場、大学、県民会館で開催される国際、国内会議の場、観光案内に活かされる		
富山県	消費生活センター、富山環境財団	悪質商法被害防止啓発活動講師、個人宅のエネルギー消費状況調査、省エネ・エコ方法案内	消費生活推進リーダー、うちエコ診断員
公民館、介護施設	市民塾	講師	講師、相談相手
インターネット市民塾			塚原歴史の会事務局で
高岡	自由塾	笑いの体操	県民教授
富山市	学遊ビデオ・メイト		会の企画、運営
	大山歴史民族研究会、日本文化悠学会		
富山市	NPO、インターネット市民塾	職員研修、講師による意見だし	ファシリテーター
地元	小学校	地球温暖化防止についての説明	講師として
富山県	県民カレッジ		
生涯学習	社会福祉	生き方	会員、一般人
県内外	大学、新聞社	講師の役割を果たした	
	病院、介護施設	各々施設のクライアントへのケア	ハンドソートメント講習
滑川	公民館	地元の講師で公民館のイベントを開催する時に役立った	コーディネーター
	富岩水ライン	解説員ボランティア	
会社		職場でPCのSEをしていた	
富山市	富山環境財団	はじめてのエコライフ教室	講師
高岡市		市民講座の講師	

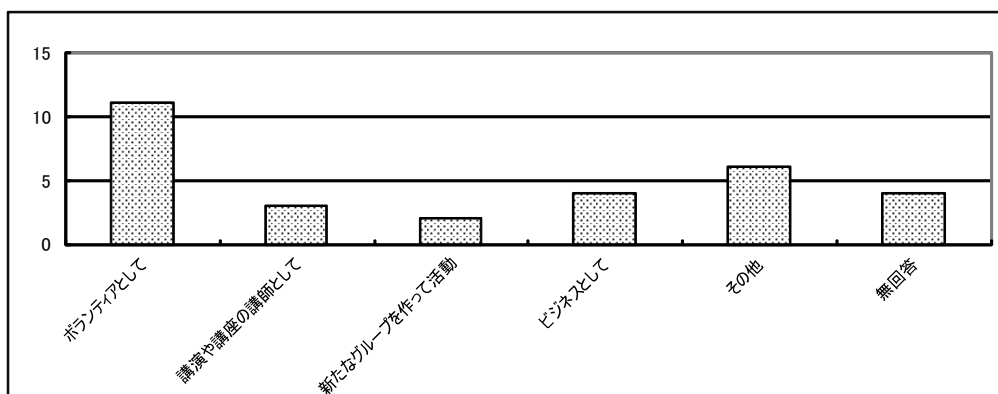
問5 学んできたことや経験を今後何らかの形で生かしたいと思いますか？

	強く思う	思う	考えてみたい	分からない	思わない	全体
回答数	4	12	2	0	4	22
	18.2%	54.5%	9.1%	0.0%	18.2%	100.0%



問6 問5で、「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、どのような形を考えますか？

	ボランティアとして	講演や講座の講師として	新たなグループを作って活動	ビジネスとして	その他	無回答	全体
回答数	11	3	2	4	6	4	30
	36.7%	10.0%	6.7%	13.3%	20.0%	13.3%	100.0%

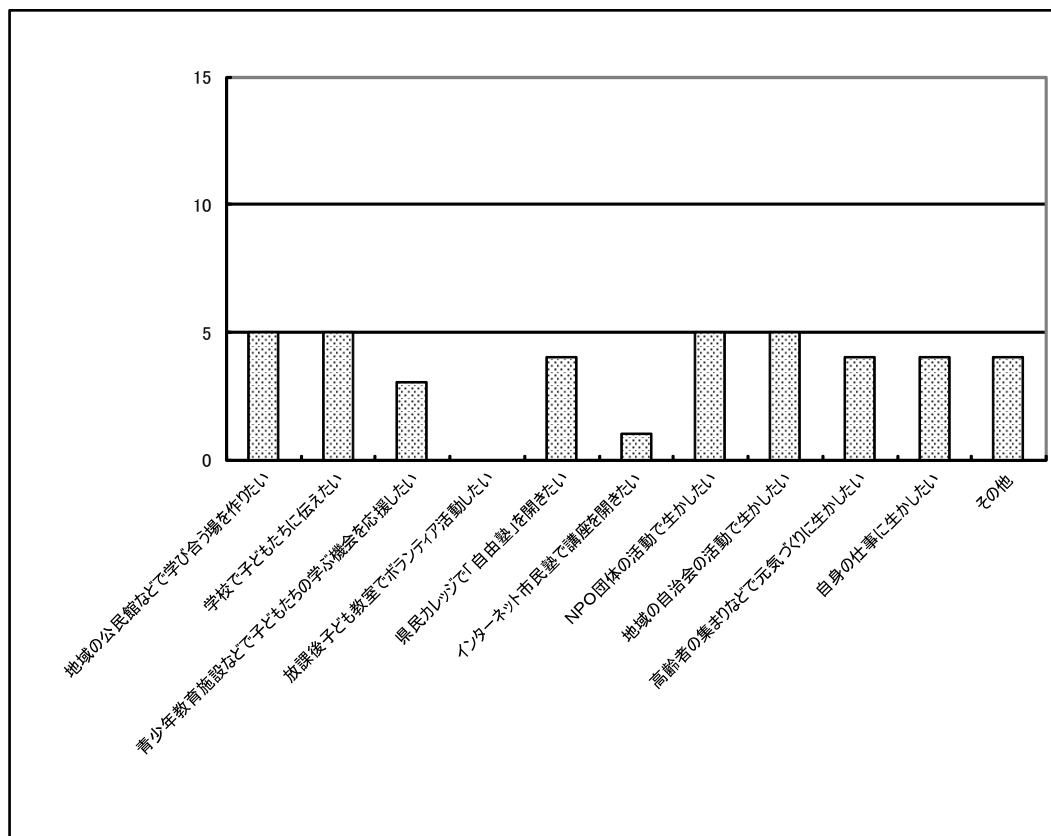


その他項目

- ・ 時間がないので教えることが出来ない
- ・ それも含めて考えてみた
- ・ これから考えます

問7 問5で、「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、どのような場で生かしたいと考えていますか？

	地域の公民館などで学び合う場を作りたい	学校で子どもたちに伝えたい	青少年教育施設などで子どもたちの学ぶ機会を応援したい	放課後子ども教室でボランティア活動したい	県民カレッジで「自由塾」を開きたい	インターネット市民塾で講座を開きたい	NPO団体の活動で生かしたい	地域の自治会の活動で生かしたい	高齢者の集まりなどで元気づけに生かしたい	自身の仕事に生かしたい	その他	全体
回答数	5	5	3	0	4	1	5	5	4	4	4	40
%	12.5%	12.5%	7.5%	0.0%	10.0%	2.5%	12.5%	12.5%	10.0%	10.0%	10.0%	100.0%

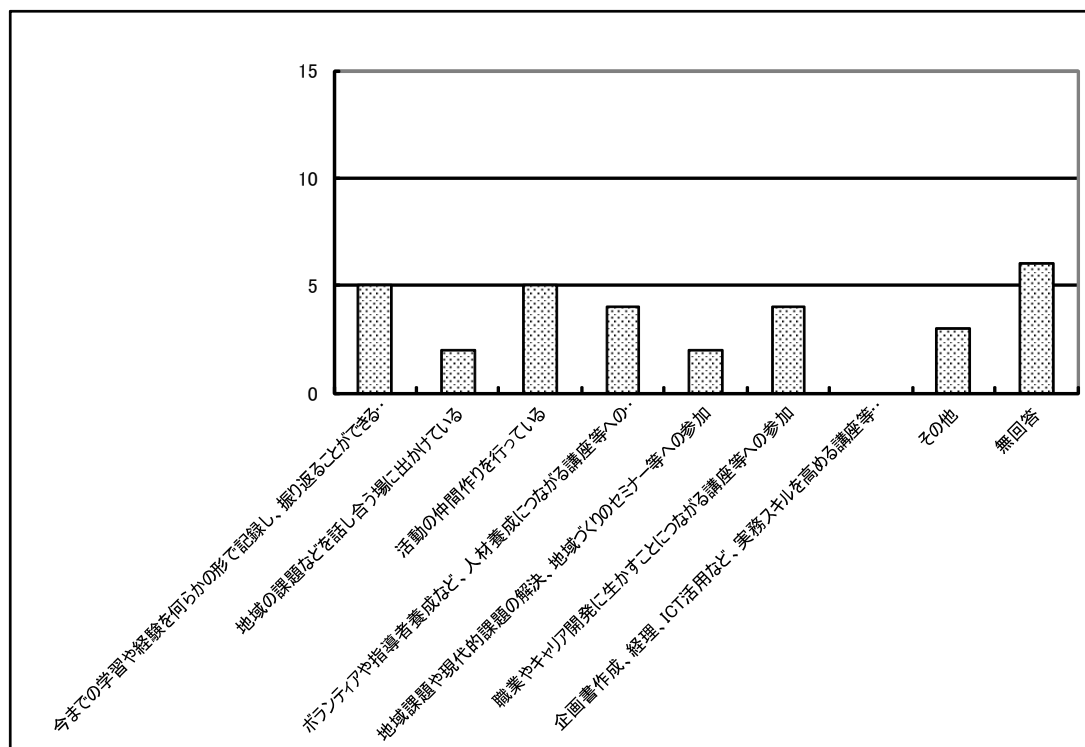


その他項目

- ・ わからない
- ・ 自分自身のために生かしたい

問8 学んできたことや経験を生かすために具体的に取り組んでいることがありますか？

	今までの学習や経験を何らかの形で記録し、振り返ることができるようにしている	地域の課題などを話し合う場に出かけている	活動の仲間作りを行っている	ボランティアや指導者養成など、人材養成につながる講座等への参加	地域課題や現代的課題の解決、地域づくりのセミナー等への参加	職業やキャリア開発に生かすことにつながる講座等への参加	企画書作成、経理、ICT活用など、実務スキルを高める講座等への参加	その他	無回答	全体
回答数	5	2	5	4	2	4	0	3	6	31
%	16.1%	6.5%	16.1%	12.9%	6.5%	12.9%	0.0%	9.7%	19.4%	100.0%

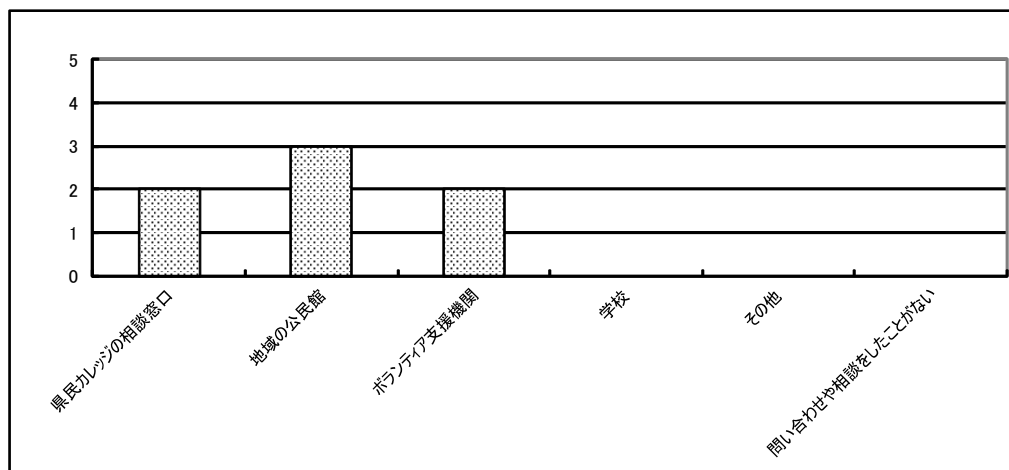


問9 上記いずれかの講座等に参加したことがある場合、もっとも役立った講座の概要をご紹介します

講座名	機関名	目的	成果
新幹線開始に関わるいろいろな催し、セミナー	いろいろ		人々の関心の度合い、プランの進み具合/遅れなどがわかる
日本海学、国際大学エクステンションカレッジ、古志の国文学館講座			
県民大学、講演会	県、市	教養を深める	
市民塾		地区の人に伝えたい、	ITCを使って行っている
高志の国文学館、活用実践コース			
フォレスト トリーダー	富山県 フォレスト トリーダー会	子供たちの森林について教え、木材等ものづくりを教えるお手伝いであるが、子供たちの笑顔がおおく見られた	
市民講師レベルアップ講座	インターネット市民塾	映像の撮りかた、貼り付け。知的財産法の確認	
習い事教室経営道場	大阪市立中央青年センター	習い事教室を運営する為のノウハウを提供してもらう	6回で終了の教室を開く

問10 あなたは、学んだことや経験を生かすために、県民カレッジや公民館などの機関に問い合わせや相談を行ったことはありますか？

	県民カレッジの相談窓口	地域の公民館	ボランティア支援機関	学校	その他	問い合わせや相談をしたことがない	全体
回答数	2	3	2	0	0	0	7
%	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

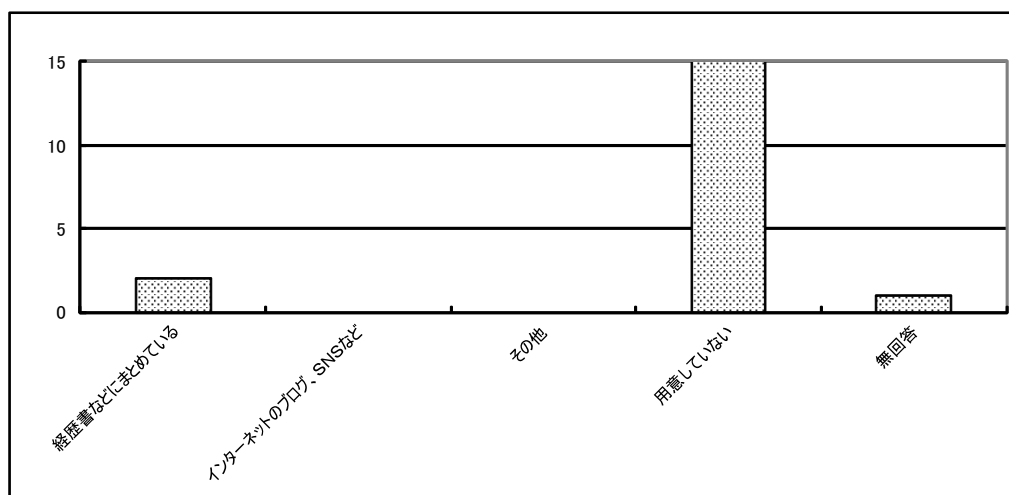


その他項目

- ・ 受け入れるような雰囲気がない「押し付け」体質が染み付いている

問11 あなたは、これまで学んできたことや経験、実績を分かりやすく説明する資料を用意していますか？

	経歴書などにまとめている	インターネットのブログ、SNSなど	その他	用意していない	無回答	全体
回答数	2	0	0	18	1	21
%	9.5%	0.0%	0.0%	85.7%	4.8%	100.0%

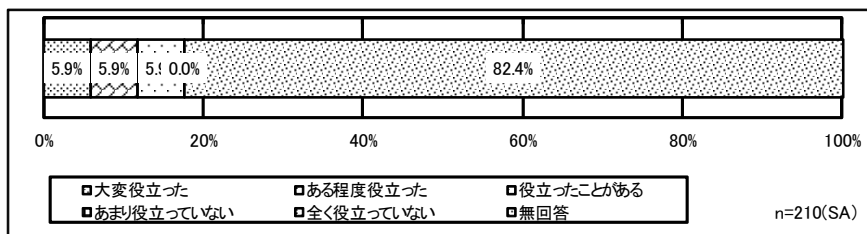


その他項目

- ・ 発信はしていないがまとめている
- ・ ホームページで【塚原歴史の会】

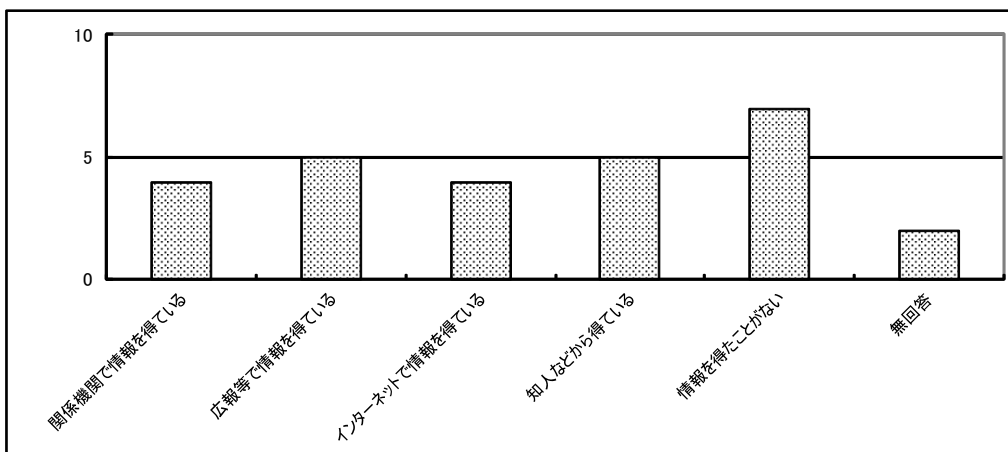
問12 問11で「用意している」方は、その資料等が機関での相談や問い合わせなどに役立ちましたか？

	大変役立った	ある程度役立った	役立ったことがある	あまり役立っていない	全く役立っていない	無回答	全体
回答数	1	1	1	0	0	14	17
	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	82.4%	100.0%



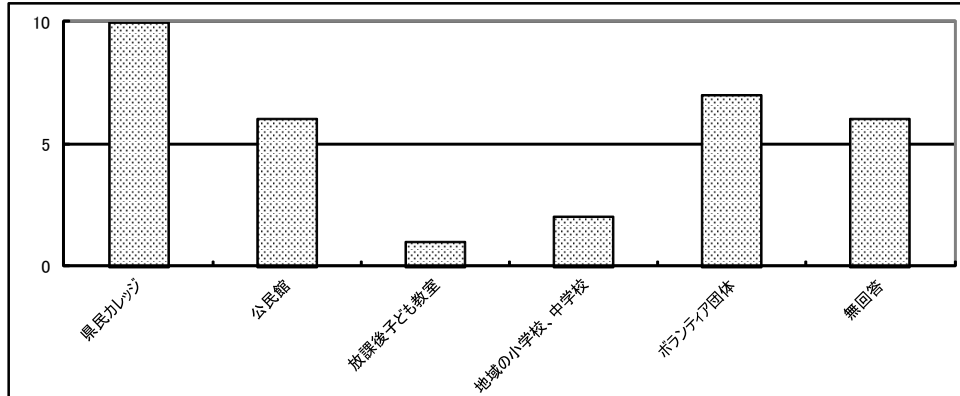
問13 あなたは学んだことや経験を生かして活動する場の情報を得ていますか？

	関係機関で情報を得ている	広報等で情報を得ている	インターネットで情報を得ている	知人などから得ている	情報を得たことがない	無回答	全体
回答数	4	5	4	5	7	2	27
%	14.8%	18.5%	14.8%	18.5%	25.9%	7.4%	100.0%



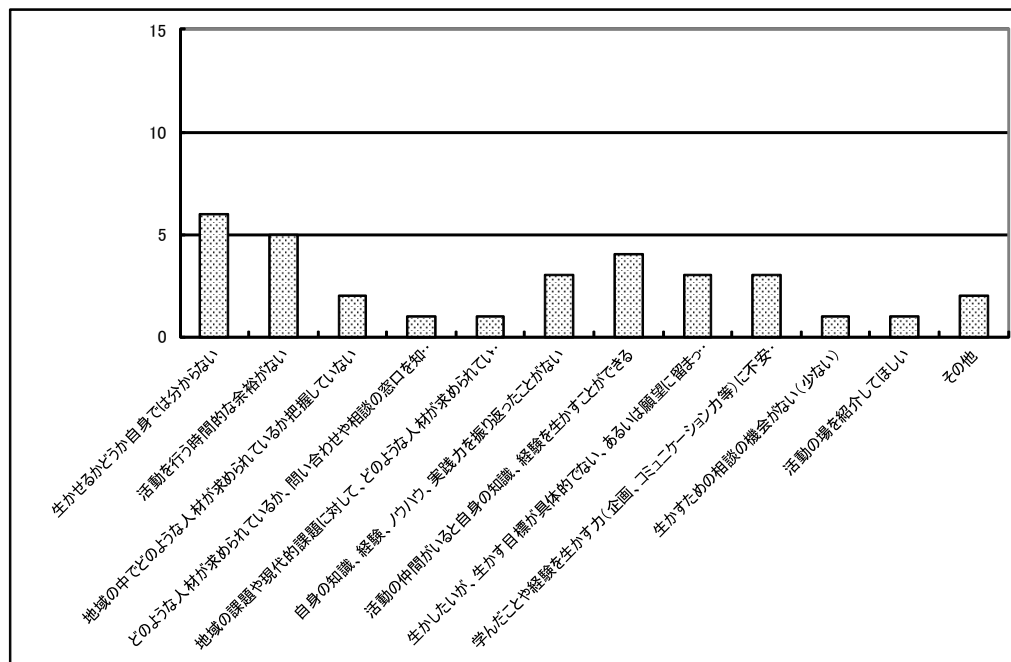
問14 あなたは次の機関では、住民の参加、活動をどのような形で受け入れているか

	県民カレッジ	公民館	放課後子ども教室	地域の小学校、中学校	ボランティア団体	無回答	全体
回答数	10	6	1	2	7	6	32
%	31.3%	18.8%	3.1%	6.3%	21.9%	18.8%	100.0%



問15 あなたは、学んだことや経験を生かす取り組みを行う上で、どのような課題を持っていますか？

	生かせるかどうか自身では分からない	活動を行う時間的な余裕がない	地域の中でどのような人材が求められているか把握していない	どのような人材が求められているか、問い合わせや相談の窓口を知らない	地域の課題や現代的課題に対して、どのような人材が求められているか分からない	自身の知識、経験、ノウハウ、実践力を振り返ることができない	活動の仲間がいると自身の知識、経験を生かすことができる	生かしたいが、生かす目標が具体的にない、あるいは願望に留まっている	学んだことや経験を生かす力(企画、コミュニケーション力等)に不安がある	生かすための相談の機会がない(少ない)	活動の場を紹介してほしい	その他	全体
回答数	6	5	2	1	1	3	4	3	3	1	1	2	30
%	20.0%	16.7%	6.7%	3.3%	3.3%	10.0%	13.3%	10.0%	10.0%	3.3%	3.3%	6.7%	100.0%



その他項目

- ・ 採算に合う基盤作り、スピード

資料5 支援機関へのアンケート結果

学習成果を活かして地域活動を行う人材育成・活動支援に関する現状調査

対象：公民館、青少年教育施設等 384機関 回答126（33%）

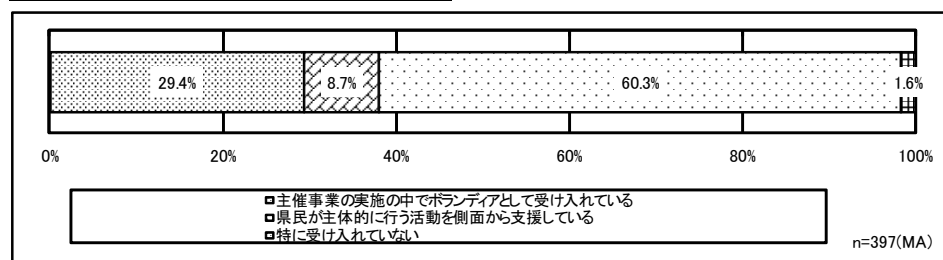
実施：平成25年12月

【集計概要版】

- 地域人材を受け入れているのは約3割で、主催事業のボランティアなどの形が中心。
- 県民の主体的な活動に対しては、側面支援として約1割に留まっている。
- 地域活動を目指す人材の認定制度や人材の情報について、ほとんど把握されておらず、「ボランティアや活動を志す人が少ない」という回答や、「地域課題、現代的課題の把握と求められる人材を把握していない」という状況がある。
- 県民が学習成果を生かすよう、何らかの形で育成などを行っている機関は約5割であるが、活動を生かす場へのマッチング支援や、活動の場の発掘、連携に関する支援を行っているのはわずかに留まっている
- 一方で、「学習成果を生かす支援のノウハウが分からない」と答えている機関が約2割ある
- また、「職員の減少や多忙により支援する余裕がない」とする機関も2割弱ある。
- 県民に対しては、「活動の目標が具体的でない、あるいは願望に留まっている」という課題も挙げられている。

問1 貴施設・機関では、地域人材の受け入れについてどのような状況ですか？

	主催事業の実	県民が主体的に	特に受け入れてい	無回答	全体
回答数	37	11	76	2	126
	29.4%	8.7%	60.3%	1.6%	100.0%



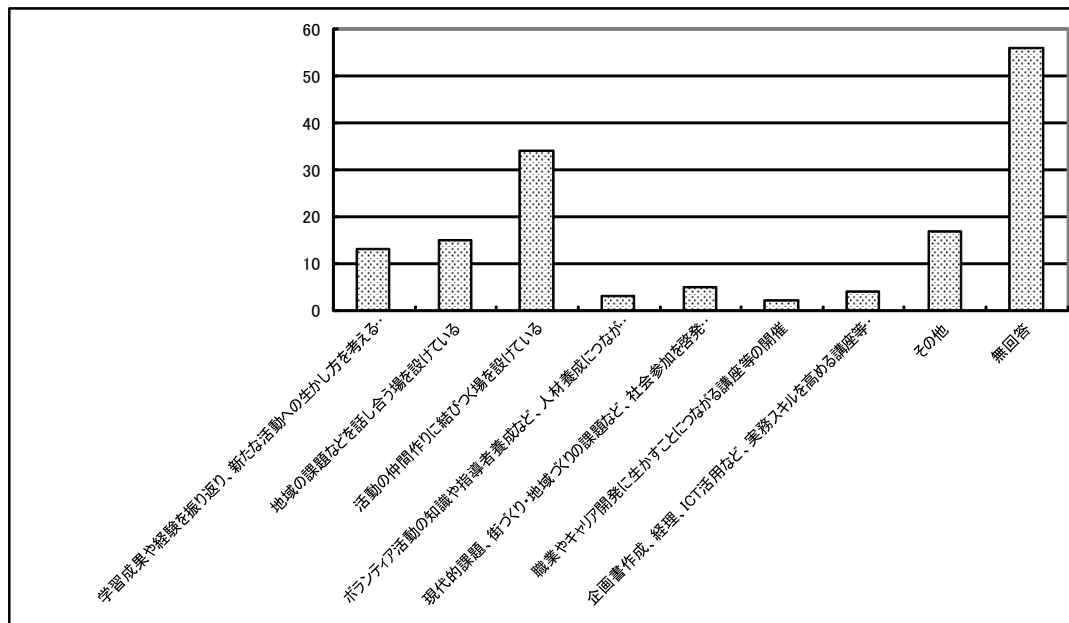
問2 主催事業のボランティア人材として受け入れたことがある場合、その事業をご紹介します

（複数ある場合は最近のものをご紹介します）

別紙参照

問3 貴施設・機関では、県民が学習成果を生かすことにつながる育成等を行っていますか？

	学習成果や経験を振り返り、新たな活動への生かし方を考える機会を設けている	地域の課題などを話し合う場を設けている	活動の仲間作りに結びつく場を設けている	ボランティア活動の知識や指導者養成など、人材養成につながる講座等の開催	現代的課題、街づくり・地域の課題などの社会参加を啓発する講座等の開催	職業やキャリア開発に生かすことにつながる講座等の開催	企画書作成、経理、ICT活用など、実務スキルを高める講座等の開催	その他	無回答	全体
回答数	13	15	34	3	5	2	4	17	56	149
%	8.7%	10.1%	22.8%	2.0%	3.4%	1.3%	2.7%	11.4%	37.6%	100.0%



その他項目

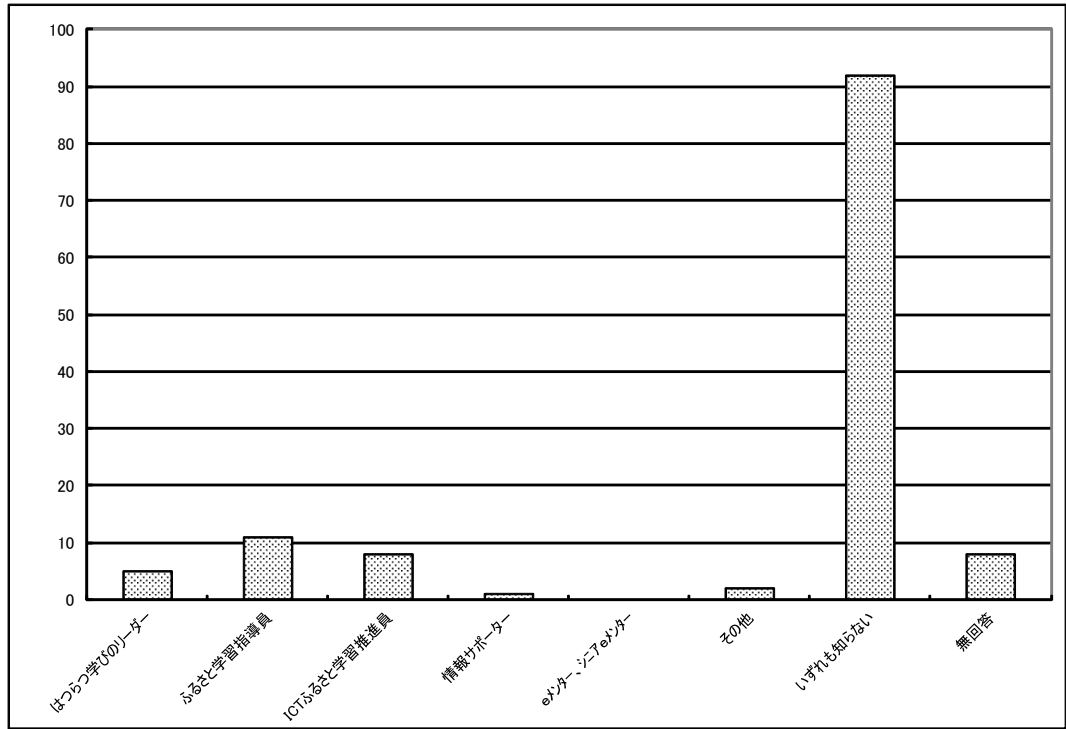
- ・ 公民館活動として、サークル活動を展開しているが、趣味、生きがい作りの活動であり、人材育成は目的としていない。
- ・ 特に行っていない、申し出がなかったときのみ
- ・ 伝統文化の継承
- ・ ふるさと教育【地域、歴史、自然などの見学）を行うと共に村木公民館として高齢者学級として高齢者生きがいセミナーを開催している。
- ・ 敬老会、納了際、公民館祭り等で発表してもらっている
- ・ ふるさと作り、活動推進員制度
- ・ 国の機関、地方自治体、自治振興会等各種団体組織の定例会、会議、サークル活堂を場に提供し「集い」「学びあい」「結び合い」の役割を担っている。
- ・ 特に行っていない（9）

問4 問3で、何らかの育成の機会を設けている場合、その事業等をご紹介します。

別紙参照

問5 学習成果を生かそうとする県民のうち、一定の評価を得て認証している制度をご存知ですか？

	はつらつ 学びの リーダー	ふるさと 学習指 導員	ICTふるさと 学習推 進員	情報サ ポーター	eメンター、 シニアメン ター	その他	いずれも 知らない	無回答	全体
回答数	5	11	8	1	0	2	92	8	127
%	3.9%	8.7%	6.3%	0.8%	0.0%	1.6%	72.4%	6.3%	100.0%



その他項目

- ・ 制度の名前は知らないがボランティア出前講等のチェックは行っている

問6 学習者と学習成果を生かす場とのマッチングを支援していますか？

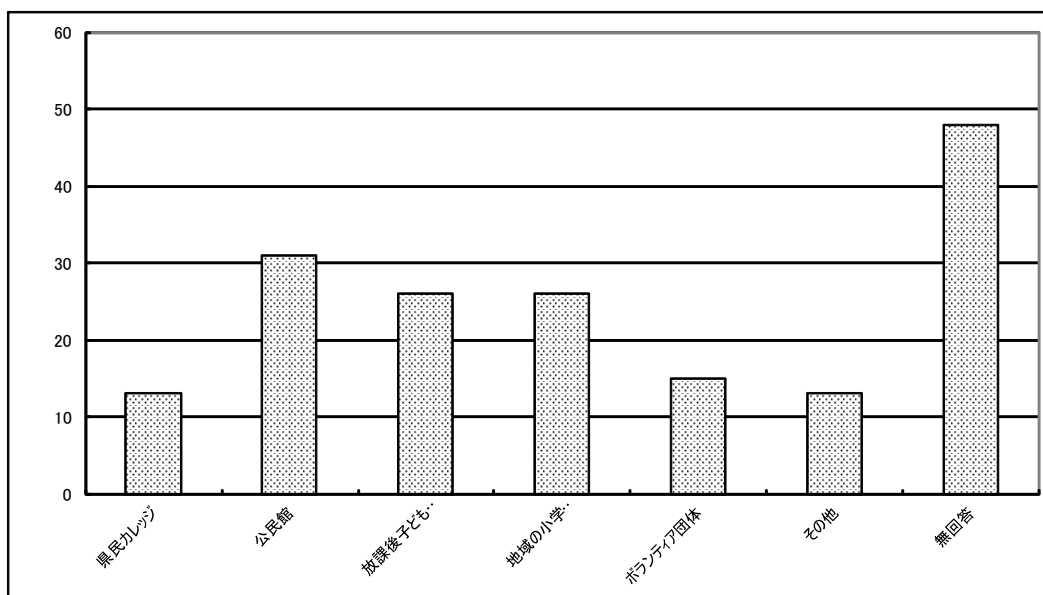
県民に、学習成果を生かすことができる場に関する情報提供を行っている	6	件数	61
県民の学習成果や経験をもとにした活動相談の対応を行っている	0	件数	15
県民の学習成果や経験をもとに、活動の場への問い合わせや紹介を行っている	1	件数	23
特に行っていない	102		

問7 学習成果を生かす場の発掘や連携を実施していますか？

	定期的に 問い合わせを行 い、人材 の活用 機会に關 する情報 を収集し ている	学習成 果や経 験を生か そうとし る人材の 存在を周 知するよ うしてい る	活動希 望情報と 人材募 集情報 の交換が できるよ う、組織 間の意 思疎通を 図ってい る	特に行っ ていない	無回答	合計
回答数	4	9	5	91	7	116
	3.4%	7.8%	4.3%	78.4%	6.0%	100.0%

問8 次の施設・機関（自施設以外）との間で、活動希望情報と人材募集情報の交換を行っていますか？

	県民カ レッジ	公民館	放課後 子ども教 室	地域の 小学校、 中学校	ボラン ティア 団体	その他	無回答	全体
回答数	13	31	26	26	15	13	48	172
%	7.6%	18.0%	15.1%	15.1%	8.7%	7.6%	27.9%	100.0%

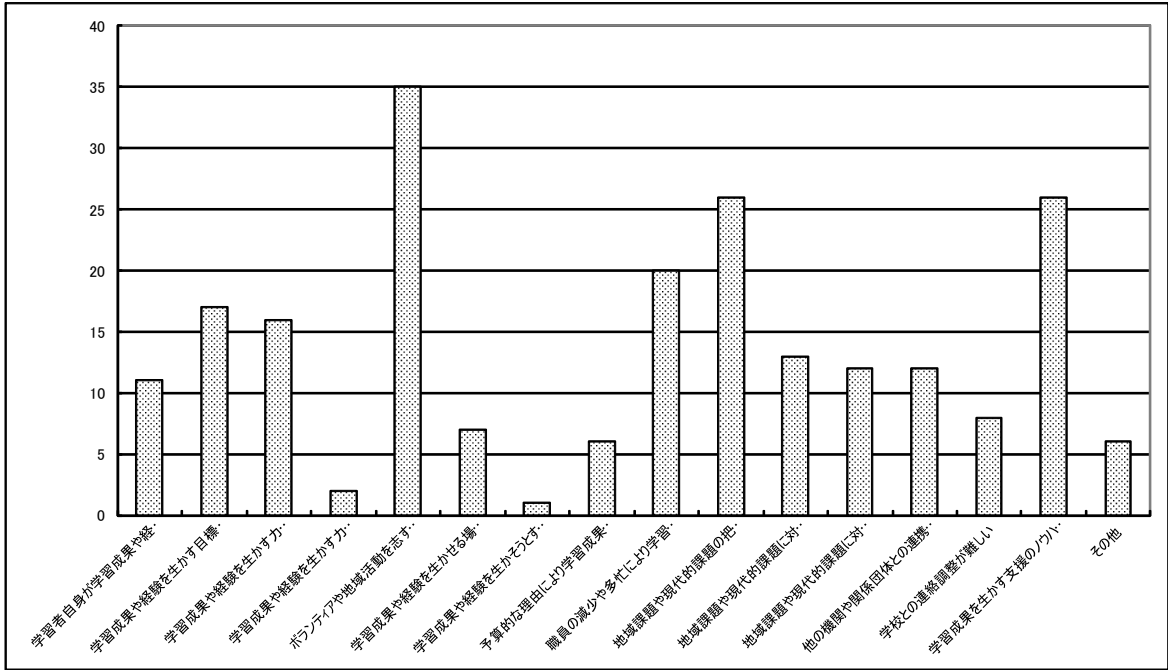


その他項目

- ・ 公民館で練習をしている団体、サークル
- ・ 教職員OB
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 情報の交換がほしいが、どこでどのような【場と時間】したら可能か分からない。今は個人的なつながりで情報を入手して活用している。広がりがほしい。
- ・ 特に行っていない(5)

問10 学習成果を生かした地域社会に生かすことにつながる取り組みを行う上で、どのような課題を持っていますか？

	学習者自身が学習成果や経験を記録・把握していないため、十分な相談ができない	学習成果や経験を生かす目標が具体的でない、あるいは願望に留まっている	学習成果や経験を生かす力（実践力、コミュニケーション力等）が把握できない	学習成果や経験を生かす力（実践力、コミュニケーション力等）に問題がある	ボランティアや地域活動を志す人が少ない	学習成果や経験を生かせる場の開拓や提供先が見つかからない	学習成果や経験を生かそうとする場とのミスマッチが生じる	予算的な理由により学習成果の評価を行う余裕がない	職員の減少や多忙により学習成果を生かす取り組み支援する余裕がない	地域課題や現代的課題の把握と求められる人材を把握していない	地域課題や現代的課題に対応した育成機会を開催するノウハウ、講師がいらない	地域課題や現代的課題に対応した育成機会を開催しても参加者が集まらない	他の機関や関係団体との連携を図ることが難しい	学校との連絡調整が難しい	学習成果を生かす支援のノウハウが分からない	その他	全体
回答数	11	17	16	2	35	7	1	6	20	26	13	12	12	8	26	6	218
%	5.0%	7.8%	7.3%	0.9%	16.1%	3.2%	0.5%	2.8%	9.2%	11.9%	6.0%	5.5%	5.5%	3.7%	11.9%	2.8%	100.0%



その他項目

- ・ どのような力を持った人がどこにいるのか【リスト】把握できない。
- ・ 高齢者社会が進む中支援者が減少している
- ・ 従前のイベントで一杯の所がある。
- ・ 取り組みは行っていない

問2 主催事業のボランティア人材として受け入れたことがある場合、その事業をご紹介ください(複数ある場合は最近のものをご紹介ください)

事業名	年度	受入人数	役割	評価	課題
富岩運河探検隊	24	3	工作教室の指導	屋食後の時間を利用して、不二越高校の先生1名、生徒2名のボランティアを受け入れ、紙工作教室を実施してもらった。	子供たちの評判は良かったが、時間的な余裕が無かった。また、単年度行事となってしまった。
夏休み子供教室	25	6	縄作り、ぞうり作り、田んぼ生き物調査、料理、ギター、お泊り会	子供たちと地域の人の交流が良かった、	
モノづくり体験教室 (紙作り)	22	20	講師		
博労ウォーキング	25	6	準備運動と主導とウォーキング補助	準備運動とウォーキング補助を担当してもらい、安全に行うことができた。	
公民館祭り	25	15	役割を決めて分担 (作品展示、音響、食事等)	それぞれの得意分野があり、役割の内容に秀でた人をお願いして担当してもらった。公民館役員で行うより効率的に進行できた。	役割の内容によって人材が不足することもあった。PC担当、食事担当は特に)
今からはじめるタブレット教室	25	10	初心者対象で驚きと楽しさで好評		日常生活の中に取り入れることが出来るか否か
河川調査や河川清掃、計5回	25	31	安全確保と深部の清掃	河川調査も清掃もおかげで充分出来た。子供たちにも調査法、清掃の仕方をも身を持って教示していただけた。	
夏合宿 N黒部		10	森林の樹木説明	豊富な知識を活かし、子供たちを指導して頂いた	特になし
そば打ち体験会	25	2	そばの打ち方や、茹で方の講習	丁寧な指導で満足のいく講座になった	
そば打ち教室	25	1	講師として	受け入れと言うより、こちらからお願いを了解頂きました。皆さん顔見知りなので、和気藹々と参加しておられました。	
東地区公民館夏祭り	25	20	中学生や住民にボランティアを募ることで、より地域に愛着をもたらせる機会になった。		
田んぼの学校	上条小学校5年生対象】平成25年度	26		手作業での田植え草取り稲借り指導稲の学習、操作の時間がリンクした事業。長く継続しており伝承としても評価できる。	指導ボランティアの高齢化
給食ボランティア		民生委員	社会福祉		住民の実体やニーズを日常的に把握、65歳以上のひとり暮らしの方を対象に把握
入善町立青木保育所2			保育補助掃除等	保育士以外の行事や保育士の人員が影響し、助かる場合もあるが、受け入れ時ボランティア活動のことも考えると負担の場合もある。の方との触れ合う場隣、また、見ることの出来ない部分を掃除してもらい助かった。	行事や保育士の人員が影響し、助かる場合もあるが、受け入れ時ボランティア活動のことも考えると負担の場合もある。
住民運動会	25	86	実行委員として運営全般	地域の住民であり、豊かなコミュニティの形成に役立っている。	
三世代交流 ヴァークゴルフ大会	平成15年度より毎年約70～80人		スポーツ推進委員として	子供親祖父母が和気あいあい汗をかく、ルールを守りながらわいわいがやがや楽しい雰囲気である。	まだ出場していない人たちへの声かけ。
ボランティア活動推進の日	24	約35	体験実践を通じ協力側のほかいの心を育てた。校区を住みよいものに、郷土を愛する心をもつことができた。		ボランティア人材の受け入れと併せ、公民館の他事業にも積極的に参加する交流の気運作りが求められる。
公民館祭り25		20	餅つき、焼きそば、展示会場作りボランティア経験が豊富な人が多く、大変ありがたい。若い人のボランティアが不足。		
市民講座ふるさと学習講座	25	1		その方が長年にわたり調査、研究されてきた地域の歴史について広く市民に伝えていただくことができた。	初めて聞く人【部分知識のない人】にも分かりやすいように説明していただくの打ち合わせ、資料作りに時間がかかる。
		1			
井波を知る昔の東大谷川ウォーク	25年度10月	4	案内役・講師として 軒波の文化資料フォーラム)	参加者が地元の方々でもあり、興味を引く形で説明、盛り上がった。	参加の人数を増やし、ボランティアの意欲を高める工夫の配慮が必要。公民館として)、ボランティアとの意思疎通がもう一つ反省。
開校式の講演		1	講師	地域住民の健康づくりに貢献できた	人材の確保に苦労している。
滑川教育センター現地集会	21～25	2	滑川市文化施設の案内	歴史に精通しておられ、大変詳しく説明を受けた。	高齢のため次年度は、別の人と考えている。
総合教育センター科24学情報部		3	科学教室指導	大変良い	土曜日実施しているので講師の派遣が問題に成る。
放課後子供教室 (しめなわづ)	25	1	指導		
三世代交流会	25	5	昔の遊びを教えていただく		
放生津コミュニティセンター					
伏木万葉大学	25	53	研修先での説明、健康体操の指導、コーラス健康食事の指導	何方もとても丁寧な活動をされた。	ボランティアと云えど、御礼はどういった形ですれば良いか
食生活改善推進委員会	25	10	子供料理教室補助		
文化祭	25	3	芸能発表の補助	毎年の事業の為、慣れている人なのでスムーズに出来た	高齢のため後継者の育成が必要
親子3世代交流の集い	25	10	助手、講師	大変助かっています、事前打ち合わせにより理解していただいています	
蟹谷地区 地域小矢部教室	25	5	管理員	大変協力的です	
出町子供輝き教室	25	4	子供遊びの指算	大変良かった	
囲碁教室		2	先生		
高齢者学級	24.25	30	高齢者学級	高齢者人材活用に登録された講師を活用できた。	ボランティア人材の発掘が困難、人材の高齢化
公民館まつり	24	5	振る舞い編の作成、栄養指導など		
ミニ門松づくり	25				
美女平自然探訪	25	2	自然観察案内	立山歴史や植物、木、鳥等色々な話を聞けて大変よかった。善参加者25名が十数名のグループに分かれて聞きながらの散策の為、80歳の高齢でもゆっくりペースで楽しく安全に参加できた。参加者40歳代～80歳代全員楽しめた。	

問4 問3で、何らかの育成の機会を設けている場合、その事業等をご紹介します。

事業名	年度	概要	人数	評価	課題
趣味【クラフト、いけばな、料理】等の教室	毎年	人それぞれ興味の対象が違うので、色々な教室を実施することで地域にどのようなことに関心を持つ人がいるか把握する。	30	郊外講師を招いて指導を仰ぎ、参加した方の中から特に関心の高い方に働きかけて、将来は教室を任せられるような人材を育てることが少しはできた。	教室がマンネリ化して来るので、新しい対応や新しい教室の新設が必要
親子料理教室	25	美味しい料理を親子で協力しあって作り、有意義な時間をもっている。	16	親と子、親と親同士のコミュニケーションの深まりや絆の強さが育つ	スムーズに運営できる環境作り
環境学習会	25	河川の環境について	12	河川の環境についての理解が得られ	
ねぶた製作講習会	25	ねぶたを実際作ってみる	104	小学生と地域ボランティアの人々で伝統文化であるねぶたを製作した。ふるさとの教育に繋がった。	
砺波市高齢者学級総合研修会	25	学修活動発表2地区講演会	100		
桜谷ふるさと作り推進事業	住民交流を深め、明るく住まいのまちづくり				講座の選択
敬老会	25	75歳以上の方を対象にした敬老会で地元で活動を行っているサークルの方に余興として出演してもらっている	81.10団体+幼稚園	敬老会には約90名ほどの参加者があるが好評を得ている。	
地域おやべっ子推進事業	25	自然体験・生活体験を通じ、自ら学び、考え方や心豊かな人間性を育む。舞踏(年24回)茶道(年24回)料理(1年2回)体験(年6回)	約400	新しいことを学び挑戦し、友達の輪を広げることができた。郷土を大切に思う心や郷土に対する誇りをもつことができた	小中学生対象になっているが、中学生は部活動のかかわりで参加者が少ない。小学生もスポーツ少年団とかかわりで、同じメンバーに固定されやすい。
ふるさと歴史探訪25					
射水市生涯学習推進協議会研修会	25	市内27地区に囃託したのは生涯学習推進委員や生涯学習担当コミュニティセンター職員を対象に、生涯学習についての講演や意見交換会を行った。	35	地域の生涯活動をコーディネートする生涯学習推進委員やセンター職員に学級講座開設のヒントを与えることが出来た。	
パソコン入門講座	25	パソコンを生活の中で気軽に利用できるようにするための入門講座	42	受講には内容、講師等好評である。	特に感じていない。
パソコン教室	25	パソコンの初歩	15	理解しやすいのが好評です	講師招聘の費用の捻出
文化祭		生け花、書道、木彫り、ちぎり絵、パンフラー等を出展していただき、広く見ていただくことにより、活動の仲間作りに繋がっている。			
公民館ふるさと講座 アロマでリフレッシュ	25	アロマテラピー教室。アロマの効能について説明を受け、エアフレッシュナー	23	後日、7月にアロマサークルが発足。毎月1回第一月曜日に開催されている。	
色んなサークル活動					
生涯学習フェスティバル	24	生涯学習教室の受講生、OB、学びの森青年会が学習効果を発表する。	300	発表を通して他教室の受講生、OB、学びの森青年会が学習効果を発表する。	学習効果の発表だけに留まらず、受講生、OB、青年会のコミュニティ作り、そのコミュニティを母体とした生涯学習の推進。幅広い年齢層の参加。
滑川市福寿大学の開設		高齢者学習機会の提供	80人、70代の女性高齢者が80%を占める。		学習成果を活かす人材育成までにはならない。

問9 地域の活性化や教育力の向上に結びついたマッチングの事例をご紹介します

事業名	年度	概要	人数	役割	評価	課題
ふるさとづくり文化展	25	小学校の行事【ふれあいフェスティバル】と同日開催で教室の一部を借り、各種団体、サークルの作品展、保健推進員、食生活改善推進員等	80	毎年恒例となっており、楽しみにされている住民も多い。		高齢者が中心となり、若い人との交流できる場が必要である。
田んぼの生き物調査	25	夏休み子供教室で子供を田んぼの生き物を探取、観察調査した	1	講師	自然農業で虫や蛙らがたくさんいて、その知識の勉強もされていたので、とても有意義な教室になった	講師をフォローできる主宰者側の協力があればよかった
三世代交流おひなさまづくり	24	小学校と情報交換して、地域人材の活用を図り、貼り絵のお雛様作りを行った。	30	地域講師、及び地域ボランティア活動員の「評価」参加により、本活動が地域に広まった。		今後、地域の伝統、文化をどのようにに伝承していくか、そのための人材交流及び活性化が課題である。
安川、再生プロジェクト	24	地元でもしる人がそれほどこいなかった、安川城を対象とした安川城を守る、学ぶ、楽しむ企画を実施	70	指導社、砺波学芸委員、曲輪の会メンバー、礪波山城開設員	地区外の指導者に歴史を学び、現地の散策路、除草、散策会を通じて地域の方々は「史跡の大切さ、地意義を知り、地区がから訪れる方々とも交流できた。	今後の維持管理
歴史とのふれあいの旅	25	県内または隣りの県を中心に名所旧跡を訪問	36		他の市立公民館との共済により実施、神仏に係わる名所旧跡を訪れ交流を深めている。	訪問先が限られている。
ふるさと教育	23		650	地域歴史の認識	若い人たちに伝承文化の継承は十分とは言えないが、されていると考える。	少子高齢化や若者の都市部への移動で地域の衰退が起きている。村木地区高齢化率約20%
教育振興、論語塾子供論語、				思いやる心、やる気	声に出して読む内に体にしみ心の支えとなる	親子で参加すること
もちつき大会	25	公民館まつり開催日に青少年育成部会、女性の会が協力して、杵、臼を使って行なう。児童も杵を持ち、年配の方に手返しを教わって行なう	30		今では杵、臼を使ってもちをつく機会が少なく、年輩の人に教わりながら行い、年代のコミュニケーションにも繋がっている。また、ついたもちを配ってたべてもらっている、公民館祭りも盛り上がりしている。	
バードウォッチング	23'25	4月中旬、宮島峡周辺にて、富山野鳥の方々の指導で、子供大人の方々が参加している。9時～12時	28	富山野鳥の方4名、公民館3名。	親子で大自然を散策しながら、野鳥の様子【びり、鳴き声】	本日、見た鳥たちの特徴や習性を図鑑などで確かめる。
公民館際	25	様々なサークル地域団体が日頃の活動の成果を披露する。地域住民で構成された実行委員会が企画、運営を推進する。	700	舞台発表、作品展示、販売等の業務内容に分担、大勢の住民1参加者が少なく、高齢者1の利用も限られている。		
女性学級	25	「学習を通して地域に根ざした活動を目指す」をテーマに年10回の講座を展開。	59		活動は多岐に渡るが、生活に密着したものが多い。	参加者の減少。
第37回いなみファミリーマラソン大会	25	井波小、中学校生、父兄、一般人参加によるマラソン大会、参加者は約700名、ボランティア150名	150	審判員、交通整理、給水他	マラソン大会への参加意欲を高め、体力向上、ボランティア精神の維持が期待される、勿論地域のまとまり、活性に繋がっている。」	一般ボランティアによる開催であり、人数の減少を心配している。
門松づくり	25	農林水産公社の協力で森の働きを学ぶと共に門松作りを実施した	50	講義と門松作り	子供20名を含む50人が参加して森の大切さを知ると共に正月を新鮮な気持ちで迎えられるよう各自が門松を作成した。初めての試みだったが、スムーズに実施でき、特に問題はなかった。	
放課子供教室	毎年17年度より	文化活動、ニューススポーツ活動	40'50	指導者、安全管理	好評	集まる人数変動
放生津コミュニティセンター						
市立伏木公民館						
公民館まつり	鴻各種団体		700			
放課後子供教室	25	放課後子供教室において新川高校ボランティア部が安全管理としての子供のスポーツ指導や見守りを行った。	3	新川高校ボランティア部、スポーツ指導、生涯学習、スポーツ課、実施主体とボランティア部の仲介・調整	放課後子供教室の指導者や安全管理委員は、地域の年配者が中心だったが高校生が参加し、幅広い年齢層の参加ができた。	高校生が卒業してからの参加継続」
ふるさと講座	25	滑川で推進しているふるさと講座の一つに、上市町の黒川フェスティバルに参加をした。	23		近くに住んでいながら素晴らしい遺跡があるのに行き行ったことがなくとても感動しました。	山を歩くので足腰の弱い人は参加できない

資料6 参加者が作成した活動プラン

地域eパスポート 学びを活かす「地域人材」

【学びを活かす「地域人材」とは】

富山県教育委員会、富山県生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会、富山大学、富山インターネット市民塾推進協議会からの応援を受け、これまでの経験や学びを振り返り、地域の公民館や県民カレッジ、学校、青少年教育/社会教育施設等での活動に活かす企画「活動プラン」づくりを行いました。

活動プランを提出いただいた県民の方々のお名前、活動プランの内容、経歴/資格等とともに、活動への応援コメントを一覧にまとめました。

地域のニーズに対応した新しい活動や、県民の目線で地域の潜在的な魅力を伝える活動も多く、公民館、学校、青少年教育/社会教育施設等にて活動の場の提供をぜひご検討いただければと思います。

活動プランの詳細、応援コメントの全文、活動プランの発表映像はホームページ (<http://toyama.shiminjuku.com/documents/jinza/>) からご確認ください。人材の照会、お問い合わせは、裏面記載のサポート窓口にご連絡ください。

名前	活動プラン
青木 一彦 	「1996年塚原歴史の会発足」同志を集め、寺院、神社、古老の話を聞き取り資料を収集。数千点の資料を100ページの冊子にまとめ、地域1,000世帯に配布。塚原の歴史を塚原校区の子供達へ伝えることを目指します。 青木さんご自身も記述していらっしゃるが、公民館と連携し、地区における郷土史発表会や体験交流会等を開催することにより、まず、地域住民に郷土愛や誇りを持ってもらうことが大切なことではないでしょうか。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明) 子どもたちに郷土への愛着と誇りをもってもらいたいという、青木さんの強い願いから「塚原歴史の会」の活動が始まり、現在に至っていることに敬意を表します。歴史の会の活動が、地域のケーブルテレビに取り上げられたり、公民館まつりでの発表の場を確保したりと、活動の盛り上がりを感じます。DVDの教材としてまとめあげ、学校や公民館に寄贈することで、活用される機会が多くなるのではないのでしょうか。(富山県生涯学習カレッジ学長 荒井克博) これまでの地道な研究・調査活動が、今花開くときに来ているよう。ぜひこれまでの成果を、「小出し」シリーズ化(高いレベルでいっぺんに提供すると皆「ついていく」だけになってしまうので)して伝え広めて頂ければ。(富山県公民館連合会事務局長 中村啓志) 青木さんの地域郷土史研究にける情熱は素晴らしいと思います。しかしながら、ストレートに地域郷土史を勉強しましょうでは、地域の子供たちや住民には理解されにくいと思います。まずは、富山県が進めているふるさと教育に関連させて、地域の学校向けに、ふるさと学習のお手伝いをさせて頂きますというようなパンフレットを作成し、学校・公民館に案内されてはどうでしょうか。(富山大学人間発達科学部教授 山西潤一)
大谷矢 辰則 	ストレスや健康についての悩みの多い現代社会。笑って元気・富山をテーマに「笑い」をとおして、ストレス解消・健康づくりを目指します。 心の健康が、体の健康につながることをご自身が体験され、同じように悩む人への助けをしたいという、大谷矢さんの志に敬意を表したいと思います。既に多くのボランティア活動をされるなど活躍しておられます。さらにその経験を生かし、地域の公民館活動で「ラフターヨガ」が取り入れられることを期待しています。(富山県生涯学習カレッジ学長 荒井克博) 「〇〇名人」として手を挙げて、公民館などで広めて頂けるとありがたい。地域の連帯感、いざというときの「住民共助」に大きく役立つのでは。(富山県公民館連合会事務局長 中村啓志) 人と人の交流や地域の絆が希薄になってきている今日、心の底から笑い元気になる笑いの体操はユニークで面白い活動です。地域に笑いが広がり、子供も大人も元気になる地域活動として大いに期待しています。(富山大学人間発達科学部教授 山西潤一) 富山が笑いでいっぱいになったら、とても楽しいと思います。富山発でどんどん広がっていくと、もっと面白いと思います。そのためのツールとして、インターネットは強い味方になるかと思っています。この良さは、体験しないとわからないかもしれません。またなぜ良いのかは、体験してもわからないかもしれません。これらをどううまく伝えるかが、大谷矢さんの取り組みの成否をにぎる鍵だと思います。頑張ってください。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓)
岡崎 京子 林 恵美 	声と言葉を使って五感を通して感じることで、物事を肯定的に受け止めたり、ポジティブな発想ができるよう、お手伝いをしたいと考えています。人生をワクワク、楽しく、毎日がきらめいて、イキイキと過ごせるように一緒に活動しませんか? これまでの実績の地域への還元ということから、親子のための講座などに発展していくと、地域のPTA等大きな広がりが出ていくのでは。(富山県公民館連合会事務局長 中村啓志) ストレスの多い社会にあって、五感を刺激し人間本来が持つ感性を鍛え、物事の見方をちょっと変えてみることで、心豊かな生活が送れるという素晴らしい活動だと思います。地域活動としての展開を期待します。(富山大学人間発達科学部教授 山西潤一) 思いはとも伝わってきました。でも、具体的なプランが、悩みを持った人を対象とするものなのか、悩みを持った人を支援する人を育てるものなのかはっきりしないように思いました。実際にはいろいろとお考えになられていて、対応されるとは思いますが、参加者を集める場合に、このあたりがちゃんと伝わらないと、うまく人を集められないかもしれません。「新しい自分発見」ととても素敵な講座だと思いますので、伝え方をご検討頂き、頑張ってくださいと思います。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓) お二人とも、今後、ご自分の活動等を充実されるとともに、県民カレッジの県民教授に申請して頂き、自遊塾で講座を開講するなど、活躍の幅を広げて欲しいと思います。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明)

名 前	活動プラン
 ・北日本新聞社「越中ふるさとチャレンジ」の「富山ふるさとマスター」 ・小矢部市在住	富山の郷土検定「越中ふるさとチャレンジ」の上級合格者からなる「富山ふるさとマスター」として各地で講演活動。くすり、遺跡、ご朱印を例として富山ならではの魅力や価値はたくさんあります。富山の魅力や価値を再認識し、郷土への誇りと愛着を抱き、熱い想いを持って伝えられる活動を目指します。 応援コメント 郷土の魅力を県民に伝える富山ふるさとマスターとして、地域活動を展開されているのは素晴らしいと思います。今後、ますます出番が増えると思いますが、ふるさととの魅力を、富山県民のみならず、全国、いや世界に発信されることを期待しています。(富山大学人間発達科学部教授 山西潤一) 加賀谷さんをお持ちの知識をぜひ広く伝えて頂きたいと思います。自遊塾だけでなくインターネット市民塾なども活用して頂いて、より広く知ってもらえるようにしてあげてほしいと思います。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓) ふるさと富山の「知のおもてなし」として、すばらしい活動が期待されます。また、学んできたことを活動に活かす取り組みは、もっと多くの方に共感を頂けるよう、広く伝えたいものです。(富山インターネット市民塾推進協議会事務局長 榎富雄) 自遊塾の塾生経験がないため少し躊躇されたようですが、県民カレッジ自遊塾の県民教授に応募され、平成26年度の教授候補者となられたということで、ますますのご活躍を期待いたします。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明)
 ・親世流能楽師 師範 ・富山市在住	38年間、能を趣味として続けてきました。地域の方や子供たちに公民館で、大きな声で謡を謡って頂き、声を出す楽しさを体験したり、無表情とされている「能面」を実際に見てもらい、能面を通して見える世界を体験したりすることで、古典芸能としての「能楽」を身近に感じてもらうことを目指します。 応援コメント 明確な目標を持ち、活動に取り組まれていることがよく分かります。一つの方法で突っ走るだけでなく、手を替え品を替え、押したり引いたりしてみても大事だと思います。目標が大きすぎると、なかなか進歩が感じられなくなることもあります。中間目標を立てたり、目標を分割するなどし、一つ一つ達成感を味わいながら、進めて行くことも大切でしょう。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓) 伝統芸能を楽しむことを通じて、次世代に大切なことを伝えようとしている方です。学校や地域の公民館等での活動の広がりに期待しています。(富山インターネット市民塾推進協議会事務局長 榎富雄) 今後とも、サークル活動等を充実されるとともに、県民カレッジの県民教授に申請して頂き、自遊塾で講座を開講するなど、活躍の幅を広げて頂きたいし、公民館でも活動されるのがよいのではないかと思います。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明) 川田さんのバイタリティーと優れたコミュニケーション能力によって、公民館を皮切りに、多くの人たちが「能」にふれる場と機会がもてるように取り組んでおられる姿に敬意を表します。また、講座をとおして、伝統芸能としての「能」に多くの人にふれてもらいたいという、川田さんの取り組みにエールを送ります。(富山県生涯学習カレッジ学長 荒井克博)
 ・射水市小島一 区公民館管理 人 ・射水市在住	地域住民の活動拠点として、児童や高齢者はじめ多くの方に自治公民館を利用して頂けるよう、取り組んでいます。高齢者の生きがいづくりのためのグループ活動、サークル活動を定期的に行い、小学生は放課後に宿題をした後、ゲームや卓球、ドッジボールを楽しむ等、活動の輪を広げようとしています。 応援コメント 地域の社会教育にとってとても有意義な学びの場を企画されています。ぜひ実施に向けて一緒に検討頂ければと思います。(富山インターネット市民塾推進協議会事務局長 榎富雄) 今年度1年間の「老人学級」の総括をまとめるために、3月の閉講式の日には、受講者、講師・アシスタント等スタッフの人たちからアンケートを実施するなど、データを取っておかれるとよいでしょう。県民カレッジ本部や地区センターでは、次年度の事業実施のために、アンケート調査をしています。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明) 小島一区公民館が、様々な調査やイベントをとおして地域のセンターとしての機能を十分に発揮し、地域の活性化に寄与しておられる姿に敬意を表します。また、平素の活動が定着するようにその活動に携った人たちへの聞き取りやアンケートなどから、住民のニーズを把握して進められる取り組みが素晴らしい。(富山県生涯学習カレッジ学長 荒井克博) この学級修了者がリーダー、マネージャーとして次の学級を展開したり、若い世代(特に壮年層(次の老人))向けの仕掛けを広げていくと、ありがたいですね。(富山県公民館連合会事務局長 中村啓志)
 ・草島郷土史会 古文書クラブ会 員 ・富山市在住	古文書や古地図の解説を通して、地域の歴史を見直す活動を行っています。小学校での講演や銀行での展覧会に加え、歴史書の発刊や地域での活動の輪を広げようとしています。 応援コメント 今後、目標にも挙げていらっしゃるサークル活動を充実されると共に、県民カレッジの県民教授に申請して頂き、自遊塾で講座を開講するなど、さらに活躍の幅を広げて頂くのがよいと思います。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明) 白石さんは、富山県公文書館や県民カレッジ等の講座を受講されるなど、古文書の読解への意欲には、専門家も驚くくらいです。四方小学校の郷土学習の時間に講師として、古文書の記録を基に、江戸時代の幕末の黒船来航を事実としてきちんと語られるなど、実績を積んでおられます。既に小学校との連携は、十分にとれているようです。今後は、年間計画作成のとき、協力者として加わるなどして、子どもたちが郷土の歴史への興味関心が高まるよう、活動されることを期待します。(富山県生涯学習カレッジ学長 荒井克博) 古文書にみる郷土の歴史について深く研究しておられる活動に敬服します。今後はより学術的専門的知識を深められると同時に、地域の方々や子どもたちにその成果を分かりやすく伝え、ふるさと富山の歴史や文化に興味を持ってもらえる活動を期待しています。(富山大学人間発達科学部教授 山西潤一) 調査をより進めるためにも、仲間を増やしていくことが大切かと思いますが、調査がより深まるだけでなく、いろいろな角度から分析が可能となるとと思います。例えば、西岩瀬という地名が四方に残っているのは、神通川の流が時代によって変わってきたことが影響していたり、その名残が海底にも残っていて、四方の定置網が入っている深みの部分は昔の河口だったという話を聞いたことがあります。このような情報も、調査分析のひとつの手がかりになるかもしれません。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓)

名 前	活動プラン
 ・1級小型船舶免許保持者 ・富山市在住	セーリングを学ぶなか、富山湾から見る立山連峰や富山の素晴らしい景観を体験できました。海拔0mから 3,000mの山が見られる、世界に三ヶ所しかないと言われる富山湾から見た富山の景観は素晴らしいものです。セーリングをマスターして、富山湾から見える、立山連峰を望むセーリングと一緒に楽しむ活動を目指しています。 応援コメント 海拔0mから3000mまでの富山の景観を、湾内セーリングをとおして、多くの人に体験してもらおうとともに、セーリングそのものの醍醐味を受講者に伝えたいという、塚本さんの取り組みに敬意を表します。実際のセーリングの実施時期や安全面での判断などの課題を克服して取り組まれていることを期待しています。(富山県生涯学習カレッジ学長 荒井克博) ヨットの経験を活かし、富山の海の魅力や立山連峰を頂く景観の素晴らしさを伝える魅力的な講座です。大人のみならず子どもたちも参加できる活動になればいいですね。(富山大学人間発達科学部教授 山西潤一) 私も釣りを趣味にしていますので、何度か船に乗せて頂いたことがあります。海の上から見た立山連峰の素晴らしさは強く印象に残っています。どうい 人を対象にするかにもよると思いますが、体験を通してうまく仲間を作っていければいいかなと思います。また危険と背中合わせの活動であることもきちんと伝えたいですね。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓) 古希を迎えてから富山湾の魅力とヨットに目を向けていらっしゃる、心の若々しさを持った方です。超高齢社会を悲観せず、ロマンをもって生き生きと学ぶ姿は、地域でもぜひ伝える機会が望まれます。(富山インターネット市民塾推進協議会事務局長 榎富雄)
 ・ケアウィル勉強会メンバー ・富山市在住	富山発の言葉である「ケアウィル」は、『豊かな暮らしに向けた意志』を表します。富山大学でケアウィル講座を受講した仲間とともに、退職後を余生とするのではなく、生きがいや人生への満足を持つための行動について考える勉強会を行っています。勉強会での学び合いを通じて、豊かな暮らしの実現を希望する人たちの活動の輪がより広がるよう、ホームページでの情報発信や各地でのケアウィル勉強会の開催を目指します。 応援コメント 団塊の世代の退職から5年余り、彼らの多くは「第2の就職」を終えて、いよいよ本当の意味での「第2の人生」に直面しつつあるよう。まさに今こそみんなが考えるチャンスです。(富山県公民館連合会事務局長 中村啓志) 高齢社会の進展の中、ますます求められる活動内容です。皆さんで学んだ成果を広く発信することで、新たな情報や人のつながりが出来てきます。充実した活動を展開されることを期待しています。(富山大学人間発達科学部教授 山西潤一) 人が賢くなったり、より考えたりできるようにするためには、日々の生活に追われるだけでなく、いろいろなコミュニケーションを積極的に創っていくことが大切だと思います。退職後を余生なんていわずに、自分を高め、その結果、地域が良くなり、国が良くなるという感じで、積極的に活動していったらいいと思います。頑張ってください。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓) 正に「出番づくりの地域推進モデル」です。同年代の多くの方に参加が広がるよう、ぜひ地域での活動にご協力ください。(富山インターネット市民塾推進協議会事務局長 榎富雄)
 ・北日本新聞社「越中ふるさとチャレンジ」の「富山ふるさとマスター」 ・富山市在住	富山の郷土検定「越中ふるさとチャレンジ」の上級合格者からなる「富山ふるさとマスター」。地域のお寺や神社、文化財について、本を発行したり、講演したりしています。また、年間を通して8、9回、県内外の古刹をめぐるサークルの活動を2006年より現在まで続けています。今後、調べたり学んだりしたことを、できるだけ多くの人に伝えられるよう、学校など様々な場所で情報発信していくことを目指します。 応援コメント 神社・寺院を対象に、富山の歴史や文化を研究され、ふるさとの魅力を探究する活動を展開されている熱意は素晴らしいと思います。富山ふるさとマスターとして、今後とも、ますます研究を深められ、その成果を地域の方々や子どもたちに啓発されることを期待しています。(富山大学人間発達科学部教授 山西潤一) これまでの活動で、大変素晴らしい蓄積が行われていると感じました。ぜひこれを広く、永く伝えていってほしいと思います。本プロジェクトを行っている富山県生涯学習カレッジに、富山県映像センターがありますが、撮影の方法やネットへの投稿などについて相談に乗ってもらえるのではないかと思います。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓) さまざまな経験を次の世代に伝えようと、さまざまな活動に取り組んでいらっしゃる、ぜひ地域での活動にご協力ください。(富山インターネット市民塾推進協議会事務局長 榎富雄) 来年 3 月に北陸新幹線が開業しますが、首都圏からの観光客は有名な観光地だけを目的に来県するのではないと思います。郷土の寺社等文化財について、しっかり語ることができる藤田さんのような方の役割が今後重要になっていくでしょう。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明)
 ・入善町小摺戸地区公民館のホームページ作成支援活動	公民館やコミュニティの活動の活性化・効率化のツールとして、ホームページを活用したいという方々に、ホームページ、ブログの作成を通して、メリットや活用について理解して頂くとともに、同様のニーズをもっている仲間・公民館・関連者に伝え、「館から環」のネットワークを広げていくことを目指します。 Web ページ作りだけではなく、自分でやりたいという人を支援するところがとても良いと思います。きれいな Web ページを持つことが大切なのではなく、意味のある Web ページにすることが大切ですね。作り方やデザインだけでなく、できれば情報発信の責任や危険性などについても考えられるようにして頂ければ、より良くなると思います。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓) 地域の活動を発信することは、公民館に来ていない方に届ける良い方法です。その人たちのニーズをキャッチするためにも、この活動が大変意味を持ちます。ぜひ積極的な取り組みを期待しています。(富山インターネット市民塾推進協議会事務局長 榎富雄) 公民館ホームページを作成し、地域情報等を自主的に発信したいと考えている意欲のある方を集めるというところが、このプランの成否に関わると思うところだと思います。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明) 古草さんが、単にホームページ作成・更新の支援をするのではなく、ホームページやインターネットが抱える問題点についても理解され、公民館活動の活性化に寄与しようとする姿勢に敬意を表します。今後も「館から環へ」の活動が広がることを期待します。(富山県生涯学習カレッジ学長 荒井克博)

名 前	活動プラン
 細畑 鋼一郎 ・厚生労働省推進認知症サポーター ・砺波市在住	これまで県民カレッジの生涯学習講座の受講を始め、認知症、高齢者支援に関する資格取得や子どもたちへのレクリエーション活動、ものづくりボランティアなど様々な活動に関わってきました。高齢社会を迎えるにあたり地域住民が支えあう共生社会となるよう、高齢者の認知症をサポートしあえる地域の絆づくりのための講座開設を目指します。 超高齢社会の中で、地域の中で学び、支え合う、大変重要な活動を目指している方です。(富山インターネット市民塾推進協議会事務局長 榎富雄) 計画していच्छる「認知症サポーター養成講座」はかなり専門性が高く、人材育成に関わるものなので、地方公共団体の厚生部局等からのアドバイスがあるとよいのではないかと 思います。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明) 今まで取り組んできたことや取得した資格を基に、社会貢献したいという細畑さんの強い思いに敬意を表します。講座内容が多岐に渡り、専門的知識が必要になってくることから、富山短期大学の田淵先生や関係機関との連携を十分に取られることをおすすめします。(富山県生涯学習カレッジ学長 荒井克博) 資格や実績を生かして頂ければ、参加者が楽しく学び、地域住民としての絆を深めていける魅力的な活動になりそう。(富山県公民館連合会事務局長 中村啓志)
 湊 輝男 ・富山県地球温暖化防止活動推進員 ・射水市在住	エネルギー管理士(経済産業省)、認定省エネルギー普及指導員(財団法人省エネルギーセンター)、および富山県地球温暖化防止活動推進員。省エネルギー推進ネットワークややまの世話人として、環境省、文部科学省および経済産業省からの省エネルギー普及啓発に携わっています。気候変動―地球温暖化現象に関して、過去の資料データ・文献や NASA、WMO、気象庁等のホットニュースをわかりやすく解説しながら、気候変動について知識を深めていくことを狙いとした講座を開講します。講座を通して、地球環境問題に関心を持つ人々を育てることを目指します。 インターネット市民塾の市民講師としての経験を生かし、今後は県民カレッジの県民教授に申請して頂き、自遊塾でも講座を開講されるなど、さらに生涯学習の分野の講師として活躍されることを願っています。(富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明) 地球環境問題に関して様々な角度から研究していच्छる態度には敬服します。今後は、より専門的知識を深められるとともに、地域の方や子どもたちにその成果を分かりやすく伝えることで興味関心を持ってもらい、その解決に向けて私たちができる日常的活動について啓発活動を行って頂けることを期待しています。(富山大学人間発達科学部教授 山西潤一) すでに数多くの実績を積み重ねられている湊さん。その講座の内容をより深めていくためにも、これまでの講座を振り返り、「よりわかる伝え方」や「学習者自身がそこからさらに一歩踏み出したい」講座づくりをめざしてください。期待しています。(富山大学人間発達科学部教授 黒田卓)



活動にあたってのサポート窓口

富山県生涯学習カレッジ TEL: (076) 441 - 8401
 富山県公民館連合会 TEL: (076) 444 - 5777
 富山インターネット市民塾推進協議会 TEL: (076) 439 - 8666

地域eパスポート研究協議会

出番づくり活動プランに記載する内容		記載のポイント
出番づくり活動プラン全体	1 活動そのものや、活動を広めようとする志しや熱意が感じられるよう表現を工夫しましょう。	
	2 第3者や制度を批判するのではなく、現状を良くしようとする目標意識や具体策をいみましょう。	
	3 地域の特性や課題を認識し、活動によってより深い地域理解や課題解決につながる点を伝えましょう	
	4 自身や活動について書 際には独りがりにならず、冷静かつ丁寧な説明と分析を行い、わかりやすい表現につとめましょう	
	5 活動プラン実現のためのご自身の力について示しましょう	
	5-1 自己実現力 活動プランの実現への取り組みに向けて、課題や目標をもち、取り組んでいること、自身の持ち味を活動にどのように生かすか示しましょう	
	5-2 人間関係力 活動プランや課題を共有し、仲間づくり、コミュニケーション形成にどのような努力をしているか示しましょう	
	5-3 プレゼンテーション力 活動プランを読む側の立場に立ち、わかりやすい表現に努めていること、写真や映像などITを活用し、その効果を生かした魅力ある表現に取り組みようとしていることを示しましょう	
	6 できるだけ活動に関わり合いの方、ご家族などに読んでいただき、文章に対する意見を頂き、改善していきましょう。また、相談会や関係機関との相談などを活用しましょう	
	1 これまでの活動実績を簡潔書きではなく、エピソードなどとともに具体的に示しましょう。	
実績・経験 (ページ目) 自分発見 仲間づくり(ページ目)は参考に、説明会に参加するまでの自分について振り返り、これまでやってきたこと、できること、学んできたこと、身に付けたことを活動プランに関連付けて書きましょう	1-1 社会生活や企業等での経験をもとに学んだことや身につけた能力	
	1-2 学習講座で学んだことや身につけた能力、経験について	
	1-3 活動プランに関わる趣味や特技	
	1-4 活動に関わるこれまで培った人脈	
	1-5 地域でのこれまでの活動の実績や取り組み	
	2 身につけた能力や経験、人脈、活動の実践が活動プラン実現のためにどのような役に立つか説明しましょう。	
	1 活動プランに向けた目標、課題と現在までの取り組みを示しましょう。	
	1-1 活動プランと関連した現在までの取り組みについて	
	1-2 活動プラン作成までの相談などの取り組みについて具体的な内容、対象者、関係機関について	
	1-3 現在までの達成状況と今後取り組みむべき課題について	
目標・課題と現在の取り組み (ページ目) 活動プラン準備シートを参考に、活動プラン実現のために説明会から今に至るまで取り組んでいること、達成できたことを書きましょう。	1-4 課題解決に向けた今後の取り組みについて内容、スケジュールについて	
	2 課題解決に向けた取り組みについて協力を受ける関係機関、グループ、人物等を示しましょう。それぞれどのような協力が必要か書きましょう。	
	1 地域住民や地域の活性化につながるテーマ、対象者を示しましょう。	
	2 これまでの活動や取り組みを踏まえ、この活動プランがどのように位置づけるか示しましょう。	
	3 活動プランの作成に至る問題意識や活動プランに対する地域のニーズ等の背景を示しましょう。	
	4 いっつ活動するのか、どこで活動するのか、どんなことを活動するのか、どのように活動するのかを活動プランに示しましょう。	
	5 活動での自身の役割、活動に関係する組織、人とその役割を示しましょう。	
	6 活動プラン実現による成果、効果 自分にとって、地域にとつて)を示しましょう。	
	7 活動プラン実現に向けた今後の取り組みを示しましょう。	
	7-1 現在までの取り組みを踏まえ、活動プラン実現に向けての課題	
活動プランの内容 (ページ目) これまで学んだことや身につけた経験、いま取り組んでいることをこれからどのように社会や自分のために役立てたいか、活動プランとしてまとめましょう。	7-2 課題解決に向けた今後の取り組みについて内容、スケジュール	
	7-3 課題解決に向けた取り組みについて協力を受ける関係機関、グループ、人物と協力の内容について	

活動プランづくりに役立つ道具 学びの貯金箱の活用について（1）

学んだことや企業、生活での
経験、実績、人脈、相談した
ことを整理してまとめ、伝えら
れるようにしておきたい...

紙にたくさん書いたのに、
どこにしまったか、わから
なくなった...



関係機関の
担当者

これまでどんな実
績があるのか、整
理してわかりやすく
伝えて欲しいな...

パソコンからみた学びの貯金箱の画面

★ 学びの貯金箱を確認する			
※最新書き込み3件を表示しています。		ダウンロード	
■参加講座参照	もっと見る	■参加サークル参照	もっと見る
■取得資格(3)	もっと見る	■読んだ本(3)	もっと見る
2013/01 ... 北海道アウトドアガイド... 2011/10 ... 観光士 2011/06 ... 越中富山ふるさとチャレン...		13/11/30 ... 伝え方が9割 13/11/07 ... 聞く力 心をひらく35の... 11/07/26 ... 心のライフライン	
■出会った人(3)	もっと見る	■社会活動(3)	もっと見る
11/11/20 ... 街歩きリーダーの堀さん... 11/11/07 ... 整理アドバイザー土屋さん... 05/07/07 ... 観光ボランティアリーダー...		13/11/07 ... 観光ボランティアガイド ... 13/11/07 ... プラ富山街歩き企画 13/10/07 ... 観光ボランティアガイド ...	
■趣味・特技(3)	もっと見る	■職歴(3)	もっと見る
10/10/13 ... 富山の町めぐり 08/09/25 ... アウトドア活動(キャンプ... 08/06/21 ... 日常生活レベルの英会話...		10/01/07 ... 富山市観光協会ボランティ... 07/01/07 ... シルバー人材センター... 84/01/07 ... 不二越	
■学習・訓練歴(4)	もっと見る	■長所(自己PR)(3)	もっと見る
2013/08 ... 高志の国文学専門講座「活... 2013/01 ... 高志の国文学専門講座「探... 2012/06 ... とやま弁の歴史講座		08/10/18 ... 人の輪の中に加わることが... 04/11/10 ... なんでも物おしせずチャレ... 04/09/23 ... 駐在時に習得した英会話...	
■短所(2)	もっと見る	■モチベーション(148)	もっと見る
14/01/07 ... 目の前のことに夢中になり... 10/08/19 ... 計画性がないとよく指摘さ...		13/12/27 ... 😊 観光ボランティアミーティ... 13/12/26 ... 😊 英語学習会 13/12/19 ... 😊 高志の国文学専門講座...	

なるほど！
この実績を生か
せば、公民館でこ
んな活動が考え
られますよ！
適切なアドバイ
ス
ができてよかつ
た！

「学びの貯金箱」は項目立てがあるから
整理して記録できる！
電子的な記録だからいつでも見返すこと
で振り返りができるし、伝えやすい



関係機関の
担当者

活動プランづくりに役立つ道具 学びの貯金箱の活用について（2）

活動プランを実現するために、何から順に始めればいいのか、頭の中が整理できない...
今始めてることをちゃんとまとめておきたい



1番目の 取り組み

★ 短期目標	
目標：	英会話教室を通じて、関心がある人を集める
課題：	外国語観光ボランティアの事例や、富山の観光ボランティアが行っていることを調べて伝える
達成度：	□□□□□ (3 / 5レベル)
達成期間：	13/12/17 ~ 14/03/11
アドバイス：	アドバイスはありません

実現のために
何を「どのよう」に
取り組むか

★ 長期目標	
目標：	外国人を対象に富山の街なかを案内する観光ボランティアのグループを立ち上げる
達成期間：	13/12/17 ~ 14/03/31
アドバイス：	アドバイスはありません
もっと見る 長期目標を作成する	

活動プランとして
実現したいこと！

2番目の 取り組み

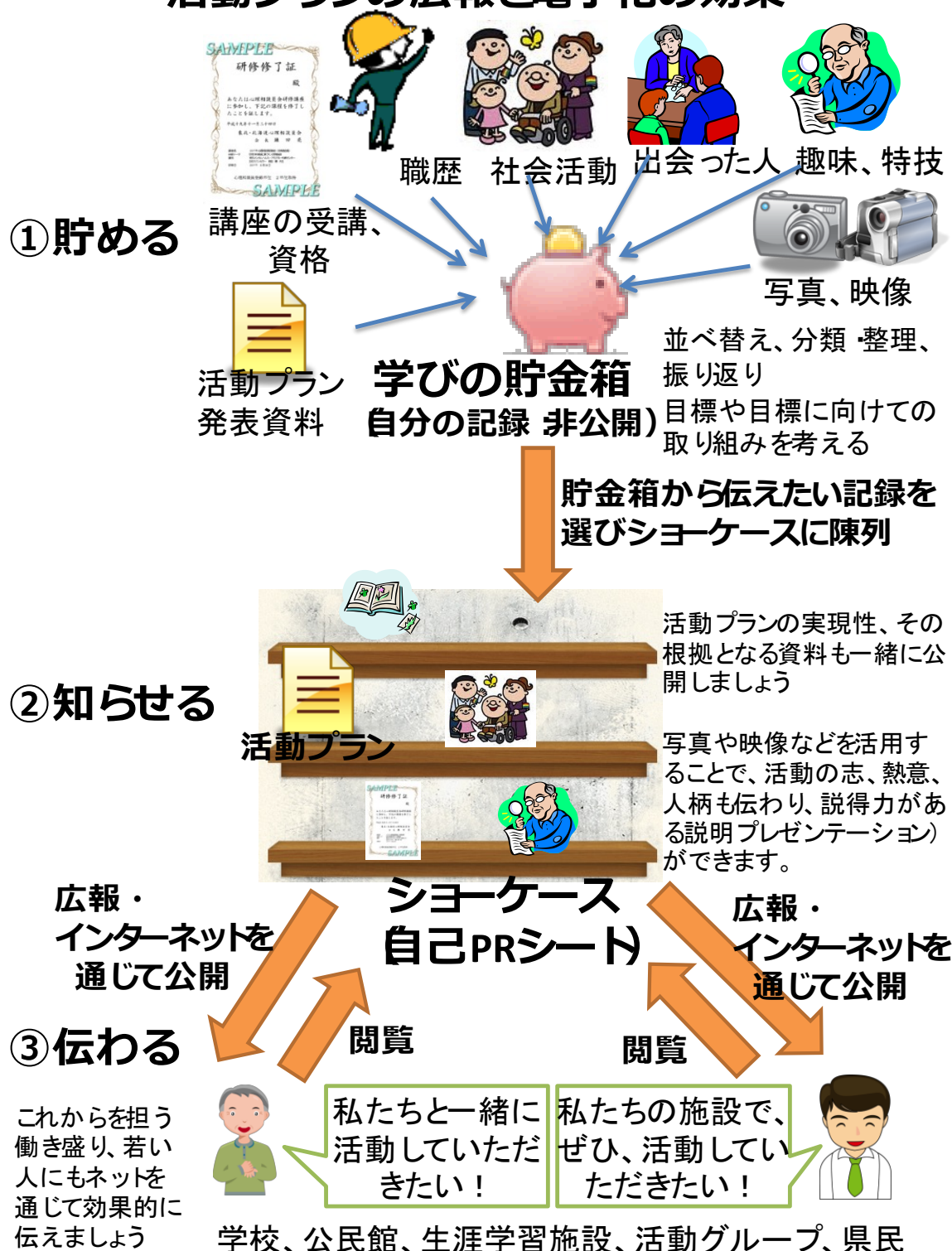
★ 短期目標	
目標：	富山市の観光ボランティア団体を訪ね、外国人向けの観光ボランティアについて賛同していただく。
課題：	協力していただきたいことと、自分たちが観光ボランティアとして可能なことをまとめてわかりやすく伝える
達成度：	□□□□□ (0 / 5レベル)
達成期間：	14/01/07 ~ 14/01/23
アドバイス：	アドバイスはありません

3番目の 取り組み

★ 短期目標	
目標：	外国人の方に、富山についてわかりやすく伝えるための間庵帳を用意する
課題：	外国人の方に関心を持ってもらえそうなことを、知り合いの外国人から教えてもらう 観光ボランティアの方に、人気のあるスポットやスポットの情報を教えていただく
達成度：	□□□□□ (0 / 5レベル)
達成期間：	14/02/17 ~ 14/03/17
アドバイス：	アドバイスはありません

実現のために
何を「どのよう」に
取り組むか

活動プランづくりに役立つ道具 学びの貯金箱の活用について（３） 活動プランの広報と電子化の効果



ライブラリ

- 14/02/01 ... テストサンプル3
- 14/02/01 ... テストサンプル2
- 14/02/01 ... テストサンプル1

もっと見る ライブラリに追加する

※ライブラリ追加後、内容を変更したい場合は、編集も可能です。

●「ライブラリに追加する」を押して下さい。

マイライブラリに追加する

タイトル
(必須)

内容

添付資料
(必須)

サムネイル

作成日

公開範囲

キーワード

確定画面

●タイトルを記入します。
・新聞などの日付をもとに時系列で整理されたい方は、タイトルに日付を入れることも可能です。

●内容を記入します。
・タイトルだけでは伝えられない内容を記入していきます。活動に至ったプロセス、きっかけ、感じたこと、反省点など何でも良いです。その時の状況が伝わるように工夫して下さい。

●データを選択します。
・事前に準備頂いた画像データや動画データを選択します。

★まずは、作成した「活動プラン」を追加しよう！

※この時点では「非公開」となっています。
内容に相違なければ、確認画面を押して完了です。

「ショーケース」の活用方法について

学びのまとめ

これから自分の生かし方を考える [詳しく見る](#)

ポートフォリオを確認しながら自分を振り返りましょう。

わたしのショーケース

● **（仮）自己PRシート** 2014年2月4日

● **テストサンプル** 公開

[新しく自己PRシートを作成する](#)

●「新しく自己PRシートを作成する」を押して下さい。

関係機関担当者

公開
閲覧

●活動プラン（氏名）として下さい。

●ショーケースに追加した電子データのみが「公開」されました。これで第3者からの閲覧が可能となり、広報活動のスタートとなります。

自己PRシート

タイトル **「（仮）自己PRシート 2014年2月4日」** [編集する](#)

氏名 田中 権人（たなか けんご）

職業 会社員（フルタイム勤務） [編集する](#)

公開範囲 [アドバイザーのみ公開](#) [編集する](#)

メモ [編集する](#)

認定状況 「（未選択）」申請されていません。

公開URL http://toyama.shimajuku.com/?member&area_id=showcase&target_id=showcase_id

* この自己PRシートをいつでも公開・このURLを相手に共有することができます。

自己PRスライド

[自己PRスライドを作る](#)

わたしの経歴

★ [受講終了講座](#) (0) ★ [出会った人](#) (0) ★ [教習](#) (0) ★ [選考](#) (0)

★ [取得資格](#) (0) ★ [社会活動](#) (0) ★ [宝貴な経験](#) (0)

★ [進んだ本](#) (0) ★ [趣味・特技](#) (0) ★ [長所（自己PR）](#) (0)

プレゼンテーションファイル

登録されていません [追加する](#)

自己PRシートに追加するライブラリを選択する

2014年02月04日	2014年02月01日	2014年02月01日
		
活動プラン(田中)	テストサンプル3	テストサンプル2
テスト	テスト サンプル3	テスト サンプル2
更新日: 2014/02/04 19:31	更新日: 2014/02/01 11:55	更新日: 2014/02/01 11:55
公開しない	公開しない	公開しない
追加する	追加する	追加する

●ライブラリに追加したデータが表示されます。

●「追加する」を押して下さい。追加すると「公開」となります。

※ 自己PRシート「（仮）自己PRシート 2014年2月4日」プレゼンテーションファイル一覧に戻る

資料 10 活動プラン発表会・表彰開催記録

「ICT の活用による学習成果の評価・活用に関する調査研究」 出番づくり応援プログラム 活動プラン発表会 開催記録		
開催日時	平成26年2月23日(日)	15:30~17:30
開催場所	富山県教育文化会館 403 号室	
出席者	富山県民生涯学習カレッジ	荒井学長、石倉副学長、森氏
	富山県教育委員会 生涯学習・文化財室	木村室長、広瀬氏
	富山県公民館連合会	中村事務局長
	富山大学人間発達科学部	山西教授(代表)、黒田教授
	NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会	柵理事長
	国立教育政策研究所	立田氏
	富山インターネット市民塾 推進協議会 事務局	杉本氏、吉田氏、熊野氏
	事務局	(株)ジェック経営コンサルタント 谷優美子、田中雅人
議 事	1. 挨拶 2. 活動プラン発表 3. 表彰及び講評	
協議内容	3. 挨拶 (1) 富山県教育委員会 生涯学習・文化財室長 木村氏 (2) 国立教育政策研究所 統括研究官 立田氏   2. 活動プラン発表 (1) 広報(Web+映像、冊子)について ・事務局より今後の広報活動についてご説明させて頂く。 	

(2) 活動プラン発表

・以下9名の方に活動プランの発表を頂いた。

- ①加賀谷辰夫氏：「富山の魅力～富山県民だからこそ知っておきたい、
そして、ほかの人にも熱い想いを持って伝えたい～」
- ②川田有紀子氏：「伝統芸能の能楽をわかりやすく楽しく学ぶ」
- ③白石正人氏：「富山の古文書を読み解く」
- ④坂東喜行氏：「ケアウィル勉強会ホームページ作成
ーめざそう！ケアのある暮らし＜元気高齢者からの発信＞ー」
- ⑤古草雅美氏：「館から環へ」
- ⑥細畑鋼一郎氏：「認知症 脳トレ」
- ⑦藤田勇信氏：「いきいき古刹探訪」
- ⑧湊輝男氏：「地球温暖化のいろいろ」
- ⑨大谷矢辰則氏：「笑って元気・富山（笑いの体操）」



①加賀谷さん



④坂東さん



⑦藤田さん



②川田さん



⑤古草さん



⑧湊さん



③白石さん



⑥細畑さん



⑨大矢矢さん

3. 表彰及び講評

(1) 表彰

・活動プラン提出者及び本発表会にて発表頂いた中から、以下3名の方を表彰させて頂いた。表彰者は地域eパスポート研究協議会代表 山西氏。

- ①加賀谷様：ふるさと富山の魅力アップと知のおもてなしに期待

②川田様：伝統芸能の素晴らしさ、楽しさを新たな形で地域に伝えることに期待

③大谷矢様：心と身体をユニークな方法で元気にすることに期待



①加賀谷さん



②川田さん



③大谷矢さん

(2) 全体講評

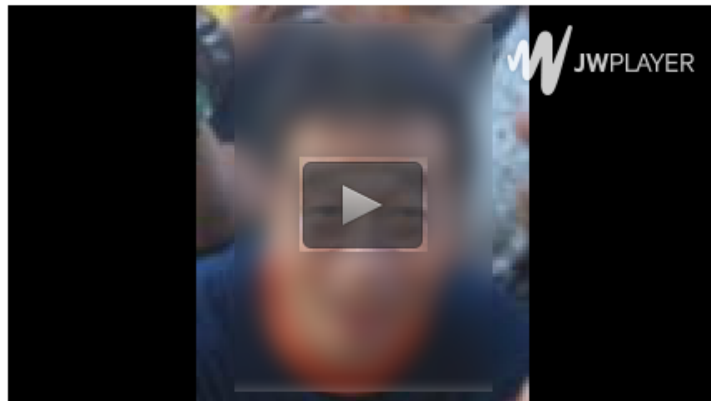
- ・富山県民生涯学習カレッジ学長 荒井氏より全体講評を頂く。



以 上

資料 1 1 学びを活かす「地域人材」紹介冊子配布先

	配付先			箇所
1	県関係	県教委	教育委員会事務局、各室（課）等	15
			生涯学習室	1
		その他	県庁各室（課）	60
			議会事務局	1
			出先機関・県関連施設・その他施設など （美術館、博物館、自然の家、研修センター、財団等）	78
3	高等教育機関（大学・専門学校等）・育成機関			12
4	高校	県立学校（54）及び私立学校（11）		65
5	市町村関係	教育長・行政（教育）センター長・事務局 （管内小中学校含）		389
		市町村住民窓口（役所、行政センター等）		34
		生涯学習施設（美術館、博物館、自然の家等）		88
		地区公民館・コミュニティセンター		270
		図書館（富山市他32）		32
		富山市立公民館（50）		50
		富山市立図書館（25）		25
生涯学習団体（県民カレッジで開講している団体等）			138	
6	協賛企業			33
7	教育文化会館			50
	会館内　その他の団体（ルーエを含む）			1
	県民カレッジ	本部		1
		各4地区センター		4
		映像センター		1
		予備		
計			1348	

	氏名	ストレスや健康についての悩みの多い現代社会。笑うと楽しくなります。プラス思考になれる。プラス思考の人々が多くなれば社会も元気になります。笑って元気・富山をテーマに「笑いの体操」（ラフターヨガ）をとおして、ストレス解消・健康づくり、地域のコミュニケーションづくりを目指します。
>> 連絡する >> 詳細を見る	活動プラン 発表映像	
応援 メッセージ	今後とも、サークル活動等を充実されるとともに、県民力レッジの県民教授に申請していただき、自遊塾で講座を開講するなど、活躍の幅を広げていただきたいし、公民館でも活動されるのがよいのではないかと思います。（富山県教育委員会生涯学習・文化財室長 木村博明） 心の健康が、体の健康につながることをご自身が体験され、同じように悩む人への手助けをしたいという、 さんの志に敬意を表したいと思います。既に多くのボランティア活動をされるなど活躍しておられます。さらにその経験を生かし、地域の公民館活動で「ラフターヨガ」が取り入れられることを期待しています。（富山県民生涯学習力レッジ学長 荒井克博） 「○○名人」として手を挙げて、公民館などで広めていただけるとありがたい。地域の連帯感、いざというときの「住民共助」に大きく役立つのでは。（富山県公民館連合会事務局長 中村啓志） だれでもできる、ひとり一人が元気になる、とても良い活動です。ぜひ広まるよう、地域からの応援に期待します。特に県東部はこれからとのこと、よろしくお願いします。（富山インターネット市民塾推進協議会事務局長 柵富雄）	
>> 連絡する >> 詳細を見る		

＞ 自己PRシート

タイトル 「 出番づくり活動プラン プレゼン 」



氏名

職業

会社員(フルタイム勤務)

認定項目

「(未設定)」

自己PRスライド

[自己PRスライドレビュー](#)

★ わたしのビジョン (将来に対する目標や希望です)

- [富山に笑いを広める!](#)

★ わたしのコンピテンシー (様々な取り組みや活動を通して、学んだことや身につけた力です)

- [自分を高める力] [笑うだけです](#)
- [人間関係を作る力] [笑いでコミュニケーション](#)
- [道具を使う力] [道具は使用しません!笑うだけです。](#)

★ わたしのアクティビティ (今取り組んでいる活動です)

- [ラフターヨガのボランティア活動](#) [ラフタークラブ活動の立ち上げ](#)

★ わたしの成果 (これまでの取り組みによる実績です)

- [ボランティア、積極的にいっています!](#)

★ わたしの経歴

★ 受講修了講座 (0)

★ [出会った人 \(1\)](#)

★ 職歴 (0)

★ 短所 (0)

★ [取得資格 \(3\)](#)

★ [社会活動 \(40\)](#)

★ [学習・訓練歴 \(6\)](#)

★ 読んだ本 (0)

★ 趣味・特技 (0)

★ 長所(自己PR) (0)

★ プレゼンテーションファイル

- [出番づくり活動プラン プレゼン](#)
- [参考映像④ セッションの風景2](#)
- [参考映像④ セッションの風景1](#)

[一覧を見る](#)

資料 13 eポートフォリオシステムの概要

学遊ネット eポートフォリオの活用と改善点

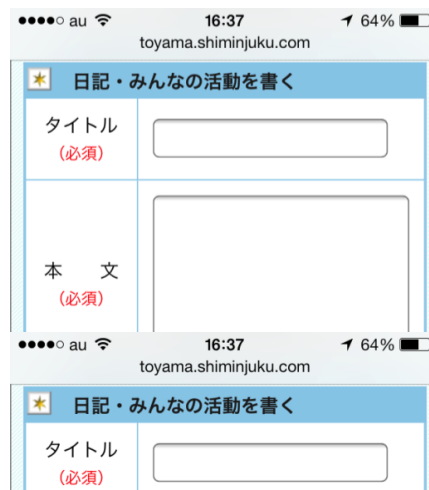
※オレンジ内がシステムの改善点



QRコードリーダーアプリ
を使いスキャン



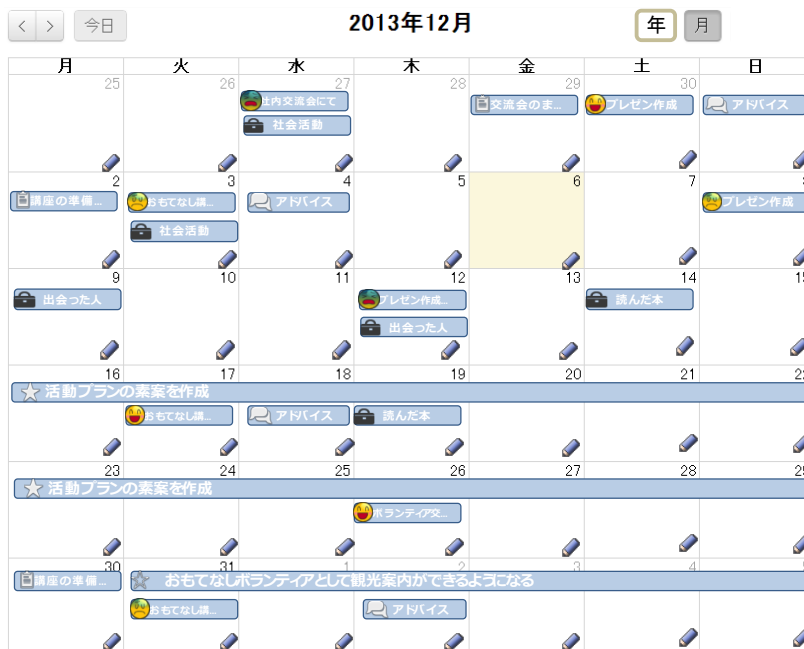
スマートフォンのブラウザが開き、パスワード
の入力後、eポートフォリオを利用する



取得資格、読んだ本、出会った人
社会活動、趣味・特技、職歴、
学習・訓練歴、長所、短所から選択



カレンダー表示部の詳細



アイコンと表示される内容

-  活動の記録・・・活動内容
-  モチベーショングラフ・・・できごと
-  短期目標・・・目標
-  長期目標・・・目標
-  学びの貯金箱・・・種類)
-  アドバイス・・・タイトル

マークをクリックでポートフォリオの入力

カレンダー表示部の詳細

2013年12月

マークをクリックで入力メニューがフローティング表示される

アイコンをクリックで各記録を表示

フローティング表示された入力メニューから入力したい項目を選択することで、選択した項目の入力画面へ遷移する

活動履歴

活動内容	学んだこと	感想	画像	実績	アドバイス	更新日時
アドバイザにのみ公開 2011年07月05日		自己分析の結果シートを返却してもらった。過去の出来事は？と聞かれると、ついマイナスイメージに陥りがちだが、冷静に振り返るとやる気をもって取り組んだこと		未登録	アドバイスはありません	2011年08月18日 20:44

1件中 1件～1件を表示

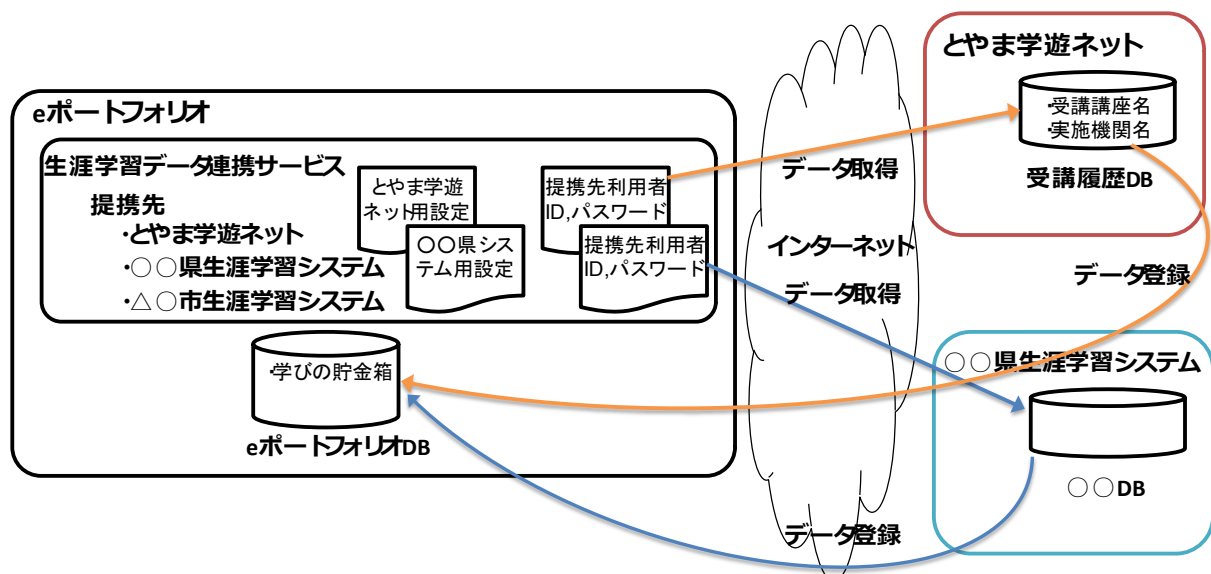
マイポートフォリオへ アドバイス一覧へ 活動履歴一覧へ

資料 1 4 eポートフォリオシステムと生涯学習支援システムとの連携

・eポートフォリオ上に「生涯学習データ連携サービス」を設置し、提携した生涯学習システムにて管理されているデータについて、eポートフォリオへのネットワーク経由でのデータ取得登録（インポート）をサポートする。現在は、csvファイルのダウンロード、アップロードにより手動で登録を行っている）

・生涯学習データ連携サービスでは、eポートフォリオの利用者は、あらかじめ提携した生涯学習システムのID、パスワードの登録を行う。また、eポートフォリオに登録するデータについて、提携した生涯学習システム名「生涯学習システム上のデータ項目」、「eポートフォリオ上での登録先」を指定する。

・本年度の事業では、富山県民生涯学習カレッジの「とやま学遊ネット」を提携先とし、「生涯学習システム上のデータ項目」として、とやま学遊ネット「マイページ」講座バスポートにて表示される「受講履歴」、eポートフォリオ上での登録（インポート先として、eポートフォリオ「学びの貯金箱」学習・訓練歴）とする。



生涯学習データ連携サービス

選択	取得先システム	取得データ	取り込み先	
☒	とやま学遊ネット 設定	▼受講履歴	▼ 学びの貯金箱 学習・訓練歴	取り込む 履歴
☐	〇〇県生涯学習システム 設定	▼受講履歴	▼ 学びの貯金箱 学習・訓練歴	取り込む 履歴

マイページ
さんのページ
 ログイン

[マイページトップ](#)

講座利用メニュー

受講講座申込 主催講座申込 講座バスポート

修習資料利用メニュー

予約申込 発行履歴

マイページメニュー

[おねわ住宅探検!](#)
[学習帳手帳](#)
[ネットサークル](#)
[学習マガジン](#)

[講座バスポート 講座](#)

☐ さんを受講履歴です。

取得単位			
受講講座数	97	1/10 ページ	
取得単位数	1150	全部で 93 件の情報が表示します。 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 次へ>>	
認定単位	9巻	No.	受講年度
認定機関	県民カレッジアドバイザー		単位

No.	単位	取得年度		
1	500	平成10年度	[B001]	
2	100	平成11年度	[B002]	
3	200	平成12年度	[A013]	
4	300	平成13年度	[B002]	
5	400	平成14年度	[L001]	
6	500	平成15年度	[L001]	
7	600	平成17年度	[H012]	
8	800	平成18年度	[H012]	
9	1000	平成19年度	[H013]	
10	2000	平成20年度	[H013]	

1 平成21年度 QB01 平成21年度市民カレッジ夏季講座 [夏季講座-本部] 5

2 平成20年度 QB02 夏季講座 / より豊かな人間性を求めてー知と感性の新たな出逢いー [夏季講座-本部] 5

3 平成20年度 JA131 新川町地区教養講座 ふるさとに学ぶ [教養講座-利川] 20

4 平成20年度 HB132 富山地区教養講座 豊かな暮らしを求めてー学びの糸継ろー [学習研修講座-富山] 20

5 平成20年度 HB133 広域交流講座 / 市と地域城市をつなげるーとみなみの蔵材村の歴史文化ー [広域交流講座] 10

平成20年度 K0047 富山県立図書館開館20周年記念事業

学遊ネットマイページ 講座パスポート画面

★ 学びの貯金箱に貯める		
★ 学習・訓練歴を登録する		
★ 学習・訓練歴の記録一覧		
4件中 1件～4件を表示		
アドバイザにのみ公開 2013年06月 ～2013年12月	名称	高志の国文学専門講座「活用実践コース」
	実施機関名	富山県民生産学習カレッジ
	感想	
	アドバイス	アドバイスはありません
		編集
アドバイザにのみ公開 2013年01月 ～2013年05月	名称	高志の国文学専門講座「探究コース」
	実施機関名	富山県民生産学習カレッジ
	感想	
	アドバイス	アドバイスはありません
		編集
アドバイザにのみ公開 2012年06月 ～2012年06月	名称	とやま弁の歴史講座
	実施機関名	
	感想	
	追加先自己PRシート	▶(既)自己PRシート:2013年1月16日(申請されていません)
	アドバイス	アドバイスはありません

eポートフォリオ 学びの貯金箱 学習 訓練歴 | 画面

受講履歴として
以下の項目を
取り込む
・講座名
・受講年度
・主催者名

とやま学遊ネット 講師・指導者検索画面



講師・指導者



登録いただいた講師・指導者についての住所・電話番号等の連絡先情報はプライバシー保護のため、インターネット上では公開していません。連絡先情報や、登録者以外の講師・指導者情報が必要な場合は、学習相談窓口にご相談ください。

[学習相談窓口一覧へ](#)

● **キーワード**

講師名(雅号)・よみがな、指導可能テーマなど

☒ and ☐ or

and(かつ)・・・入力したキーワードのすべてにあうものをさがす
or(または)・・・入力したキーワードのどれかにあうものをさがす

検索

詳細検索へ

1 / 2 ページ

全部で 96 件の情報があります。

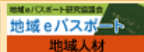
1 2 [次へ>>](#)

50 ▼

[表示件数変更](#)

No.	講師・指導者名 (雅号)	指導可能分野	居住市町村 (講師区分)
1	講師 一四郎 (雅号講師 号一四郎) 地域 e バスガート 市民講師 地域 e バスガート 地域人材	生涯学習一般 乳幼児教育 青少年教育	富山市 (県内講師)
2	講師 一三郎 (雅号講師 号一三郎)	押し花・絵手紙・フラワーアート・工作 生活科学・生活設計 パソコン・ワープロ その他の市民生活・国際理解 ドメステック・バイオレンス	朝日町 (県内講師)
3	講師 一四郎 (雅号講師 号一四郎)	押し花・絵手紙・フラワーアート・工作 生活科学・生活設計 パソコン・ワープロ その他の市民生活・国際理解 ドメステック・バイオレンス	朝日町 (県内講師)
4	講師 一太郎 (雅号講師 号一太郎) 地域 e バスガート eメンタ	外国の自然・地理・生活 保健衛生・食品衛生 統計数理 創造性開発 資格取得	朝日町 (郷土出身)

とやま学遊ネット 講師・指導者情報画面（検索画面から人名をクリックすると表示）

よみがな	しけん こうしこ
講師・指導者名	試験 講師
雅号(芸名)よみがな	てすと ていーちゃー
雅号(芸名)	テスト ティーチャー
人材バッチ	 
性別	男
講師区分	県内在住講師
居住市町村	富山市
ホームページ	http://aaaaaaaa/aaaaaaaa ホームページ
指導可能分野	生涯学習一般 乳幼児教育 青少年教育 成人教育 カテゴリ補足
活動可能時間	活動可能な時間帯です。 活動かいのうです。
活動可能地域	県内全域
肩書きなど	肩書
所属団体など	所属団体